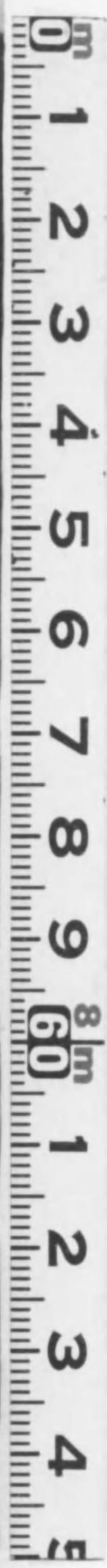


石川

香斗

特36-540  
\*1200800187777\*

特36  
540



始



鴻齋先生口述

春秋左氏傳講義

東京 寬裕舍

春秋左氏傳講義

先生之講左氏也博引旁搜動輒陳述  
數十家之說至若枝葉交錯縱橫生議  
論聞者不能盡筆記斯編特取孔穎達  
之疏且以林堯叟附註呂祖謙博義黃  
世宗翼羽顧炎武補正其他國朝中井  
大田錦城安井息軒及先生

考證等、但以俗談平話記之。爲使童蒙  
易讀易解也。盡錄之。一句半章之解。將  
及數百言。故僅筆什之一而已。若欲識  
其審。請就先生問焉。筆者誌

平田登圃書



春秋左氏傳講義

○凡例

○左傳ヲ説ク書數種アリ、然レ共杜元凱ノ註、專  
ラ世ニ行ハル、而シテ杜註ヲ讀者、遂ニ左氏ヲ  
解スル事アタハス、孔穎達ノ疏、最詳ナリ、而シ  
テ孔疏ヲ閱スル者、亦悉ク左氏ヲ解スル事ア  
タハス、先生ノ左氏ヲ講スル、諸書ヲ參考シテ、  
其善良ナル者ヲ折衷シ、俗談平話ヲ以テ、童蒙  
ニモ解シ易ク、曉シ安カラシム事ヲ專務トス、今

筆記スル所、十ガ二三ニ過ズト雖トモ、文義ヲ講スル所、大約泄ス事ナシ、諸説ヲ引用シ、及ヒ書法、文法等ニ至テハ、盡ク誌スニ遑アラス

○此編、本記臆ニ備ルノミ、他人ニ示ス可キモノニ非ス、今書肆ノ需ニ應シテ寫録ノ儘、梓ニ付ス、文義ノ鄙野ナル、前後ノ錯雜ナル、讀者之ヲ恕セヨ

○繁畫ノ字、及ヒ艱澁ナル字ハ、國字ヲ以テ音訓ヲ施ス、故ニ本書ノ音義ヲ刪ル、簡略ノ字ト雖

モ、諸家訓ヲ異ニスル者ハ、先生亦一家ノ説ヲ主張シテ訓ヲ施ス、唯童蒙ニ讀易カラシム事ヲ欲スル也

○假字ノ違ヘル等、國學者流、專ラ之ヲ攻撃ス、余輩其攻ニ與カラス、唯文意ノ通ゼン事ヲ專務トスルノミ

○先生ノ左氏ヲ講スル、或ハ一句ノ語、枝葉横出、遂ニ一講ニ餘ル事アリ、悉ク之ヲ録セハ、讀者倦怠ヲ生セン事ヲ恐レ、僅ニ緊要ノ語ヲ撮ル

ノ、且左氏ヲ聽者、風雨寒暑ヲ畏レス、一日モ  
欠席セザル者亦稀ナリ、此編ヲ閱セハ坐シテ  
師ヲ迎ルニ同シ、入校通學ノ煩ヒナク、遽ニ業  
ヲ卒ントス、蓋亦學事ノ捷徑也

筆者誌

春秋左氏傳序講義 晉 杜元凱集解

石川鴻齋先生口述 門人 松本謙 小澤瑳 筆記

序 公羊傳ノ疏ニ曰ク、序ハ舒ナリ、己レカ意ヲ舒展シ、以テ經傳ノ義ヲ次叙ス、尚書ノ註疏、毛傳ニ曰ク、序ハ緒

左傳正義ニ序ハ叙ト音義同シ、曲ハ登ノマニ也 吳主孫皓

ナリ、則其事ヲ述ブ、理相胤續セシム、爾ノ緒ヲ鈎クガ若シ、此序ハ晉ノ杜元凱カ作ル所也、元凱名ハ預、晉武  
吳ヲ伐ツ、預江陵ニ出ツ、時ニ王濬巴蜀ヲ下シ、預ト兵ヲ合セテ武昌ヲ攻ム、吳ノ將、懼レテ曰ク、北來ノ諸軍  
飛テ江ヲ渡ルカト、吳主面縛シテ出テ降ル、大康元年、吳始テ平キ、襄陽ニ還リ、春秋左氏傳集解ヲ爲ル、又諸  
家ノ譜第ヲ参考シ、釋例ヲ爲リ、又春秋長歷ヲ作り、一家ノ學ヲ成スト、正義ニ曰ク、此序、或ハ春秋序、或ハ左

文帝諱昭字子

周公ハ武王ノ弟也

武王ノ九年ニ周公

破リ封ヲ殺ス武王

崩シテ成王尚幼ナ

リ周公成王ニ代テ

政ヲ攝ス其子伯禽

ヲシテ魯國ノ封ニ

就カシム史記世家

ニ詳カナリ

氏傳序或ハ春秋經傳集解序或ハ春秋左氏傳序晋宋  
古本及ヒ今ノ定本竝ニ云ク春秋左氏傳序ト今依  
テ之ヲ用ニ陸德明音義ヲ作ル今國訓ニヨリテ讀マ  
シム故ニ音義ヲ載セズ且孔疏序註殊ニ多ク今本文  
ニ讓リテ之ヲ畧ス讀者隨テ解ス  
ベシ但シ緊要ノ處ヲ講スルノミ

春秋者魯史記之名也

魯ハ周公ノ封ゼラル所史記  
ハ魯國ノ史官カ書スル所ナリ

正義ニ春秋ノ名見ル所ナシ昭二年韓起魯ニ聘シテ  
魯ノ春秋ヲ見ル外傳晋語ニ司馬侯晋ノ悼公ニ對テ  
曰ク羊舌肸春秋ニ習フ孔子以前ニ此名アリ  
ソ左スレバ春秋ノ名ノ起リ詳カニシ難シ記事者

以事繫日以日繫月以月繫時以時繫年所以紀遠近

別同異也。繫ルハ下ヲ以テ上ニ綴リ末ヲ以テ本ニ連  
スルノ辭ナリ此ノ日ヲ言テ此事アリ故ニ

事ヲ以テ日ニ繫ク月ハ日ヲ統ブ故ニ日ヲ以テ月ノ  
繫ク時ハ春夏秋冬ノ四時ナリ月ヲ統ブ故ニ月ヲ以  
テ時ヲ繫ク年ハ時ヲ統ブ故ニ時ヲ以テ年ニ繫ク年  
月遠近ヲ紀シ事ノ同異ヲ分ツ所以ナリ一事ヲ書ス  
ル必ス年時月日皆具リテ繫ク或ハ時アリテ日ナク  
月アリテ時ナキ者アリ史官之ヲ失フナリ孔子モ又  
舊文ヲ改メズ孔子ノ後又後人傳寫ノ誤リ  
ニテ脱漏スルモノアリ每段大約詳記ス故史之

所記必表年以首事年有四時故錯舉以為所記之名

也。故ニ史官ノ記スル所必ス年ヲ表シテ事ヲ記スルノ  
初メトス年ニハ春夏秋冬アリ故ニ春ニハ夏ヲ錯ヘ  
秋ニハ冬ヲ錯ヘ舉テ上ノ一時ヲ取リテ夏  
冬ヲ兼ネ春秋ノ二字ヲ以テ名ツケシナリ周禮有

史官掌邦國四方之事達四方之志諸侯亦各有國史

表ハ頭ナリ首ハ初

メナリ

史ノ事ヲ記スル一

月事無ケレハ空シ

ク月ヲ舉ケズ一時

事無レトモ時ヲ舉

ルモノハ四時具ハ

ラザレバ歲ヲ為ナ

周禮ニ小史職ハ邦國ノ志ヲ掌ル、内史職ハ四方ノ事  
書ヲ讀ム、外史職ハ四方ノ志ヲ掌ル、志ハ誌ト同シ、事  
ヲ書スルノ誌ナリ、諸侯モ亦各國々  
ニ史官カ有リテ、紀錄ヲ掌ル者アリ、**大事書之於策**

蔡邕カ獨斷ニ策ハ  
簡ナリ、鄭玄モ亦曰  
ク策ハ簡ナリ、然ラ  
バ策簡一物ナルベ  
シ、或ハ曰ク、單ニ一  
札ヲ執ルヲ簡ト云  
ヒ、連ネテ諸簡ヲ編  
ムヲ策ト云フ、

### 小事簡牘而已

大事ハ君ノ事ヲ舉ル始末或ハ、大廟ニ  
告ル事、國家ノ存亡戰爭ノ類、皆コレヲ  
大書シテ、策ニ書スルナリ、策ノ寸法、二尺四寸、又是ヲ  
簡トモ云フ、竹ヲ以テ製シ、雕書スルナリ、小事ハ言語  
文辭等ヲ云フ、簡牘ハ方版ナリ、說文ニ簡ハ牒ナリ、牘  
ハ書版ナリ、畧シテ云ヘハ、大帳ト小帳トニシルス義  
ナリ、簡牘ト云ヒ、策ト云フ、後世傳ハラス、紙ヲ以テ製  
スルニ、古ノ簡策ノ如キハ諸說アリト雖モ、詳カニ  
知レガ  
孟子曰楚謂之擣杙晉謂之乘而魯謂之春  
秋其實一也。孟子離婁ノ篇ニ出ツ、擣杙ハ四凶ノ一ニ  
シテ頑凶ニシテ儔匹ナキノ名、是ハ惡事

一曰擣杙ハ惡獸ノ  
名、

フシルスト云コラシメニ惡人ノ名ヲ以テ記シタル  
ナリ、乘ハ車乘ナリ、田賦乘馬ノ事ニ興リタル名ト云  
フ、楚晉名ハ異ナリト雖、**韓宣子適魯**、宣子ハ名ハ起  
世、其事ヲ書スルハ同シ、**見易象與魯春秋曰周禮盡在魯矣**  
適クテ昭公ノ  
二年ニアリ、

### 吾乃今知周公之德與周之所以王

周易ノ象ノ辭ト、春秋  
ノ褒貶正シキトヲ見

テ周公ノ德ト、又周ノ天下、**韓子所見蓋周之舊典禮經**  
也。韓子カ見ル所ハ周ヨリ傳ヘタル禮法ヲ書セシモノ、  
或ハ古記録ニシテ、春秋ニテハアルマシト疑ヒタル  
ナリ、蓋シハ疑辭ヲ發、**周德既衰官失其守上之人不**  
能**使春秋昭明**、赴告策書、諸所記註多違舊章、  
周ノ德

禮ヲ製シ樂ヲ作ル  
ハ周公ノ爲ス所、策  
書禮經モ周公ノ制  
スル所、或ハ曰ク史  
官ノ書スル所、周公  
ノ舊制ヲ存ス、故ニ  
春秋ヲ見テ、周禮ハ  
盡ク魯ニ有リト云

史記十二諸侯年表  
序ニ孔子西ノカタ  
周室ニ觀テ史記ノ  
舊聞ヲ論シ魯ニ興  
リテ春秋ヲ次ス

衰ヘ、史官モ其守リヲ失フ、春秋ノ書法、衰敗皆宜シキ  
ヲ失フ、赴ルヲ記スルハ、皆周公ヨリ傳ハレル規則ニ  
違ヘリ、若シ周公ノ遺法ヲ守リテ書スレバ、孔子春秋  
ヲ筆削スルニ及バズ、今悉ク古法ニ違フ、衰敗勸戒ヲ  
シテ略ラカナラシム  
仲尼因魯史策書成文考其真  
ルヲ能ハザルナリ

偽而志其典禮上以遵周公之遺制下以明將來之法

孔子魯ノ史ニ因テ其真カ偽カラ考ヘ、典禮ニ合フ者  
ハ褒シ、禮度ニ違フ者ハ貶ス、皆古ヘノ周公法ヲ立テ  
シ制度ニ倣ヒ以來ハ世ノ法トナルベキ事ヲ明カニ  
ス、公羊傳ハ疏ニハ孔子周ノ史記ヲ求メ百二十國ノ  
賢書ヲ得テ立ドコ  
其教之所存文之所害則刊而正  
ロニナルト云フ

之以示勸戒。教ノ存スル所若シ文中ニ褒貶モ無ク、勸  
善懲惡ノ意ニ欠ルモノハ、文ノ害スル所

皆刊リテ之ヲ正ス、後世  
ニ勸戒ヲ垂ル所以ナリ、其餘則皆即用舊史史有文

質辭有詳畧不必改也  
其餘ハ皆史官ノ舊文ヲ用ユ、數  
ル有リ質直ニ書セル有リ、又辭バニ畧セル者アリ、詳  
カナル者アリ、カクノ如キ者ハ舊文ヲ改メサル者ア  
リ、只善キ者

故傳曰其善志  
傳ハ昭公三十一年ニ春  
秋ノ書ハ共是善志記也  
ヲ取ルノミ

又曰非聖人孰能修之  
成公十四年ニ聖人ニ非ザレ  
誰カ善ク春秋ヲ修メン、蓋

周公之志仲尼從而明之  
周公ノ志ヲ孔子カ受繼テ、其  
意ニ從テ春秋ヲ修シ玉ヘル

左丘明受經於仲尼  
左氏經ヲマノアタリ孔子ニ  
受タルニテハナシ、孔子ヨリ

追々傳ヘテ受ケシナリ、然レ共此文、親シ  
以爲經者  
受ケシヤウニ思ヘリ、此說諸儒解多シ

正義ニ、嚴氏春秋ニ  
觀周篇ヲ引テ云ク、  
孔子將ニ春秋ヲ脩  
メントス、左丘明ト



衆シテ周ニ如ク書  
ヲ周史ニ觀ル歸テ  
春秋ノ經ヲ脩ム丘  
明之レガ傳ヲ為テ  
共ニ表裏ヲ為ス按  
スルニ左氏ノ生卒  
古ヘヨリ詳カナラ  
ズ論語ニ孔子稱ス  
ル所ノ邱明ハ同名  
ニシテ別人ナリ或  
ハ曰ク楚ノ左史倚  
相ノ後宋ノ王則公  
六國ノ時ノ人ト為  
ス此説是ニ近シ

不刊之書也。

經文千載ノ後ニ至テモ削リ  
刊ル可カラザルノ書ナリ

故傳或先

經以始事。

經ニ先タツテ事ヲ始ルハ隱  
公元年ノ前ニ有ル傳ノ如シ

或後經以終

義

昭二十二年ニ王室乱ル定ノ八年ニ乃チ劉子  
孟ヲ伐テ以テ王室ヲ定ルヲ言フノ類ナリ

或依

經以辯理。

經文ニ依テ以テ  
理解ヲ辯論ス

或錯經以合異隨義而發

經文ヲマシヘテ異ナル者ヲ合セテ云フ或ハ文ニ於  
テハ異ナル者有リトモ義ニ合テ皆發明スルナリ

其例之所重舊史遺文略不盡舉非聖人所脩要故也。

例ノ重ニスル所ニテモ屢アル者ハ傳ヲ書セザルモ  
ノ有リ桓元年秋大水傳ニ云凡平原出水爲大水莊七  
年秋大水是例ノ重ニスル所ナリ左氏是ヲ略シテ  
復發セズ遺文ハ史没シテ策書ニ遺留スル者ナリ身

爲國史躬覽載籍必廣記而備言之。

左氏自ラ魯ノ史  
官トナリテ多ク

書籍ヲ覽タリ必ス廣ク記シ備サニ之ヲ  
言フ獨リ經文ヲ說ノミニハ非ザルナリ其文緩其

古遠將令學者原始要終尋其枝葉究其所窮。

其文章  
緩ヤカ

ニシテ其旨亦深遠ナリ學者ヲシテ始メ二本ツキ終  
リヲ求メ其枝葉ヲ尋ネ其窮マル所ヲドコ迄モ究メ

サセントノ意ナリ樹  
木ヲ以テ喻ヘラトル優而柔之使自求之饜而飲之

使自趨之。

左氏ノ經ヲ述ル意ユルヤカニシテ又之ヲ  
ヤハラカニシ自ラ之ヲ求メシメアカシメ

テ又之ヲ飲シムオノツカ  
ラ其所ニ赴カシムルナリ若江海之浸膏澤之潤渙

然冰釋怡然理順然後爲得也。

江海ハ水深キヲ以テ浸  
ス所多シ膏澤ハ雨多キ

具ニ經ヲ說クニ非  
ス故ニ其文緩カナ  
リ聖意ヲ體シテ説  
ク故ニ其旨遠シ

優柔寛舒之意  
也饜飲饒裕之  
意

此段傳、三體ニル  
ヲ説ク、  
傳中凡ソト云フ者  
五十、

ヲ以テ潤ス所多シ、浸潤ノ廣大ナルニ喻フ、而シテ渙  
然トシテ春冰ノ釋ルカ如ク、表理悉ク順ヒ、怡然トシ  
テ心誠ンテ、後ニ其所  
ヲ得ルト為スナリ、  
其發凡以言例皆經國之常制。

周公之垂法。史書之舊章。仲尼從而脩之。以成一經之

通體。傳文ニ凡ソト云フ處ハ古ヘノ例ヲ發シタル者、即  
十周公ノ舊法ニシテ丘明ノ意ニ成ルモノニ非ス

皆國ノ大典、史官ヨリ傳ル所ノ舊制ナリ、孔子從テ之  
ヲ脩ム一經ノ體ヲ為スナリ、丘明又其體義ヲ撮テ約  
シテ以テ文  
ヲナスナリ、  
其微顯闡幽裁成義類者皆據舊例而

發義指行事以正褒貶。微顯闡幽ノ四字ハ易ノ繫辭ノ文  
ナリ、顯レタルヲ微ニシ、幽カナ  
ルヲ闡キ出シ、上下ヲ裁シ節シテ、義理ヲ審カニシテ、  
皆古ヘノ例ニヨリテ大義ヲ發シ、其行ヒヲ指シテ、褒

メタリ、貶シタリスルナリ、行事是非ニ  
ヨリテ褒貶スル故ニ正スト言フナリ、  
諸稱書不書  
先書故書不言不稱書曰之類皆所以起新舊發大義

謂之變例。傳中ニ有ル所、書スト云、書セズト云、先ツ書  
一スト云、故ニ書スト云、言ハズト云、稱セズト

云、書シテ曰クト云ハ、新古ノ例ニヨリテ其差別ヲ付  
タルナリ、之ヲ變例ト云テ、事實ノ新古ヲ分チ大義ヲ  
發セル  
ナリ、  
然亦有史所不書、即以爲義者、此蓋春秋新

意故傳不言凡曲而暢之也。魯ノ史ニ書セザル所、孔子  
其書セザルヲ以テ、義ニ合

モノハ合タリト爲ス、是則チ春秋ノ新意デアアル故ニ  
傳ニハ凡ソト云例ヲアケズ、曲サニコレヲ暢ルナリ、  
孔子舊史ニヨリ増加スル有リ、舊史ニ有ルヲ改ルア  
リ、又無キニ仍ルアリ、舊文無キト雖ヒ、孔子ノ意ニ合

曲ハ委曲ナリ、左氏  
事ヲ逐テ傳ヲ發シ  
其意ヲ委曲ニシテ  
通暢スル也、

凡ソハ正例ナリ、コ  
ハニアレ七條ハ變  
例ト爲ス、杜氏始  
テ發スルナリ、

ヲモノハ孔子因  
テコレヲ用ユ、

其經無義例。因行事而言則傳直

言其歸趣而已非例也。

經文ニハ義例ナシ、行事ニ因テ  
言フ者ハ、傳ニモ直チニ其歸ス

ル所ヲ言スノミ、例ニハ非ザルナリ、國ニ大事アリ、故發  
レバ必ス之ヲ書ス、衰賤ノ例ニハ非ザルナリ、

傳之體有三而為例之情有五。

左氏傳ヲ發スルノ體ニ  
三通リ有リ、凡ソノ正例

一也、新意ノ變例ニ也、歸趣例ニ非ル、一曰微而顯文、

見於此而起義在彼稱族尊君命舍族尊夫人梁亡城

緣陵之類是也。

辭微ニシテ義顯ヲカナナリ、コ、ニ文有  
リテ微ナリ、カレニ顯ル、所ノ義アリ、

又三事ヲ引テ之ヲ證ス、族ヲ稱スルハ云々、成十四年  
ノ傳ニ有リ、梁亡フ云々ハ信十九年ニアリ、コ、ニ載

成公十四年ニ叔孫  
僑如齊ニ如テ女ヲ  
迎ス重キ君命ニ  
在リ故ニ叔孫ト稱

不、是族ヲ稱スルニ  
九月僑如夫人ヲ以  
テ歸ル重キ夫人  
ニ在リ故ニ叔孫ト

セズ合セ、一曰志而晦、志ハ書スルナリ、言ヲ約ニシ  
見ルベシ、晦ハ隱ナリ、叙事ノ文  
隱ル、

約言示制、言語ヲ簡約ニシテ  
法制ヲ示スナリ、  
推而知例、其  
事

乃チ晦トイフ義ナリ、參會不地與謀日及之類是也。

三國以上會スレバ一人主ト為ル、會事既ニ成ル、故ニ  
會ヨリ至ルト云、而シテ其地ヲ書セザル也、傳例ニ凡

ソ師出ル、謀ニ與カルヲ及ト云フ、謀ニ  
與カラザルヲ會ト云フ、宣七年ニ出ツ、二曰婉而為

章、辭婉曲ニシテ  
曲從義訓、辭屈曲、回互ニシ  
篇章ヲ為ス、  
以示大

順、以テ其道ノ大ニ順、  
諸所諱辟、假許田之類是也。  
春秋ハ國惡ヲ諱ムヲ以テ法ト為ス、壁ヲ  
以テ許ノ田ヲ假ハ、桓九年ニアリ、  
四曰盡而不汙

直チニ其言ヲ盡シテ汙曲スル所ナシ、汙モ又マガレルナリ、直書其事、具文見意

丹楹刻桷、天王求車、齊侯獻捷之類是也。備ニ其文ヲ具ヘテ、譏意

ヲ示ス、楹ヲ丹ニスルハ莊二十三年、桷ヲ刻ムハ二十四年、天王車ヲ求ムルハ桓十五年、齊侯捷ヲ獻スルハ

莊三十一、五日懲惡而勸善。惡ヲ爲ス者ヲコラシ、善事ヲス、ムル也、求

名而亡欲蓋而章。惡ヲ爲ス者ハ名ヲ求メント欲シテ、名反ラハナシ、又其惡ヲ蓋ハントシ

テ、惡及テアラハル、ナリ、書齊豹盜、二叛人名之類是也。齊豹

ト書ス、昭公二十年、三叛人ヲ名イフハ、襄公二十一年及ヒ昭三十年ニ出ツ、コ、ニ載セズ、推此五

體以尋經傳觸類而長之。此五體ヲ推シ廣メテ經ヲ尋テ傳スルナリ、且類ニアレテ

此處諸本讀法尋經傳ト訓ス、林註ニ尋求仲尼作經及左氏作

其義ヲ增長シテ述ルナリ、附于二百四十二年行事。隱公元年

ニ終ルマデ、二百四十二年其間ノ行フ事ヲ付スルナリ、王道之正人倫之紀備

矣。王道ノ正法人倫ノ紀綱、或曰春秋以錯文見義。或人

ク、春秋ハ文辭ヲ錯雜シテ、意義ヲシメス、文ノ異ナル者ハ、義モ亦異ナリ、若如所論則經

當有事同文異而無其義。若シ論スル所ハ、杜預ノ説ヲ難シテ云フ也、若シ杜ノ論ノ

如クンバ、經ハ事同シク文異ニシテ、其意義無キモノ有ルベシ、先儒ノ論ト異ナルヲ難スルナリ、先儒

所傳皆不其然。文異ナレバ義モ異ナリ、文ヲ錯ヘテ義ヲシメス、苟クモ文異ナルコト有ハ義ヲ

著ハサバ、ルコトナシ、杜預ノ答曰春秋雖以一字為褒論ト少シク異ナルヲ云フ、

傳之意、コ、ニ述ル左氏傳ヲ作ルノ意ヲ求ムトハ何人ガ之ヲ求ムルヤ、杜預之ヲ求ムルトセバ、下ノ二百四十二年ノ行事ニ附テ王道ノ正人倫ノ紀備ハルト云フハ、自註ヲ指シテ云フカ、當ラザルノ解ナリ、按スルニ經ヲ尋テ傳スルハ、經ヲ尋クノ尋ナリ、左丘明經ヲ尋テ之ヲ傳スルナリ、經傳ヲダツスルニ

非天

貶然皆須數句以為言一字ヲ以テ褒貶スト雖モ、數句ヲ用テ言語文章ヲ為スナリ

非如八卦之及可錯綜為六十四也八卦ハ各三爻錯綜シテ八八六十四卦ト為ス、一爻變スレバ一卦ヲ為ス、春秋ノ經ハ一字異ニシテ一義ヲ為ス一ヲ得ズ、故ニ經文ヲ錯綜シテ、義

理ヲ為ス、固當依傳以為斷事同シク文異ナル者ハ左氏為メニ傳ヲ發セス、

孔子必ス異義無キヲ知ル、只傳孔子必ス異義無キヲ知ル、只傳ニ因テ經ヲ斷シテ解スベキナリ、古今言左氏春秋

者多矣古ヘヨリ左氏春秋ノ學ヲ承テ、今其遺文可見

者十數家張蒼賈誼張敞劉公子等數十家ニ及ブ、杜預ハ晋人、漢ヲ去ルヲ久シ、見ルベキ者何人ヲ指ス

大體轉相祖述此數十家大ムテ前人ヲ祖

進不得為錯綜經文以盡其變此數十家大ムテ前人ヲ祖

傳事同ク文異ナルモ、本他ノ義ナシ、強テ說ヲ為セハ通

於丘明之傳有所不通皆沒而不說左氏ノ傳ニ

而更膚引公羊穀梁膚ハ淺キナリ、公羊傳穀

適足自亂二傳ヲ以テ

預今所以為異杜預カ今異ナ

專修丘明

之傳以釋經杜氏、今專ラ丘明ノ傳

經之條貫條ハ枝

必出於傳左傳ヲ以テ經ノ

フルニ違アラズ

公羊八名高、穀、梁、名、ハ、赤、二人皆子夏ヨリ授カル者ト云、膚ハ皮膚ノ謂也

前漢成帝ノ時、劉歆始メテ左氏ヲ修ス、和帝ノ時、左氏始メテ學ニ立ツ、爾後漢ニ至テハ鄭、賈、逵、服、虔、許、惠、卿、徒、數

義例總歸諸凡

傳ノ發義正例ハ又凡

推變例以正褒

貶

例アリテ凡ナキガ如キハ、傳ニ變例アリ之ヲ推テ以テ、褒貶ヲ正スナリ

簡二傳而去異

端蓋丘明之志也

二傳ニ就テ、其義ニ合フ者ヲ簡ンテ、異端ノ說ヲ去ルハ、左氏ノ志ナリ

其有疑錯則備論而闕之以俟後賢

其中ニ疑シキ文字有レバ、成文ケ

論說シテ其知ラザル所ハ闕キテ、後ノ學者ヲ俟テ、其說ヲ足シ成シト欲ス

然劉子駿創

通大義

劉向ノ子名ハ歆、左氏ヲ修ム、傳文ヲ引テ、創メテ大義ニ通ス、漢ノ哀帝ノ時ノ人

賈景伯

父子許惠卿皆先儒之美者也

後漢ノ賈逵字ハ景伯、父名ハ客、皆先儒ノ美ナル者

美ナル者

未有穎子嚴者雖淺近亦復名家

陳郡ノ

故特舉劉賈許穎之違以見同異

四家ヲ言トシテ其說ノ同異

ヲ參考シテ之ヲシメス、分經之年與傳之年相附比其義類各

隨而解之名曰經傳集解

春秋ノ經ト傳ト年トヲ相附テ、組ユミ合セシナリ、公羊傳穀梁

傳モ皆同シ、但シ以前ハ春秋ト傳ト別々ナルモノニテ、讀合スルニ煩ハシカリシヲ、杜預初テ傳ノ年ト經

ノ年ト合セテマゼコミシナリ、公羊穀梁モ亦是ニ倣フテ後人、年ヲ合セリ、年ヲ合スレバ、義類モ合フナリ、

各其文ニ隨テ解ラ作ル、故ニ名ツケテ經傳集解ト云フナリ、又別集諸例及地名

譜第歷數相與爲部

諸例ハ凡例ノ内ニアラザルヲ謂フ、地名ハ土地ノ稱號ナリ、譜第ハ

世族圖譜ヲ云、歷數ハ千支ヲ云、此四ヲ附ス、凡四十部十五卷

共ニ四十部分テ十五卷

林註、凡經之義與傳之義各從其類以相比附、スコレ年ヲ合スレバ、類ニ從フナリ、杜ガ其義類ヲ比スト云ルハ、經有テ傳ナキ者ハ傳無シト書シ、區別ヲ立レバナ

ト爲  
皆顯其異同從而釋之  
義例ニ異同アル者ハ皆  
衣顯シテ之ヲ出ス、又其

異同ノ類ヲ  
以テ解釋ス、  
名曰釋例  
其別ニ諸例ヲ集ル  
以テ釋例ト云フ、  
將令學

者觀其所聚  
後ノ學者ヲシテ杜カ集  
異同之說  
其異

說ヲ察ス  
釋例詳之  
作例共ニ載セテ詳カニス、學者  
是ヲ觀レバ、自ラ曉然タルベシ、

或曰春秋之作左傳及穀梁無明文  
又人ヲ設ケテ云  
春秋ノ作ノ早

晚ヲ云フ也、二傳ニハ孔子春秋ヲ作ルノ明文ナシ、  
惟孔舒元ガ公羊傳ノ本ニ獲麟ノ下ニ僅カニ載ス、  
說

者以爲仲尼自衛反魯修春秋立素王丘明爲素臣  
孔子  
衛ヨ

リ魯ニ反リ、春秋ヲ述ブ三年ニシテ成ル、乃チ麟ヲ得  
ルヲ致シテ、此書ヲ作ル、麟ハ春秋ヲ作ラシメシカ爲

古本之字下有也字

賈逵春秋序云  
孔子覽史記就  
是非之說立素  
王之法

ニ來ル、乃チ帝王ノ瑞ナリ、故ニ素王ノ說アリ、素ハ空  
ナリ、位ナクシテ王タルヲ云フ、孔子春秋ヲ修シテ、自  
ラ素王トナル、丘明自ラ素臣ト爲ルト、是レ漢魏ノ諸  
儒ノ說ナリ、董仲舒對策ニ云ク、孔子春秋ヲ作テ、先ツ  
王ヲ正フシテ繫ルニ萬事ヲ以テス、是素王ノ文ナリ、  
鄭玄ガ六藝論ニ云ク、孔子既ニ西ノカタ狩シテ麟ヲ  
獲タリ、自ラ素王ト號シ、後世受命ノ君ノ爲ニ明王ノ  
法ヲ制スト、公羊傳ノ序ニ云ク、孔子自ラ魯ノ史記ニ  
因テ而シテ春秋ヲ脩メ、素王ノ道ヲ制ス、是皆孔子ヲ  
素王ト云フノ說ナリ、家語ニ齊ノ大史子餘孔子ノ言  
ヲ歎美シテ云ク、天其レ素王ト爲ンカト、孔子ガ天ノ  
意ニ本ツキ春秋ヲ脩ムルヲ美スルナリ、孔子自ラ稱  
シテ素王ト爲ルニハ非ズ、漢魏ノ儒者謬テ云フ、春秋  
ハ素王ノ法ヲ立ツト、丘明又孔子ノ經ヲ述ブ、故ニ素  
臣ト爲ルト、素王ヲ立ツ  
言公羊者亦云黜周而王魯

何休公羊ヲ註ス、隱公元年ニ于テ曰ク、唯王者ニシテ、然シテ后ニ元ヲ改タメ號ヲ立ツ、春秋新王ニ託シテ命ヲ魯ニ受ケシム、コレ乃チ周ヲシリゾケテ魯ヲ王ニスルノ謂ナリ、又曰ク、杞ハ是レ二王ノ後ナルヲ以テ、爵上公タリ、然トモ經ニ杞伯ト稱ス、以テ孔子之ヲ黜クト爲ス、其說種々アリ、是等ニヨリテ謂出シタルナリ、**危行言孫**、其行ナヒテ危險ニスルハ、周ヲ黜ケテ、其文ヲ微ニシテ、**以辟當時之害**、言順フ所以ハ、義ヲ隱スモノ也、**故微其文隱其義**、其文ヲ微罪ヲ當時ニ獲テ己レカ、**公羊經止獲麟**、公羊ノ經ハ、哀公十四年西狩シテ、**而左氏經終孔丘卒**、左氏春秋ノ傳ハ獲麟ニ止ル、

孔丘卒スルニ至テ乃チ止ム、**敢問所安**、以上諸說未ク安カラス、故ニ問フ、**答曰異乎**

**余所聞仲尼曰文王既没文不在茲乎此制作之本意也**、杜預孔子ノ言ヲ引テ答フ、文王既ニ没シタレドモ、文

也、茲ニ有テ亡フルト云フ事ハナシ、春秋ヲ脩スルハ天ヨリ文王ノ道ヲ孔子ニ傳ヘサセ玉フ意ナレバ、レヲ受ツギテ此春秋ヲ制作シ玉フト云意ナリ、**歎**

**曰鳳鳥不至河不出圖吾已矣天蓋傷時王之政也**、

古說、黃帝ノ時、鳳凰阿闕ニ巢ス、少昊氏ノ時又至ル、唐虞ノ時鳳凰來リ翔ル、文王ノ時又岐山ニ鳴、孔子魯ニ相クル時、鳳凰游集ル、哀公ノ末ニ至リテ復來ラ

ノ時鳳鳥至ル、鳥ヲ以テ官ニ名ツク、文王ノ時、鳳凰岐山ニ鳴ク、鳳ハ皆聖人ノ世ニ出ルモノ、伏羲ノ時龍馬圖ヲ負テ河ヨリ出ツ、古說ニ馬甲龜ノ背ノ如ク、赤文綠色、上ニ列宿斗正ノ度アリ、帝王興亡ノ數ヲ録記ス、ト、或ハ河圖ハ八卦ナリ、今孔子ノ時ニ當リテカクノ如キ瑞ハ顯ハレ出テズ、文武周公ノ道ノ行ハレザル



或ハ騶虞ヲ以テ瑞トナス騶虞ハ白虎  
黒文ナリ詩ノ騶虞  
或ハ文王ノ岡トナ  
シ虞ハ虞官トナス  
五代史前蜀世家ニ  
騶虞ヲ歌トナス而  
シテ歐陽公何物ト  
ルヲ知ラスト云ハ  
但シ騶虞ヲ以テ靈  
歌ト爲ス説久シ白  
虎ハ即チ騶虞ヲ云  
フナルメシ

ヲ歎シテ我ヤンナンカナト時ノ王ノ政ヲ歎息シテ云ナリ麟鳳五靈王者之嘉

瑞也。麟鳳龜龍白虎ヲアハセテ之ヲ五靈ト云フ王者徳アル時ハ世ニ出ツト云フ今麟出非

其時虚其應而失其歸此聖人所以爲感也。哀公ノ十

リテ麟ノ出ル其時ニ非ス上ニ明王無キヲ以テ其應ヲ虚フスルナリ是レ其歸スル所ヲ失フナリ是ヲ以

テ聖人時ニ感シテ春秋ヲ作ル外物ノ爲ニ感セラレテ道ノ屈スルヲ知リ書ヲ著ハシテ功ヲ來世ニ被

ラシメント欲ス絶筆於獲麟之一句者所感而起固所以

爲終也。孔子ノ筆ニ成ル所ハ則チ獲麟ノ一句ニ止ル麟ニ感シテ春秋ヲ作ル感スル所此一句ヲ以テス

曰然則春秋何始於魯隱公。或人亦問フ然ラバ何ヲ以テカ魯ノ隱公ニ始マル

答曰周平王東周始王也。周犬戎ノ亂ヨリ都ヲ東都ノ洛邑ニ遷ス是ヲ東周ト云フ

平王則チ東周ノ始人ノ王ナリ隱公讓國之賢君也。隱公ハ長子ニシテ國ヲ桓公

ニ讓ル是ヲ以テ賢君ト云フ考乎其時則相接。隱公ノ始ハ是平王ノ末ニアタル其時

相接ハ言乎其位則列國。魯ノ國ハ諸侯其國ハ廣本ルナリ其位ハ列國ノ侯ナリ

乎其始則周公之祚胤也。周公ノ子伯禽魯ニ封セラレテ子孫連綿トシテ今ニ至ル

乃チ周公ノ福祚ノ遺嗣ナリ若平王能祈天永命紹開中興隱公

能弘宣祖業光啓王室則西周之美可尋文武之迹不隊

若シ周ノ平王能ク下民ヲ撫育シテ天ノ長命ヲ求メ周室中興ノ業ヲ紹キ開キ又隱公ヲシテ先祖周公ノ

顓頊作曆以孟  
春之月為元是  
歲正月朔且立  
春云々、虞唐ノ

際詳カニ説カズ

宋ハ殷ノ後故ニ公  
爵ナリ、或ハ曰ク魯  
モ公ナリ、侯ニハ非  
スト、侯ノ事經傳ニ  
明文ナシ、

周道ハ文王周公ノ  
道ナリ

業ヲ宜ベ、王室ヲ輔佐シテ、周徳ヲ光ラシ啓ラカバ、東  
遷シテ都ヲ異ニスレ共、以前ノ四周ノ美ヲ尋クベク、

左スレバ文王武王ノ跡モ隙  
チ衰フルアルマシキナリ、**是故因其歷數附其行**

事、平王、隱公為スベクシテ為サズ、故ニ孔子己ム事ヲ得  
ズシテ、春秋ヲ作り、其年月ノ歷數ニ因リテ、君臣ノ行

事ヲ、年月ノ下ニ附  
シ合シテ綴ルナリ、**采周之舊以會成王義。**周公ノ

經ヲ采リテ一王ノ大義ヲ會合成就スルナリ、或ハ  
周ニ往テ周ノ文書ヲ閲シテ、周王ノ義ニ合セ會ス、**垂**

**法將來。**事己ニ往テマタ追フベカラズト雖モ、將  
來ニ垂テ萬世帝王ノ法タラントヲ冀フ、**所書之**

**王即平王也所用之曆即周正也。**初メ書出ス所ノ王ハ  
文用ユル所ノ曆ハ周ノ建子ノ正ナリ、夏ハ寅ヲ建ツ、

夏ヨリ以前顓頊曆ヲ作り孟春ノ月ヲ以テ元ト為ス

殷ハ丑ヲ立ツ、夏曆ノ十二月ナリ、周ハ子ヲ立ツ、夏曆  
ノ十一月ナリ、然レ共民間行ハレズ、皆夏曆ヲ用ユ、春

秋春王ノ正月ト云ヘルハ、即チ十一月ナリ、冬ニシテ  
春ト云フハ、春ハ四時ノ始メナレバナリ、後ニ秦ノ始

皇ノ時ニ十月ヲ以テ正月ト為セシ事アリ、漢  
ニ至テ又夏曆ニ返ル以後不易ノ法トナル、**所稱**

**之公即魯隱也。**公ハ魯ニテ君ヲ稱スルノ辭、公侯伯  
子男ト五等ノ官有テ、魯ハ侯ノ爵ナ

リ、然レ共臣下稱ス  
ルニハ公ト云フ、**安在其黜周而王魯乎。**王ノ正月

ニ於テ公ト稱スル、皆周ヲシリゾケ  
テ魯ヲ王トスルニハ非サルナリ、**子曰如有用我**

**者吾其為東周乎。**孔子曰ク、今ノ時ニアタリテ、我ヲ用

ニ興ス事ア  
ラシカト、**此其義也。**杜曰ク、春秋ノ義ハ、正ニ周ヲ

ヲ黜ケテ魯ヲ王トスルノ意アラシム以上周ヲ黜ケテ魯ヲ王トスルノ説ニ答フル所ナリ、若夫制

作之文所以彰往考來。孔子春秋ヲ制作スルノ文已往ヲ彰明ニシ、將來ヲ考校スル事

情見乎辭。聖人世ヲ憂フルノ情、言高則旨遠辭約則義

微。言ヲ立ルルニ既ニ高ケレバ、其旨深遠ナリ、此理之常。辭ヲ約ニスレバ、其義理自然ニ精微ナリ、

此則ナ聖人制、非隱之也。聖人文義ヲ隱ス、作ノ常理ナリ、非隱之也。聖人包周

身之防。孔子春秋ヲ作ル、一字ヲ以テ褒貶シ、一字ヲ以テ

ノ諱忌ヲ慮リ、其身ニ患ヒ無カラシム、既作之後、包不周クシテ、文字ノ外ハ口授シテ傳フ、

方復隱諱以辟患。既ニ春秋ヲ作ルノ後、方ニ復隱シ諱ヲ以テ愈患ヲ辟ケンカダメニ、語ヲ

包周身之防者謂聖人防慮必周於身自知無患始作之

畧約ス、非所聞也。杜氏カ聞ケル所ニ非ス、然ラハ則トハ、ナ春秋ノ文、善ヲ善トシ惡ヲ惡ト

シ忌憚ル所ナク、十分ニ書シ五ヘルモノ、身ヲ包ルノ防キ無キモノ、字簡ニシテ意味ノ深重ナルハ、文ヲ書

スルノ正體ニテ、此中ニ隱、子路欲使門人爲臣孔子

以爲欺天。孔子病ル時ニ子路門人ヲシテ臣タラシメン

臣無クシテ臣アリト爲ス、吾誰ヲカ欺カン、天ヲ欺カ

ンヤトノ玉ヘリ、況ンヤ王ニ非ズシテ自ラ玉號ヲ唱

フル等、決シテ有、而云仲尼素王丘明素臣又非通

論也。然ルニ前ニ説ク素王素臣ノ論、皆後儒ノ誣言ニ

孔子ノ書獲麟ノ一、句ニ止ル、下ノ小邾、射以下子貢ノ徒、經ヲ續テ作ル所孔子ノ筆ニ非ザルヲ必セリ、偶獲麟ニ至テ

儒以爲制作三年。文成致麟既已妖妄。先儒又謂孔子

錄ヲ止ルノミ、是ヲ麟經ト云フモ誣ニ近シ、但シ獲麟ノ解歐陽公詳カニ辯セリ曰ク、西狩獲麟ハ之ヲ譏ルナリ、西狩ハ其遠キヲ非トスルナリ、麟ヲ獲ルハ其盡ク取ルヲ惡シテ也、狩ハ必ス地ヲ畫ス、而シテ哀公馳聘、涉ル所ノ地多シ、以テ名譽スベカラズ、故ニ西ヲ以テ取地ヲ包ヌ、其魯國ノ西皆々至ルヲ云フ

リ便チ春秋ヲ作り、后三年ニシテ麟ヲ獲ル、麟ハ春秋ヲ作ルカ爲ニ其瑞應ニ出タリト云フ説ハ、既ニ妖妄ニテ取ルニ足ラザル説ナリ、又引經以至仲尼卒亦又近誣。先儒フ、獲麟ノ後孔子猶制作止マズ、孔丘卒スルニ至ル、以前皆是修スル所ノ經ト此説尤モ誣ナルモノナリ、蘇老泉ノ春秋論ニモ大夫老ヲ告テ卒スレバ、書セズ、而ルニ夫子獨リ書ス、子夏ノ徒以テ孔氏ノ書トスルナリト、孔子ハ魯國ノ史ト爲ス、孔丘ノ卒ヲ書シテ止ル時ハ孔氏ノ書ト爲スナリ、據公羊經止獲麟。公羊傳ノ經ハ獲麟ノ一句ニ止ル、而左氏小邾射不在三叛之數。哀公十四年獲麟ノ後ニ小邾射以句繹來奔スト書ス猶是孔子ノ修スル所ノ經ナレバ、小邾射ハ庶其黑肱牟夷ト列ヲ同クシテ、四叛人ト爲スベシ、今左氏三叛人ト稱シテ、小邾射其數ニ入ラズ、則チ經ヲ引テ孔丘

ナリ、然ラバ不測ノ深山ニ入リテ不測ノ異獸ヲ獲シナリ、孔子之ヲ麟ト云ハ、哀公ヲ戒シムル辭ナリ、

卒ニ至ル者ハ其誣ル一甚タシト云フベシ、故余以爲感麟而作作起獲麟。則文止於所起。杜氏オモヘラク、孔子麟ニ感シテ春秋ニ文モ亦其起ル所ニ止テ筆ヲヤム、孔子ノ春秋ヲ作ラント欲スル心ヲ察シテ云フ、爲得其實。此説ナラバ實ヲ得タリトスベシ、至於反袂拭面稱吾道窮亦無取焉。公羊傳ニ稱ス、孔子麟ヲ獲ルト聞テ、袂ヲ反シ面ヲ拭テ泣涕シ、袍ヲ露ホシテ曰ク、吾道窮スト云ヘルハ取ル所ナキ説ナリ、○案スルニ麟ノ瑞獸タラザル一ハ王充論衡指瑞篇ニモ出テ、本ヨリ論スルニ足ラズ、獲麟ノ一事歐陽公ノ論ヲ以テ正シトス、後儒喋々トシテ奇論ヲ述ブ、復信スルニ足ルモノナシ、凡ソ史ヲ修スル者ハ事ノ定ルニ非サレバ、褒貶ヲ正スベカラズ、孔子春秋ヲ修ス、哀公十四年ニ至ルマデ其成敗ヲ審

カニス、十六年ニ至テ卒ス二年ノ間未タ當否ヲ確定スルコト能ハズ故ニ偶獲麟ノ處ニ至テ筆ヲ止ムルナリ、麟ニ感シテ春秋ヲ修スルト謂モ誣ルナリ、麟ヲ得ルニ起ルト云フモ亦誣ルナリ、袂ヲ反シ面ヲ拭フ等ノ語ニ至テハ、聖人ヲシテ盲昧無智ノ人ト爲ス、固ヨリ論スルニ足ラズ、王充カ輩亦辨明スルコト能ハザルハ何ゾヤ、然ラバ則チ之ヲ麟經ト謂モ夫子ノ意ニハ非ルベシ、余別ニ麟解ヲ著スコ、ニ贅セズ、

後序

大康元年三月

西晋武帝ノ年號

吳寇始平

王隱カ晋書ニ大康元年、諸軍吳ヲ伐チ、

三月江陵縣ニ至テ孫皓面縛セラレテ王濬ニ詣テ降ル

余自江陵還襄陽

杜預

晋書ニ稱ス杜預吳ヲ平ケシ後從容無事乃集解釋例等ヲ著ハス此序舊意ヲ申抒スト云フ時ハ其稿吳ヲ平グル以前ニアリ、

申抒舊意脩成春秋釋例及經傳集解

ヨロヒヲ解キ兵士ヲ休メテ又舊

志ヲカサネテノ始訖會汲郡汲縣有發其界内舊冢

者。舊キツ、大得古書皆簡篇科斗文字

竹ニテ編タル者、漆ニテ古篆

東哲カ傳ニ大康元年汲郡ノ民盜安釐王冢塚ヲ發シ竹書ヲ得タリ、漆字科斗ノ文ナリ

往散亂冢ヲ撥スル者心無キ者ニテ至寶トモ

科斗書久廢推尋不能盡通始者藏在秘府

上ノ御藏ニオサメテ置タリ余晚得見之所記大凡七十五卷多雜碎怪妄不可訓知

年久シキ

中二周易上下二卷  
竹書紀年十二卷  
語十一卷穆天子傳  
等八分トワカリ  
タルナリ、晉書ニ目  
録アリ七十五卷中  
六十八卷ハ皆題ア  
リ七卷ハ折簡碎雜  
名題スベカラス尙  
最和崎ニ詔シテ録  
書ヲ以テ之ヲ寫ス  
最等備ネク其書ヲ  
識ルヲ能ハズト云  
ヘリ

モノナレバ、碎ケマシハリテ字形モ亦怪シ  
クナリタリ、故ニ悉ク讀得ルヲナリ難シ、  
周易及

紀年最爲分了亮ニテアリシナリ、  
其中周易ト紀年、明  
周易上下篇、與今

正同別有陰陽說、而無彖象彖象傳、  
文言繫辭、疑于時

仲尼造之於魯、尙未播之於遠國也。  
杜氏疑フ、孔子彖  
傳象傳繫辭等、魯

代王事、無諸國別也。  
三代ハ夏殷、  
周ヲ指ス、唯特記晉國起自殤

叔次文侯昭侯以至曲沃、莊伯、莊伯之十一年十一月、

魯隱公之元年正月也、皆用夏正建寅之月爲歲首。

是周

ノ建子ノ曆晉國ニ  
モ行ハレザルナリ、  
編年相次、晉國滅、獨記魏事。  
周ノ  
安王

二十六年ニ晉國亡ビ  
其地ヲ三分ニスル、  
下至魏哀王之二十年、蓋魏國

之史記也、推校哀王二十年、太歲在壬戌、是周赧王之

十六年、今案スル秦昭王之八年、今案スル韓襄王之

十三年、今案スル趙武靈王之二十七年、今案スル楚

懷王之三十年、今案スル燕昭王之十三年、今案スル

齊湣王之二十五年也、今案スル上去孔丘卒百八十

一歲、今案スル下去今大康三年五百八十一歲、今案スル五

一、襄王二十二年昭  
王立哀王ナシ又惠  
王五十二年トナス  
隱元年

哀王於史記襄王之子。惠王之孫也。惠王三十六年卒而襄王立。立十六年卒。而哀王立。古書紀年篇惠王三十六年改元。從一年始。至十六年而稱惠成王。卒即惠王也。疑史記誤分惠成之世以為後王年也。哀王二十三年乃卒。故特不稱諡。謂之今王。其著書文意大似春秋。經推此足見古者國史策書之常也。何レノ國ニテモ古史ヲ書スル法皆  
春秋ニ似タル也。文稱魯隱公及邾莊公盟于姑蔑。即春秋所書邾儀父未王命。故不書爵。曰儀父。貴之也。共書ニ載ル所

僖二年

僖二十八年

閔二年

春秋所書虞師晉師滅下陽。先書虞賄。故也。又稱周襄王會諸侯于河陽。即春秋所書天王狩于河陽。以臣召君。不可以訓也。諸若此輩甚多。略舉數條。以明國史皆承告據實而書時事。仲尼脩春秋。以義而制異文也。國書スル所ノ史。大約皆相似タリ。孔子ノ春秋ヲ脩スルハ大義ヲ以テ褒貶ヲ正シ。賞罰ヲ明カニシテ各國ノ異文ヲ制シテ直筆ヲ以テ書ス。故ニ子夏ノ徒モ一字ヲ贖スルヲ能ハザル所以ナリ。又稱衛懿公及赤翟戰于洞澤。疑洞當為洞。即左傳所謂癸澤也。

成二年

春秋左傳卷之...

齊國佐來獻玉磬紀公之覯即左傳所謂賓媚人也諸所

記多與左傳符同符ハ割符也合セテ證ト爲ス左傳ト割符ヲ合セタルカ如シトナリ

於公羊穀梁知此一書近世穿鑿非春秋本意審矣公羊穀梁ノ二傳ハ近世人古ヘヲ穿鑿シテ述ル所春秋ノ本意ニ非スト傳ニ公羊穀梁皆子夏ヨリ傳フト謂トモ其實ハ戰國時代ノ人ニテ孔子ヲ去ル一餘程遠キ人ナルベシ劉知幾ノ言ニ左氏ニ三長アリテ公羊穀梁ニ五短アルト謂ヒ魏ノ鍾繇ハ左氏ヲ太官ト爲シ公羊ヲ賣餅ト爲ス漢ノ鄭成康ハ公羊ノ墨守穀梁ノ廢疾等ノ言アリ然ラバ則チ公穀ノ二傳ハ何人ノ手ニ成ルヲ知ルベカラズ

雖不皆與史

記尚書同然參而求之可以端正學者是ハ古冢ヨリ出タル書ヲ云

困學紀聞ニ出ツ

史記ハ各國ノ史記ナリ司馬遷ノ史記ヲ指スニ非ス各國ノ史記ヤ尚書トハ同カラザルモノナレド參考シテ古ノ事實ヲ求レバ今ノ學者ヲ端正スベキモノ也又別有一卷純集疏左氏傳ト筮事上下次第及其文義皆與左傳同名曰師春師春似是抄集者人名也別ニ左氏ノト筮ノ事ヲ集メタル書一卷アリ左傳ト同シ師春ト名ツケシハ其人ノ名ヲ以テ書名ニ蒙ラセタルナルベシト余左氏ノト筮ノ事ニ就テ甚タ疑フ所アリ宮脇氏ノ校本ノ序ヲ書シテ其疑ヒヲ述ブ師春ハ左氏ノト筮ヲ抄出シタル書ナルベシ此冢秦ノ焚書ノ際ニ埋メシモノ抄集スル所筆ニ隨テ寫ス者故ニ其種雜ニワタル想フニ左氏以後ノ人ナルベシ但シ王判公左氏ヲ六國ノ時ノ人ト爲ス然ラバコレモ亦六國ノ際ノ人ナルベシ

紀年又

長二序

二十一年

...

...

...

春秋左傳卷之...

長二序

二十



襄二十一年  
七本作十

稱殷仲壬卽位居亳其卿士伊尹仲壬崩伊尹放大甲  
 于桐乃自立也伊尹卽位於大甲七年大甲潛出自桐  
 殺伊尹乃立其子伊陟伊奮命復其父之田宅而中分  
 之左氏傳伊尹放大甲而相之卒無怨色然則大甲雖  
 見放還殺伊尹而猶以其子爲相也此爲大與尚書叙  
 說大甲事乖異不知老叟之伏生或致昏忘將此古書  
 亦當時雜記未足以取審也爲其粗有益於左氏故畧  
 記之附集解之末焉。正義曰、竹書ニ説ク、伊尹ガ傳  
 ノ事書ノ序ト大ニ乖ケリ、杜古文

フ見ズ、唯書ノ序ヲ以テ考正ス、疑ラクハ伏生昏忘シ  
 テ、虚シク此事ヲ傳フト、又疑フ、竹簡雜記シテ、審ヲ取  
 ルニ足ラズト、今古文尚書ニ據ルニ、伊尹之事ヲ説ク  
 左氏ト符同ス、是レ竹書盡ク信スベカラズ、杜紀年ノ  
 事ヲ記スル、大ニ春秋ノ經ニ似タルヲ以テ、知リヌ、古  
 ノ史官事ヲ記スル、此ノ如シ、其左氏ニ益有ルカ爲  
 ニ、人ヲシテ左氏ノ不妄ヲ知ラシム、故ニ畧之ヲ記シ  
 テ以テ集解ノ末ニ附スト、○中井積徳曰ク、後序ハ杜  
 氏ノ筆ニ非ス、蓋シ竹書紀年ヲ偽選スル者、又此レヲ  
 作リテ元凱ニ托シ、以テ信ヲ世ニ取ルノミ、其行文ノ  
 潦艸、姑ラク之ヲ舍ク、今一證ヲ舉ク、言ヘル、有リ、伊  
 尹自立、大甲伊尹ヲ殺スト稱ス、大ニ尚書大甲ノ事ヲ  
 叙説スルト乖異ス、知ラス老叟ノ伏生或ハ昏忘ヲ致  
 スカト、夫伏生傳ル所二十九篇、大甲ヲ説叙スル者無  
 シ、而シテ元凱目ニ古文尚書ヲ睹ズ、安ンゾ尚書大甲  
 ヲ叙説スルノ語有ルヲ得ン、又元凱ノ温雅、必ス輕シ

ク伏生ヲ誦ルニ至ラズ、偽選ナル者、巧ミニ掩藏スト  
雖モ、此ニ至テ手足皆露ハル、案スルニ紀年ト尚書ト  
相合ハザル、一目シテ瞭然タル所、伊尹モシ自立シ、大  
甲ノ爲ニ殺サル、事アラバ、孟子伊尹ヲ稱セズ、管晏  
荀韓諸子亦少シク此事ナクンバ有ルベカラズ、今紀  
年一書ニヨリテ伊尹ノ論ヲ説ク、杜氏ノ識何ゾ陋ナ  
ルヤ、歿中ニ埋ムル所、周易晉紀等ヲ藏シテ穆天子傳  
ノ如キ孟浪ノ書ヲ共ニス、其人モ亦推シテ知ルベシ、  
是六國時代、少シク好事ノ者ノ冢ナルベシ、讀書人ノ  
冢ニハ非ザルナリ、杜氏コレヲ信シテ、反テ伏生ト共  
ニ疑ヲ生ス、淺陋無識取ルニ足ラス、其尚書ヲ讀ザル  
亦宜ナル乎、莊八年ノ傳ニ夏書曰、皋陶邁、種、德、杜註云  
ク夏書、逸書也、是其尚書ヲ讀ザル明カナリ、安ソ左  
氏ヲ註スル者、古文尚書ヲ讀マズシテ、妄リニ古書ヲ  
註スルヲ得ンヤ、蓋シ元凱本ト武人、妄リニ名ヲ求  
ルヲ勤ム、彼ノ二碑ヲ作り、嵩山ノ下ヘ沈ツメ、岷山

ノ上ヘ立ル等ニテ知ルベシ、其自ラ傳癖有リト稱ス  
ル者ハ、只左傳ヨリ外ハ多ク讀マザル者ナレバナリ、  
且左氏ヲ註スル、皆幕下ノ士ヲシテコレヲ補ハシメ、  
自ラ名ヲ求メンヲ欲スルノミ、中井氏後序ヲ以テ  
竹書ヲ偽選スル者ノ作トナス、余以爲ク、杜氏人ヲシ  
テ作ラシメタルノミ、左氏ヲ註スルニ及ンテ己レヨ  
リ勝リタル者、帷幕ニ在ルベシ、故ニ其者ノ言ニ從テ  
選マシムル者、前後二序共ニ杜作ニハ非ザルベシ、必  
スヤ前後二篇二人ノ手ニ爲ルモノ、而シテ左傳ノ註  
モ亦多人ノ手ニ成リシナラン、今世間多ク杜註ノ行  
ハル、ハ、漢ノ諸公ノ註、散逸シテ世ニ無キヲ以テナ  
リ、余杜註ヲ讀ムヲ喜ヒズ、但シ地名等ニ至テハ往  
テ檢モザルヲ以テ、專ラ杜註ニ由ル、長曆ノ如キハ固  
ヨリ取ルニ足ラズ、劉炫ノ杜ヲ規スガ如キハ、僅ニ十  
ガ一二過ザルノミ、中井氏ノ糾スニ過ルモ、亦公平ナ  
ラザルニ似タリ、近日安井息軒氏ノ輯釋、最モ善説多

シ、若シ唐宋明清ノ諸氏及ヒ我國慶元以降諸儒ノ説  
ヲ合セバ、杜ノ註スル所悉ク碎盡セントス、余左氏ヲ  
讀ムニ身ヲ局外ニ置クノ法アリ、既ニ身  
ヲ局外ニ置ク豈特リ杜ノミヲ規サシヤ、

春秋左氏傳序講義 畢

春秋左氏傳講義

晉杜元凱集解

石川鴻齋先生口述

門人

松本謙 小澤璠 筆記

事ヲ司ルヲ司  
ト云書ヲ掌ル  
ヲ史ト云フ  
乘檣トイヒハ孟  
ニ出ス乘ハ田  
賦乘馬ノ事ヲ  
リ興リ檣トイヒ  
凶人ノ類患ヲ  
記シ戒シメテ  
垂ルニ因リテ

春秋トハ魯ノ國ノ史記ノ名ニテ、孔子ヨリ以前周公  
以來、魯國ノ史官カ世々記スル所ノ名ナリ、楚ノ國テ  
ハ、之ヲ檣トイヒ、晉ノ國テハコレヲ乘トイフ、天、皆  
一國々々ニ記スル所アリ、孔子魯ノ國ノ史記ヲトリ  
テ、刪ルベキハ刪リ筆スベキハ筆シ、且周ノ國ニ至リ  
テ、百二十國ノ史書ヲ檢シテ、顯ハレタルヲ微ニシ、幽  
ナルヲ闡カニシテ、褒貶ヲ正シクシテ書スル所、事ハ  
杜元凱ノ序ニ詳カナレハ茲ニ畧ス、左傳トハ魯ノ左  
丘明其傳ヲ書スルナリ、元凱ノ序ニハ左丘明、經ヲ仲  
尼ニ受ルトアリ、史記ノ十二諸侯年表ノ序ニモ孔子

名トナス

荆公ハ宋ノ人  
王安石守ハ介  
甫ト云

哀帝ハ前漢ノ  
十一世ノ主章

春秋ヲ作ル七十子ノ徒其傳指ヲ口授ス魯ノ君子左  
丘明弟子各々其意ヲ安ニセズ其真ヲ失ハシテ懼  
レ左氏春秋ヲ成トイヒ或ハ孔子春秋ヲ修セントス  
左丘明ト乘シテ周ニ往テ書ヲ周史ニ觀テ春秋ノ經  
ヲ作リ左丘明傳ヲ作ルトモイヘリ然レハ左丘明ノ  
生卒未ク審カナラス太史公モ史記ノ弟子列傳ニ載  
セズ孟子荀子等ニモ考ル所ナシ或ハ云山東兗州府  
汶上縣ノ人楚ノ左史倚相ノ後ナリト宋ノ王荆公ハ  
六國ノ時ノ人ト爲ス文體ヲ以テ考レハ荆公ノ言是  
ナランカ古説ニヨレハ左丘明後ニ曾申一云者ニ傳  
ハ後又吳起ニ傳ヘ吳起子ノ吳期ニ傳ヘ期又鐸椒ニ  
傳ヘ椒又虞卿ニ傳ス虞卿抄撮九卷ヲ作リテ荀卿ニ  
授ケ荀卿ヨリ漢ノ張蒼及ヒ賈誼ニ傳ヘ賈誼左氏傳  
訓故ヲ作リテ趙人貫公ニ授ク貫公又長卿ニ授ク夫  
ヨリ四方ニ行ハレテ哀帝ノ時ニ劉歆ナルモノ五經  
博士トナリ左氏ヲ學官ニ立ルヲ得タリ章帝ノ時

帝ハ後漢ノ三  
世ノ主  
公羊子ハ宋ノ  
貞宗ノ咸平三  
年ニ臨淄ノ伯  
ニ封セラレ穀  
梁子ハ襄丘ノ  
伯ニ封セラレ  
睢陽侯ニ加ヘ  
ラル

賈逵ナル者春秋大義四十條ヲ作リテ公羊傳穀梁  
傳ノ非ヲアラハシ夫ヨリ公穀ノ二傳スタレテ左傳  
咸ニニ行ハレタリ公羊高ハ春秋ヲ抄子夏ニ授カリ其  
子孫相傳ヘ漢ノ董仲舒ニ傳ヘテ大ニ行ハル穀梁赤  
モ子夏ニ授カリテ孫卿ニ授ク孫卿魯ノ申公ニ授ケ  
申公瑕丘ノ江公ニ授ク江公董仲舒ト並ヘ行ハル三  
子共ニ唐ノ太宗ノ貞觀二十一年孔子ノ廟ニ從祀シ  
左氏ハ瑕丘伯ニ封セラレ宋ノ徽宗ノ政和六年ニ又  
中都伯ニ封セラレサテ前漢ニハ左氏ヲ註スル者ハ  
張蒼賈誼尹咸劉歆下リ後漢ニハ鄭衆賈逵服虔許惠  
卿等アリ或ハ公羊穀梁等ヲ雜ヘ其說正シカラサル  
ニヨリテ先輩屢々之ヲ誹ル是ヲ以テ傳ハラズ漢ノ  
鄭康成曰ク左氏ハ禮ニ善シ公羊ハ讖ニ善シ穀梁ハ  
經ニ善シ劉知幾曰ク左氏ノ義ニ三長アリ二傳ニ五  
短有リ呂成公左氏ノ三病ヲ云テ周鄭交々質シ君臣  
ノ義明カナラス一也人事ヲ以テ災祥ニ傳會スルニ

也管晏ノ事ヲ記スルハ則チ善ク説キ聖人ノ事ハ則チ陋三也魏ノ鍾繇謂フ左氏ヲ太官ト為ス公羊ヲ賣餅トナスト其他古人ノ説少チカラス一一舉ルニ違アラス今ノ傳ル所ハ晉ノ杜預元凱ノ註ヲ專ラトス尋テ唐ノ孔穎達ガ疏ニ陸德明ノ釋文アリテ明ニテハ之ヲ官版ニシテ行ハレタリ是ヨリ一般左氏ヲ説ク者ハ杜註ヲ以テ專務トス但シ晉宋ヨリ以來義疏ヲ作ル者沈文何蘇寬劉炫等各々一家ノ説ヲナス而シテ劉炫カ杜註ノ失ヲ規ス一五百五十餘條アレ共一得一失ニテ完然タル者ニ非ス杜註ノ行ハルハ諸註ノ中ニテ誤謬少ナキヲ以テナリ杜預字元凱晉人大康元年吳ヲ伐テ平ラゲ江陵ヨリ襄陽ニ還リ甲ヲ解キ兵ヲ休メ始テ春秋ノ經傳ヲ修成ス時ニ汲郡汲縣ニ舊キ家ヲ發シテ古書ヲ得ル者アリ杜預後ニ是ヲ見ルヲ得テ大ニカラテ得其他諸書ヲ參考シテ註ヲ書スルヲ得タリ預常ニ云フ王濟馬癖アリ和嶠

錢癖アリト武帝之ヲ聞テ預テ謂テ云ク卿何ノ癖アリ對テ曰ク臣ニ左傳ノ癖アリト文帝ノ妹高陸公主ヲ尚シ尚書郎ニ拜セラル孫皓平クノ後功ヲ以テ位征南大將軍開府ニ至ル當陽侯荊州ノ刺史ニ封セラレ

隱公

名息姑惠公之子母聲子諡法不辟其位曰隱

**傳** 惠公元妃孟子言元妃明始適夫人也子宋姓 惠公名ハ不皇孝公

此段杜預カ所謂ル經ニ先シテ事ヲ始ルナリ鄭玄ノ曰ク后ノ言ハ後ナリ内事ヲ執リ治メテ夫ノ後ニ在レハナリ

ノ子ナリ元ハ始メナリ如ハ匹ナリ凡ソ天子ノ妃ヲ后ト曰諸侯ヲ夫人ト曰大夫ヲ孺人ト曰士ヲ婦人ト曰庶人ヲ妻ト曰妃ハ五等ノ内ニハ非ス適又嫡ニ作ル始ノ妃トイフヲ元ハ始適ノ兩義ヲ兼ル故ニ杜註ニ始適夫人ナルヲ明カニスト云ハ本妻ニナリタルナリ宋ハ殷ノ後契ノ姓ハ子婦人ハ字ヲ以テ姓ニ配ス故ニ孟子ト稱ス禮緯ニ庶長ハ孟ト稱ス孟ト宋ノ總領ムスメナリ○諡法ニ愛人好興曰惠

林注ニハ孟子ノ婦ト云釋例ニ古ハ諸侯ノ娶ル通夫人及ヒ左右ノ媵各ク姪婦アリ、皆同姓、國ナリ、國コトニ三人凡ソ九女

子卒不稱薨不成喪也先夫死不得從夫諡諸侯ノ夫人ノ死スル時ハ薨

スト書スコ、ニ卒スト書スルカ、喪禮ヲ行ハザレバナリ、夫人ノ諡ハ古ハハ夫ノ諡ニ從テ付タルユヘ、夫ニ先タチテ死タレハ繼室以聲子生隱公聲諡也蓋孟子諡ニ及バサル也

姪婦也諸侯始娶則同姓之國以姪婦媵元妃死則次妃攝

治内事猶不得稱夫人故謂之繼室聲子ハ諡ナリ、諡法ニ不止其國曰聲姪ハ兄

ノ子ナリ、姪ハ弟ナリ諸侯妻ヲ迎ヘルトキハ九女ヲ聘ストイフテ、姪ヤ女弟ヲツケテメルナリ、若シ家族中ニ無ケレハ同姓ノ國ヨリ其族類ヲ選ニテ遣ルナリ、之ヲ媵妾トイフ、一國ニ三人合テ九人ヲ聘スルナリ、本妻死スルトキハ、次妃、次妃死スルトキハ下妃夫人ニ代リテ内事ヲ治ム、但レ夫人ト稱スル事ナキノ

同姓ヲ聘スルハ閨門ヲ治ルタメナリ、繼室トハ先妻ニ繼テ夫ノ室ニ在レハナリ **宋武公生**

仲子仲子生而有文在其手曰魯夫人故仲子歸于我婦

人謂嫁曰歸以手理自然成字有若天命故嫁之於魯○婦

人謂嫁曰歸本或無曰字此依公羊傳周ノ武王殷ノ紂王ヲ滅シテ帝乙ノ元

子微子啓ヲ封レテ宋ト云高丘ニ都ス十二世ノ後ヲ武公ト云諡法ニ克定禍亂曰武此仲子生レシ時ニ手

筋ニ篆書ノ魯ノ字ノ形ヲ顯ハセリ正義ニ曰石經ニ古文虞ハ尙ニ作リ魯ハ尙ニ作ルト安井衡曰ク

說文ニ女字アリ爲字ノ古文モ亦尙ニ作ル手文如此ナルベシ魯字ニ似タル篆様ノ筋アリシニヨリ時人

云此子後ニハ魯ノ婦人タラント、惠公此祥ヲ見テ、改メテ婚姻ヲナセシナリ天命トハ天ノ命ズルガ如ク

魯ノ季友ニモ文其手ニアリ友ト云唐叔モ文其手ニアリ虞トイフ手ノスレノ彷彿トシテ文字ノ形チヲアラハセルナリ、林注ニ爲魯夫人ノ四字アリト云ハ誤リナリ

諸侯ハ再ヒ娶ル事ナケレ共手文天命ノ然ラシムル  
ガ如クナルニヨリテ、禮ヲ犯シテ、夫人トナセシナリ

生桓公而惠公薨言歸魯而生男惠公不以桓生之年薨左  
氏

ノ文ニハ桓公ヲ生テスクニ惠公薨セレヤウニ思ヘ  
氏、此間年ヲ隔ル下有ナリ然レ氏幼弱ニシテ位ニ即

ニ及ハズ、是ヲ以テ、是以隱公立而奉之隱公繼室之子  
隱公位ニ即ケル也

當嗣世以禎祥之故成父志為桓尚少是以立為太子帥國

人奉之為經元年春不書即位傳隱公正ニ位ヲ嗣ベレ、然

レ天命定ル所有ダ如キ禎祥アレハ、父ノ志ヲ推量シ  
テ自ラ位ニ即カス、桓公ノ幼年ニシテ政事ヲ執ル事

アタハザルヲ以テ、但位ヲ攝レテ桓公ヲ立テ太子ト  
ナレ、國人ヲ帥テ之ヲ奉スルナリ、故ニ下ノ歳首ニ位

太子トハ父在  
ル時ニ立ルノ  
名ナリ、惠公薨  
スルノ前ニ桓  
公ヲ以テ太子  
ト為シタルナ  
リ、隱公が已レ  
ノ太子ニ為シ

タルニ非ス

周ノ平王四十  
九年己未ノ歳  
ニアタル

周ノ正月ハ夏  
ノ十一月ニ當  
レハ正月ハ即  
冬ナリ、然レ共  
是ヲ春ト書ス  
ルハ元ハ氣ノ

ニ即クヲ言ハス、此段經ニ  
先クツテ事ヲ始ルナリ

經元年春王正月。隱公之始年周王之正月也。凡人君即位

欲其體元以居正。故不言一年一月也。隱雖不即位然攝行

君事故亦朝廟告朔也。告朔朝正例在襄二十九年即位例

在隱莊閔僖元年。釋詁ニ曰元ハ始也正ハ長也此レ公ノ

也、故ニ正月ト言ス夏ノ代ハ寅ヲ建テ殷ノ世ハ丑ヲ

建テ、周ノ代ハ子ヲ建ツ、故ニ周ノ正月ハ夏ノ十一月

ニ當レリ蓋レ太初ノ時、建寅ヲ以テ正ト為ス、然レ共  
出之ニ從テ殷ニ至リ正朔ヲ改メ、周亦改タム、然レ共  
民間行ハル、西、古ノ曆ニ非レハ甚タ便ナラズ、故ニ  
周ノ世ニテモ、唯周ノ王城ノニ行レテ、下ニ行レザル

始者春ハ四時  
 始者王ハ命  
 受ルノ始メ  
 ナリ公ノ位ニ  
 即ハ一國ノ始  
 元年春王正  
 月公即位是ヲ  
 五始ト云フ春  
 秋緯ニ黃帝國  
 ヲ受テ五始有  
 リトハ此五事  
 フ云テリ  
 顛項ノ後六終  
 ト云モノ六子  
 子ヲ安ト云邦

也詩ニモ一之日齋發二之日栗烈トアリ又十月獲稻  
 爲此春酒トアリ孔子モ殷周ノ曆ハ民ニ便ケクナル  
 ヲ知リテ夏ノ時ヲ行ヘトフタマヘリ但レ即位  
 行フ等ハ周室ヲ尊トテ周ノ正朔ヲ奉ス故ニ王  
 ノ正月ト區別ヲ分タルナリ隱公ハ位ニ即カスト雖  
 トモ正朔ノ禮ヲ行ヒ先祖ノ廟ヲ拜シ始政ノ儀式ヲ  
 行フテ民ニ攝政ノ意ヲ示スナリ  
 諸侯ハ元ヲ改ル事ヲ得ザレハ也  
**三月公及邾儀父盟**  
**于蔑**附庸之君未王命例稱名能自通于大國繼好息民故  
 書字貴之名例在莊五年邾今魯國鄒縣也蔑姑蔑魯地魯  
 國下縣南有姑城公トイフハ其國ニ限ル事ナリ邾ハ小  
 國一テ諸侯ノ附屬同様ナ國ナレハ附庸ノ君トイフ  
 諸侯相互ニ盟フハハ牲ヲ備ヘ天地日月山川ヲ祀ス

ハ安ノ後ナリ

血ヲ軟リテ好シキヲ結ヒ臆シクスルヲ盟フナリ  
 儀父ハ邾ナリ王命セラレザルハ周王ヨリ木ヲ魯命  
 位階ヲ賜フヲ國ナリ王命無キ君ハ名ヲ言ナカ例  
 ナレトモ茲ニ邾ヲ書スルハ至孝謙讓ノ人ニ隱公  
 其其人ト爲メ喜コシテ盟ヲ結ノ事故孔子邾ヲ書  
 シテ之ヲ褒スルナリ所謂一字ノ褒貶トイフハ是等  
 人事ヲ云ナリ邾ハ曹姓ニテ解瑯ノ後トイフ周ノ武王  
 其苗裔ヲ邾ニ封レ附庸トナシ大諸侯ノ次ニ附ク家  
 ガラニテ魯ノ國ノ鄒縣トイヘル所古ハ邾ニ當ル  
 ナリ魯ノ地ハ姑蔑トイフ所ハ兩方ヨリ行ニ會盟セ  
 リナ  
**夏五月鄭伯克段于鄆**不稱國討而言鄭伯譏失教

也段不弟故不言弟明鄭伯雖失教而段亦凶逆以君討臣  
 而用二君之例者言段強大僞傑據大都以耦國所謂得雋

周宣王友ヲ  
 鄭封ス幽王



時ニ及シテ  
友其民ヲ號ニ

二遷ス、今河南  
新鄭縣鄭ナ

曰克也。國討例在莊二十二年。得雋例在莊十一年。母弟例

在宣七年。鄭在滎陽宛陵縣西南。鄆令潁川鄆陵縣。鄭ノ國

周ノ厲王ノ子宣王ノ母弟桓公友ノ後ナリ。鄭伯ハ莊公

也。諡法ニ勝敵克壯曰莊。國討ハ一國ノ人討クント欲

スル所ナリ。討タル者必ス賊タルヲ明カニスル也。

伯ハ位階公侯伯子男五等ノ第三ニ當ル位ナリ。今鄭

伯ト稱スルハ、兄ニシテ自ラ其弟ヲ討ツハ兄タル者

教ヲ失フ故ニ、此亂ニ及ヘル事ヲ譏ルナリ。所謂一字

ノ賤ナル者ナリ。段ハ其叔段ナリ。段モ亦弟ノ道ヲ失

ス故ニ弟ト言ハズシテ只段ト云トハ、亦其道ヲ失ヘ

ルヲ譏ルナリ。強大雋傑トハ臣モ大勢アリテ、力量モ

スグレ、常人ニ勝レル者ナリ。雋ハ俊ト同シ。才千人ニ

過ル、ヲ俊ト言。智十人ニ過ル、ヲ傑ト云テ豪邁ナ

ル者トミヘタリ。耦スルハ兄ノ國ト肩ヲ并ヘテ敵ス

ル程ノ勢イナリ。戰ヒヲシテ敵方ノ雋傑ノ士ヲ獲タ

ルヲ克トイフナリ。今ノ鄆陵縣トハ晉ノ時ヲ指テ言

秋七月天王使宰嚭來歸惠公仲子之賵。宰官。嚭名也。

也。啗贈死不及尸。弔生不及哀。豫凶事故。貶而名之。此天子

大夫稱字之例。仲子者桓公之母。婦人無諡。故以字配姓。來

者自外之文。歸者不反之辭。天王ハ周ノ平王ナリ。武王周

テ平王ノ世トナル。宰嚭ハ周ノ大夫惠公ノ薨スルハ

往年ニアリ。其明年仲子薨ス。尸ニ及ハザルハ、尸ハ未

タ葬禮ヲセザル内ノ事ナリ。尸ノ中ニ天子ヨリ弔使

來リテ、而シテ日ヲ選ンテ大斂ヲ為スナリ。仲子ハ病

杜注豫ハアラ  
カシメノ意ナ  
リ然レ共是ハ  
酒豫ノ豫ニテ  
怠ル意ナリ太  
宰ハ卿一人小  
宰ハ中大夫一  
人宰夫ハ下大  
夫四人宰嘒ハ  
何ノ宰ナルヲ

ニセス

スルナリ、帽ハ公羊傳ニ、乘馬束帛車馬ヲ以テストアリ何休ノ説テハ贈ハ猶覆フト同シ七者ヲ覆被スルヲ謂トアリ、何レ葬式ニ用ユル具ヲ天子ヨリ賜ハルナリ、仲子ハ惠公ノ妾同様ノ人ナレトモ、桓公ノ實母ナレハ夫人ノ禮ヲ以テ葬ル、故ニ天子ヨリモ丰厚ク賜リモノアリシナリ、天子ノ使ハ字ヲ言ベキトコロ、名ヲ言ハ勿卒ナル事ニテ、不行屈ノ使ユハ賤シタルナリ、婦人ハ法ニ於テ諡ナシ、故ニ字ヲ以テ姓ニ配ス、釋例ニ夫ノ諡ニ繫クベシト有テ、別ニ諡ハ、セヌナリ又妾ハ夫ニ繫クベカラストアリ、聲子戴嬭ナド、諡アル者ハ皆禮ヲ越テ妾作ナリ

**九月及宋人盟于宿**、客主無名皆微者也。

**宿小國**、東平無鹽縣也。凡盟以國地者、國主亦與盟例在僖十九年、宋今梁國睢陽縣。宋人ト言テ、名ヲ書セヌハ、微者ニテ輕キ者ナリ、魯國ヨリ遣ハ

私事ヲ以テ來ル是私交ノ始ナリ

小斂ハ假リ葬ナリ、禮ニ曰ク君ノ大夫ニ於ル大斂ス之カ

ス者モ又微者也、宿トイフ地ニテ盟ヒクレト、宿ノ國主モ此盟ヒニ與カル事ハ國名ヲ書スルヲ以テ明カニ知ラシムルナリ

**冬十有二月祭伯來**、祭伯諸侯為王卿士者祭國伯爵也、傳曰、非王命也、釋其不稱使、祭ハ小國トナリ、伯ハ戚ヲ封シテ蕃屏タラシム、以テ王城ヲ護ラシム、祭モト畿外ニアリ、穆王ノ時ヨリ來地ヲ畿内ニ移レテ、天子ノ内臣トナル、天子ノ内臣私レニ外交スル事ヲ得ザルナリ、祭伯ノ來ル王命ニ非スレテ私レニ來ル、故ニ使ト稱セサルナリ

**公子益師卒**、傳例曰、公不與小斂、故不書、所以示薄厚也、春秋不以日月為例、唯卿佐之喪獨託日以見義者、事之得失既未定、以褒貶人君、然亦非死者之罪、無

タノニ賜トア  
レハ小歛スト、  
卿ハ大夫ノ尊  
キモノユヘ小  
歛大歛トモニ  
君親ヲスルナ  
リ

辭可以寄文而人臣輕賤死日可略故特假日以見義公子  
ノ親族ナリ傳ニ衆父トアリ公子ノ葬ナリ新夕ニ死ス  
ル時小祭ヲ為スヲ小歛ト言フ日ヲ誌シテ本葬ヲ為  
スヲ大歛ト云卿佐ノ喪ニ公小歛ノ祭リニ與カラザ  
レハ其日ヲ録セサルナリ但シ春秋ハ日月ヲ録スル  
ヲ以テ例トハ為サス卿佐ノ喪ハ股肱ノ臣ユヘ痛傷  
亦殊ナリ故ニ日ニ託ヒテ以テ義ヲ見ス事ノ得失ト  
ハ人君ノ弔不弔ニヨリテ褒貶スル義モナク人君弔  
セヌカト云テ死者ノ罪ニテモナシ文辭ノ別段ニ加  
フベキ事ニ非サルナリ人臣ハ輕キ者ナレハ死日等  
ハ畧スベキナレド君ノ御弔ヒカ有ツタ時ハ日ヲ書  
シテ後人ニ示  
ス事モ有ナリ

**傳**元年春王周正月言周以別夏殷  
夏ノ建寅殷ノ建丑ノ  
正月ヲ分テ周ノ建子

攝ハ持ノリ國  
政持ツ所以ナ  
リ

ナルト又王ノ字  
ヲ以テ別ツナリ  
**不書即位攝也**假攝君政不脩即位之  
禮故史不書於策傳所以見異於常  
春秋事ナシトイヘ  
春ヲ書スルハ四季ノ

初メナレハナリ況ンヤ隱公此年ヨリ惠公ノ政ヲ繼  
テ國ヲ治レハナリ然レトモ即位ヲ書ヒザルハ政事  
ヲ攝スルノミ也猶周公ノ成王ニ於ルカ如ク然レ共  
周公ハ崩ト云ハスシテ薨ト云フ隱公ハ卒ト言ハス  
シテ薨ト云ハ政事ヲ攝スルノミナラス位モ攝スレ  
バナリ故ニ桓公ヲ太子トシテ大事ハ皆命ヲ專ラニ  
シ行フ其實ハ攝トイヘ凡眞ノ位ト同シ周公ト少シ  
ク異ナル事アレハナリ策ハ竹簡ニテ此時代ハ皆竹  
ヲ編テ文字ノ彫付タルモ  
ノ故策トモ簡トモ云ナリ  
**三月公及邾儀父盟于蔑邾**

是隱公攝命ノ  
始メ事ヲ行フ  
ナリ

**子克也**克儀父名未王命故不書爵曰儀父貴之也王未賜

命以為諸侯其後儀父服事齊桓以樂王室王命以為邾子

故莊十六年經書邾子克卒莊公十三年齊桓公北杏

桓公へ服事セシニヨリ桓公ノ推舉ニヨリテ周室へ

公攝位而欲求好於邾故為茂之盟解所以與盟也

政事ヲ行ス邾ハ小國ナレ共好ミヲ結ンテ大事ノ時

即キモ夏四月費伯帥師城郎不書非公命也費伯魯

大夫郎魯邑高平方與縣東南有郁郎亭傳曰君舉必書然

則史之策書皆命也今不書於經亦因史之舊法故傳釋之

費伯隱公ノ命  
ヲ用スレテ城  
ク臣下ノ公ヲ  
輕蔑スルヲ見  
ルヘシ

諸魯事傳釋不書他皆放此費伯ハ魯ノ國ノ大夫ナリ士

久公ノ命ニ非ルナリ故ニ史策ニ書セズ孔子ノ春秋

ヲ治ル法魯ノ史策ニ無キ者ハ明ラカニ知ト雖トモ

書セザルナリ史官モ亦公命ニ非リル事ハ誌サザル

ナリ故ニ經ニ書セザルハ史官ノ舊法ニ由レハナリ

左丘明ハ各國ノ史ヲ審ビラカニ閱シテ傳ヲ作ル故

ニ經ニ書セザルヲ釋クナリ下皆之ニ倣フテコハ口

得ヘ初鄭武公娶于申曰武姜申國今南陽宛縣是ハ經

克段于鄆ト云事ノ始末ヲ左氏カ詳カニ說出シタリ  
故ニ初メト云前ニ一段アレ共其初メト云事ナリ申  
ハ伯夷ノ後ニシテ姜姓ナリ周ノ宣王ノ時ニ申伯王  
ノ舅ナルヲ以テ改メテ謝ニ封セラレ詩經ノ崧高ノ  
篇ニ王命召伯定申伯之宅トアリテ舊家ナリ此家ハ  
小國ヲ領スルノミ申ノ國ノ武姜ト云娘ヲ娶リシヲ

一説生テ目ヲ  
瞑シテ死スル  
如ク、寤ト曰者  
ハ其終リヲ要  
スルナリ、醫方  
ニ小兒寤生マ  
ルモノアリ急  
ニ父ノ名ヲ呼  
ハ即チ蘇スト  
周禮六夢有寤  
夢

云 生莊公及共叔段 既出奔共故曰共叔 猶晉侯在鄂謂

之鄂侯 武姜ノ腹ヨリ此二人ヲ生ム、其ト云所ヘ 莊公寤

生驚姜氏故名曰寤生 遂惡之 寤寐而莊公生故驚而惡之

姜氏寐テ眠リタルウチニ生ル寤メテ生レタルヲ見

驚カレタル也、珍ラシキ安産ナレハ寤生ト名ヅケテ

祝セリナリト、然レ共之ヲ惡ムハ理ニ當ラヌ事ナリ

太宰春臺曰ク寤ハ忤也、古音同レキ者皆通用ス、忤ハ

逆也、蓋シ莊公逆生ス、故ニ姜氏驚ケリト、安井衛モ亦

史記ノ鄭世家ヲ引テ之ヲ産ニ難リト云ヲ以テ寤ハ

忤ノ假借ニテ逆ナリトス、子生レテ足ヲサキハ出ス

之ヲ逆生トイヌ其産最モ難シ、莊公逆生ス、故ニ姜氏

驚テ遂ニ之ヲ惡ムナリ、寐テ寤テ已ニ生ル、安産ナ

レハ、何ノ惡ム事ノアルバキ理ナレ、風俗通ニ云俗説

常ニヲモヘラ  
ク此兒生ル  
時ニ我ヲ苦マ  
シムト故ニ之  
ヲ惡ム  
傳五年ノ傳ニ  
號仲號叔ハ王  
季ノ穆也  
晉語ニ文王ニ  
號ヲ敬友ス號  
國本トニアリ  
晉ノ滅ス所ハ  
西號ナリ鄭ノ  
滅スル所ハ東  
號ナリ

ニ兒地ニ墮テ未タ目ヲ開ク事能ハス、視者ハ之ヲ寤

生ト云フト是亦惡ムベキ理ナシ、司馬遷ノ書ニ本ツ

ヒテ春臺息軒等 愛共叔段欲立之 欲立以爲太子 亟請

於武公公弗許及莊公即位爲之請制公曰制巖邑也號叔

死焉他邑唯命號叔東號君也 恃制巖險而不修德鄭滅之

恐段亦然故開以他邑號國今榮陽縣 餘リ、兄ヲサレ置テ

位ニ即ケンヲ請フ、武公許サス、武公薨レテ後、莊公

位ニ即ク、姜氏又段ノ爲ニ制ノ國ヲ請フ、莊公ノ云ル

ニハ制ハ昔シ東號君ノ居リシ城ナリ、鄭語ニ號叔勢

ニト申セシナリ、巖又嚴ニ作ル、制ノ地タル、要害堅固  
ニシ嚴重ノ國ナレハナリ、號、東西ニ國アリ、天號叔ハ

東號ニ居ラ、**請京使居之謂之京城大叔**、公順、姜請使段

居京、謂之京城大叔、言寵異於眾臣、鄭邑、今滎陽京城、莊公  
姜氏

ノ請ニ順テ、已事ヲ得ス、京ニ居ラ、其勢ガ強大ニナリテ、人呼テ大叔ト云フ、**祭仲曰都**

**城過百雉國之害也**、祭仲、鄭大夫、方丈曰堵、三堵曰雉、一雉

之牆長三丈高一丈、侯伯之城方五里、徑三百雉、故其大都

不得過百雉、祭仲ハ鄭家ノ老臣ナリ、都城ト云ハ鄭國ノ

君ノ廟アルル都ト云、又卿大夫ノ食邑ヲモ都ト云テ、  
家ノ多少ニ拘ハラヌ事也、韓退之ガ揚少尹ヲ送ル序

三堵ヲ雉ト為  
ス、一雉ノ牆長  
サ三丈高サ一  
丈、其長サヲ度  
ル者ハ、其長ヲ  
用ユ、其高サヲ  
度ル者ハ、其高  
ヲ用ユト云

ニモ為其都少尹トアルハ、河中ト云所ヘ到ルナレ共  
之ヲ都ト云ヘリ、安井衡曰ク雉ハ即チ繆之假借ナリ

ト周禮ヲ引テ之ヲ證ス、此說然ラン、繆ハ糾ト同シ、索  
ナリ、古說ニハ八尺ヲ板ト為シ、五板ヲ堵ト為シ、五堵ヲ

雉ト為ス、板ノ廣サ二尺、左氏ノ說ト異ナリ、孰レカ是  
ナルヤヲ知ラス、天子ノ城ハ方九里、公侯伯之ニ應シ

テ定則ア、**先王之制大都不過參國之一**、三分國城之一  
ルナリ

**中五之一小九之一**、今京不度非制也、不合法度非先王制  
大都ト云ハ國城ノ枝城ノ事ヲテ、我所謂ミヤコニハ  
非ルナリ、凡ソ王城ハ方九里ナレハ、五百四十雉ナリ、  
其大都ハ三分ノ一ナレハ、方三里ニシテ、百八十雉ナ  
リ、侯伯ノ城ハ方五里ナレハ、三百雉ナリ、其大都ハ三  
分ノ一ニシテ、方一里二百步、百雉ナリ、都ニ大中小ア  
リ、今共叔段ノ居ル所ハ先王ノ制度ニ背キタルヲ申

經世鈔ニ此時  
諒ニ母ヲ姜氏  
ト稱スルノ理  
ナシ是左氏ノ  
口語耳

周亮工ノ句讀  
蔓スレハ草ガ  
モ猶除可カラ  
ス  
莊公モ亦不仁  
兄弟ノ情ナキ  
モノ

セシナリ君將不堪公曰姜氏欲之焉辟害對曰姜氏何厭之

有不如早為之所使得其所宜祭仲ノ云ヘルニ制ニ非ル

事ノ出來ルモ計ラレス君モ堪忍ナルマコト公ノ云  
ルニハ母ノ姜氏ノ意ナレハ致シ方モ無キト如何シ

テ此害ヲ避ケン仲ノ云フ姜氏ハ愛子共叔段ノ事ユ  
ヘ何程廣キ所ニ置トテ厭ク事ナシ早ク所置ヲ付テ

叛カヌ先ニ所ガ無使滋蔓蔓難圖也蔓草猶不可除況

君之寵弟乎公曰多行不義必自斃子姑待之斃踏也姑且

也祭仲草ヲ以テ譬ルナリ滋ハ長ナリシゲルナリ蔓ハ  
ハビコルナリ捨置テハビコレハ圖リ難クナルハ蔓

草デモノゾクニムツカシキモノ也況ンヤ君ノ寵愛  
スル弟ヲヤ公ノ云不義ヲ行ヘハ天ノ惡シミヲ受テ

自ラ斃レル事アラント成タケ多ク不義ヲ行ハシメ  
テ手ヲ下サスシテ自ラ斃レシメントスルノ心ナリ

故ニ祭仲ニ姑ラク自滅ノ時ヲ待テト云レ也既而大叔命西鄙北鄙貳於己

鄙鄭邑貳兩屬鄙ハイナカノ邊上ニテ京城ニ近キ所ナ  
リ西北ニ處アリ其地ノ年稅ヲ大叔ノ方

ヘモ取り立ルユヘ兩方ヘ屬スルワケナリ公子呂曰國不堪貳君將若之何

公子呂鄭大夫兩屬スル所ハ賦役倍ス國民命ニ堪ヘザラントス欲與大叔臣請事

之若弗與則請除之無生民心叔久不除則舉國之民當生

他心ヲ悉ク大叔ニ與ヘント欲セハ臣モ亦大叔ニ事ヘル  
ニヨリ外ナシ若與ヘザラントナラハ臣等ガテテ盡

シテ大叔ヲ除カン猶豫シテ其地ノ民ニマテ大叔ニ事ルノ心ヲ生セルムルナカレ公曰無庸

經世鈔ニ無庸  
二字根毒ノ心

春秋左傳卷之十四

ヲ寫レ出ス老謀好心見ルカ如シ

將自及言無用除之禍將自及此事一就ラサノミ心ヲ用ルコナカレ自ラ斃レニ及

前兩屬者今皆取以為己邑大叔又收貳以為己邑

留酸棗縣北有延津追々横領レテ廩延ト云所マテ及ボセリ子封曰可矣厚

將得衆子封公子呂也厚謂土地廣大莊公ノ大叔ヲ討ンテモハヤ宜レキ時分ナリソロク討伐ノ備ヘラシテモヨキ也然レ共日日上地ヲ横領シテハ手厚クナリテ國モ廣大ニナルエヘ大衆ヲ得ルテアラフト云ナリ公曰不義不暱厚將崩不

義於君不親於兄非衆所附雖厚必崩不義ニレテムツマシカラス何程厚ク

廣大ニ地ヲ取リテモ衆人ノ親シミナクハ忽チ崩レント云フ大叔完聚完城郭聚人

民繕甲兵具卒乘歩曰卒車曰乘大叔十分ニ城郭ヲ完フシ人民ヲ集メ鎧甲ヲ鎗

ノ類モ調ヒ兵士ノ仕度モ出來士卒モ大勢集リ車モ用意ガ出來シナリ古ヘハ車戰ニテ戰士ハ車ニ乘リテ戰フエハ車ノ數ヲ以テ家ノ格式ヲ分ツ大夫ハ百乘ヲ出シ諸侯ハ千乘天子ハ萬乘ナリ天子ヲ萬乘ト云ハ車ノ數ヲ以テ云事此時周ノ天子ノ勢ヒ衰ヘテ萬乘ノ車ヲ出スカラハナク却テ諸侯ハ天子ニ勝ル

也大叔已ニ鄭ノ莊公ヲオヒ伐ントス姜氏ハ鄭ニアリテ内々手ビキヲシテ内外ヨリ攻サセントスルナリ

將襲鄭夫人將啓之啓開

也大叔已ニ鄭ノ莊公ヲオヒ伐ントス姜氏ハ鄭ニアリテ内々手ビキヲシテ内外ヨリ攻サセントスルナリ

也大叔已ニ鄭ノ莊公ヲオヒ伐ントス姜氏ハ鄭ニアリテ内々手ビキヲシテ内外ヨリ攻サセントスルナリ

也大叔已ニ鄭ノ莊公ヲオヒ伐ントス姜氏ハ鄭ニアリテ内々手ビキヲシテ内外ヨリ攻サセントスルナリ

也大叔已ニ鄭ノ莊公ヲオヒ伐ントス姜氏ハ鄭ニアリテ内々手ビキヲシテ内外ヨリ攻サセントスルナリ

也大叔已ニ鄭ノ莊公ヲオヒ伐ントス姜氏ハ鄭ニアリテ内々手ビキヲシテ内外ヨリ攻サセントスルナリ

也大叔已ニ鄭ノ莊公ヲオヒ伐ントス姜氏ハ鄭ニアリテ内々手ビキヲシテ内外ヨリ攻サセントスルナリ

リ厚レテ基ナケレハ必ス自ラ崩ル

崩レントス播屋以テ喻ルナ

春秋左傳卷之十四



叔于田ノ詩ヲ見レハ京人ノ段ヲ愛スルヲ困ヨリナリ而シテ莊公一戰シテ之ヲ破ルハ其期ヲ聞テ可ナリトアル如ク、冑中已ニ老謀深算、七分ニ調ヒタルナリ、且日々間諜ヲ入レテ、明細ニ京ノヲヲシレルナリ、孫復ノ説ニハ、

公聞其期曰可矣命子封帥車二百乘以伐京古者兵車一

乘甲士三人步卒七十二人莊公ヒソカニ問者ヲ入レテ、攻來ル日限ヲ知リ、子封ニ命

辛丑大叔出奔共共國今汲郡共縣莊公ノ臣、子封、京城ニ討入レニ、果シテ京ノ

諸民皆大叔段ニシキ、怒テ瓦解トナリレユハ、叔段

大ニ叔段ヲ討ツ、段大敗シ、書曰鄭伯克段于鄆段不弟

故不言弟如二君故曰克稱鄭伯譏失教也謂之鄭志不言

出奔難之也傳言夫子作春秋改舊史以明義不早為之所

而養成其惡故曰失教段實出奔而以克為文鄭伯志在於

克ハカ勝之辭正義ニ曰經ハ

皆孔子ノ書スル所此事特リ

書ノ曰ト云ハ必是舊史ハ然

ラス夫子始テ改ルユヘナリ

而養成其惡故曰失教段實出奔而以克為文鄭伯志在於

殺難言其奔段ハ不弟ニシテ、弟トノ道ヲ守ラス、故ニ弟ノ字ヲ省キテ書ザルナリ、是孔子ノ貶スル

所、此軍ハ二國ノ君ガ戰フヤウニ覺ヘリ、故ニ克ト云、

鄭伯自ラ軍ニ向ハズト雖モ、自ラ手ヲ下レタ同様に

起レ、遂ニ兄弟ノ道ヲ失フニヨリテ、鄭伯ト書ニテ鄭

伯ノ志シテ顯ハニ書タルナリ、劉炫ノ説ニハ克ヲ以

テスルハ其實狀ニ非ス、故ニ傳ニ之レヲ鄭ノ志ト

云ハ、孔子ノ意ニ克ト書スルハ是鄭伯ノ本志ヲ謂ナリ鄭伯ノ志シハ殺スニ在リ、其克ニテ欲ス、而シテ實ハ大叔、共ニ出奔ス、出奔スト言難キヲ以テ、克ツト云ナリ、正義ニ克ツハ戰勝テ賊ヲ獲ルノ名トス、鄭伯ノ意、則此ニ在リ、出奔ト言ハサレハ、鄭伯ノ志ヲ謂ナ

リ、故ニ之ヲ難ニスル所以ナリ、安井衛曰ク、段ノ勢イ  
強大ナリ、鄭伯僅ニ能コレニ克ク、其出奔スルハ、實ハ  
天幸ニ出ツ、ミ、仲尼春秋ヲ脩ハ、強臣ノ制ニ難キヲ  
見テ以テ後世ヲ戒シメント欲ス、故ニ出奔ト言ズ、傳  
其意ヲ釋テ曰ク、之ヲ

之曰不及黃泉無相見也。地中之泉。故曰黃泉。莊公、姜氏ノ

事ヲ怒テ、城潁ト云所、押込置キ、此世テハ見コル  
無ク、日月ノ照サザル所ニ至ラハ、又相見ルトモアラ

ノ説ニシテ古書ニ

未タ其例ヲ見ス、既而悔之、賴考叔為賴谷封人。封人

典封疆者。莊公モ真ノ母ヲ押込シユヘ、後又悔ル所アリ、  
封人ノ職ハ其土地ノ領分界ヲ典トル役人也。

淮南子黃泉之  
埃上為黃雲漢  
書律曆志種於  
黃泉孽萌萬物  
按スルニ莊公  
突然ト黃泉ノ  
語ヲ出ス是又  
當時ノ常語也  
棺ヲオサムル  
必ス黃泉ニ及

論語ニ儀ノ封人アリ、潁谷ハ

食舍肉八簡之對曰。小人有母。皆嘗小人之食矣。未嘗君之

羹請以遺之。食而不啜。羹欲以發問也。宋華元殺羊為羹。饗

士。蓋古賜賤官之常。莊公ノ悔心有ルヲ聞、公ニ獻上物ヲ

トキ羹ノ肉ヲ遺シテ食ハズ、是ハ公ニ問ヲ發セシメ

サルヲ問對テ云私ノ母ハ下賤ノ食ノミ、平日食ヲ

遺ラント云ヘリ、羹ヲ賜ハ貴

公曰。爾有母遺。繫我獨無。

繫語助。繫ハ歎息ノ聲、我獨無トハ母ヲ

バ、此世一テハ  
相見ルト無ト  
云、地中ニ入  
リシナラハ、埋葬  
ノ地モ隔ク、  
又事エハ、逢見  
ルトモアラシ  
カト云意ナリ

謂也。據武姜在殿疑也。取テハ語ノ助、用公語之故且告之。

悔。莊公今ニ於テ、母ヲ押込レ事ヲ悔ユルハ、臣下ノ前ニ

對曰君何患焉。若闕地及泉隧而相見其誰曰

不然。隧若今延道。君何ソ患ルトアテニ前ニ黃泉ニ及バ

警ヒシトモ、反古ニハ申サジ、隧ハ墓道ニテ貴人ハ埋ル

雖モ、アシカリトハ申サジ、隧ハ墓道ニテ貴人ハ埋ル

處マテ遠クヨリ、車ヲ引入ル、エハ斜

大隧之中其樂也融融賦賦詩也融融和樂也。莊公其言ニ

隧音遂墓道也  
林註地中道ト  
ナス誤レリ

ラセテ相共ニ逢ヒ、其嬉シサノアマリ、詩ヲ作  
テ歌ヒレナリ、融々ハヤハラキタノシム意 姜出而

賦大隧之外其樂也洩洩洩洩舒散也。莊公母ニ逢テ共ニ

元ノ如クニ親子和合スルヤウニ成タリ、ソコテ姜氏

氣力散ジル義 遂為母子如初君子曰賴考叔純孝也純

猶篤也愛其母施及莊公詩曰孝子不匱永錫爾類其是之

謂乎不匱純孝也莊公雖失之於初孝心不忘考叔感而通

之所謂永賜爾類詩人之作各以情言君子論之不以文害

意故春秋傳引詩皆不與今說詩者同他皆放之君子其

爾雅釋詁ニ訓

純為大則純孝

純臣者謂大考

大忠也

安井衡曰不匱

謂之純引伸之

訓大訓篤義皆

可通

タチヲ云純孝ハ篤シトアレド專ラト云字ニテ至テ  
孝行ナル者エヘ其母ヲ愛シテ又莊公ニマテ及ボセ  
ルナリ詩經ノ大雅既醉ノ五章ニアル詩ノ句ヲ引テ  
考叔ヲホメタルナリ置ズトハ孝子ノ誠ハツキヌモ  
ノニテ永ク其類ヲ天ヨリ賜ルトナリ之フトホレカ  
ラスト讀ハ誤リナリ詩ノ朱註ニ孝子ノ孝焜サルハ  
ハ永ク爾チニ錫フニ善ヲ以テスト云呂東萊モ君子  
既ニ孝ニシテ嗣ク子モ又孝アリ源源焜キスト謂ベ  
シトアリ孝ヲナセハ焜キヌモノニテ又其類ヲ錫フ  
ハ考叔ヨリ及ボシテ莊公ニ至レルヲ云ナリ文ヲ  
以テ意ヲ害セヌハ末ニモ詩ヲ引事多クアレト文義  
ノ其所ニ出合タ所ヲトリテ一篇ノ詩意引所ト違フ  
トモアラフガ大意ヲソユナハ子ハ咎ムバキニ非ズ  
詩經ノミヲ講シ説ク者トハ同シカラザル事モマ  
アリ秋七月天王使宰咺來歸惠公仲子之賵緩且子氏  
ナリ

林注一舉兩事  
皆非禮

尚書周官內有  
百揆四岳外有  
州侯伯注ニ四  
岳ハ其方岳ヲ  
總ル者ナリ州  
牧ハ各其州ヲ  
總ル者ナリ  
又曰考制度于  
四岳諸侯各朝  
方岳注ニ猶辟

未薨故名惠公葬在春秋前故曰緩也子氏仲子也薨在二  
年賵助喪之物緩ハユルヤカナリ怠ル義仲氏ハ末タ薨  
名ハ無キ事也春秋ノ前ト  
ハ隱公元年ノ前ノ事也

天子七月而葬同軌畢至言  
ハ隱公元年ノ前ノ事也

同軌以別四夷之國  
ハ數月ヲ經テハ來レヌ所アリ四夷ノ諸侯來テ軌ヲ同レクスルヲ云ナリ

至同在方嶽之盟  
諸侯ハ五月日ニ葬ル同盟ノ諸侯モ五  
月經レハ皆夫々ニ知リテ四方ヨリ集

大夫三月同位至古者行役不踰時  
諸侯方嶽ノ盟アリ東方ハ東嶽泰山西方ハ西嶽華  
山其四方ノ諸侯會盟シテ和親ヲ為ス是皆同盟ノ諸  
侯ナリ

肆一東后ヲ  
觀ルカ如シ

釋例ニ曰ク喪  
贈ノ幣ハ車馬  
ヲ贈ト云貨財  
ヲ贈ト云衣服  
ヲ贈ト云珠玉  
ヲ舍ト曰ス然  
シテ總テ之ヲ  
贈ト云フ  
襚ハ尸ニ衣ヤ  
舍ハ口ニ實ス

月ヲ限リテ歸レ、其  
時月ヲ過サミナリ  
士踰月外姻至踰月度月也。姻猶親

也、此言赴弔各以遠近為差、因為葬節、踰月ハ一月也、外姻

類ナリ、赴ハ、ツグル也、死事ヲ告ルヲ計ト云、赴  
モ同シ、弔ヲフニ、皆上下其節ノ定リアルナリ、贈死不

及尸、尸未葬之通稱、尸ハ牀ニ在ルヲ云フ、既ニ葬ルハ、大

ニ合ヌナリ、葬式ノ時ニ用ユル物ナレハ、  
牀ニ在ル中ニ贈ラ子バナラヌワケ也、弔生不及哀

諸侯以上既葬則練麻除無哭位諒闇終喪、練麻ハ喪服ナ  
リ、既ニ葬レハ、

喪服ヲ去テ、又哭スルヲナシ、諒闇ハ三年ノ喪中、只慎  
テ喪中ヲ勤ルナリ、使者ノ來ルニツトモニ相違シタ

ルナリ、是周ノ天子カ行届カヌ事ナレト、天子ヲ賤ス  
ルワケニユカヌ故、使者ヲ罪シテ、宰喟ト名ラレルシ

賤セシ豫凶事非禮也、仲子在而來贈故曰豫凶事、カニ

ナリ、知ラズシテ、凶事ヲアラカジメニシテ、猶仲子存生デ

有タリ、是禮ニ非ルナリ、按ズルニ豫ハ怠ル也、杜註ニ

據レハ仲子在ルヲ云テ、アラカジメノ意ナリ、左氏嚴

シク禮ニ非ズト云ハ、凶事ヲ怠レハナリ、惠公ノ喪事、

年ヲコヘテ來ル、天子ト雖モ諸侯ニ對スル禮ヲ怠レ

ハ、禮ニ非スト大書スルモ尤ナリ、アラカジメナレハ

大書スルニモ及バザルカ、太田  
錦城ニ杜註至此而對トイヘリ、八月紀人伐夷夷不告

故不書、夷國在城陽莊武縣紀國在東莞劇縣隱十一年傳  
例曰、凡諸侯有命告則書不然則否、史不書於策、故夫子亦  
不書于經、傳見其事以明春秋例也、他曾做此、紀ハ姜姓ノ  
國夷ハ何ノ

大斂ノ後ハ之  
ヲ用ル所ナシ

不及哀葬テ服

ヲ除クノ後ナ

洪範五行志傳云蜚負蟊夷狄之物趙之所生其為蟲臭惡

國ナルハ詳カナラス夷ヨリ告ザルニハ史官策ニ書サス故ニ孔子モ春秋ニ書ザルナリ凡ソ先方ヨリ告ル事アレハ書ス左モナケレハ書サス左氏ハ詳カニ諸國ノ史ヲ取テ誌セシエハニ書キシナリ

**不為災亦不書**蜚負蟊也莊二十九年傳例曰凡物不為災

不書又於此發之者明傳之所據非唯史策兼米簡牘之記

他皆倣此釋蟲云蜚蟊蝻蝻蝻蝻人郭璞云蜚則負盤臭蟲本草云蜚厲蟲也諸說有トモ只イナムシト解スベ

以此歲田ニイナムシ多ク生セシモ格別ニ害ヲ為ス又

故ニ書セザルナリ凡疫厲惡病等流行シテモ人ヲ損

殤スルヲ無レハ史策ニ書セザルナリ左氏ハカワツ

ノ事マテ詳カニ書スルハ諸國ノ史ヲ見盡スノミナ

ラス簡牘ノ手紙ナトモ兼取リテ書セルト云フ明ラカニ知ラシメンタメナリ

惠公之季年

敗宋師于黃黃宋邑陳留外黃縣東有黃城公立而求成焉

九月及宋人盟于宿始通也經無義例故傳直言其歸趣而

己他皆倣之惠公ノ末年ニ黃ノ地ニテ宋ノ軍ヲ敗レリ

經ノ解ニモ云如ク雙方使者ヲ使ハシテ盟ヒシエハ

ニ名ヲ書セザル也義例ナシトハ義理モ古例モ無モ

ノハ只其趣キノ歸スル所ヲ書スルノミ也

冬十月庚申改葬惠公公弗臨故

不書以桓為太子故隱公讓而不敢為喪主隱攝君政故據

隱而言惠公ノ葬ニ當テ宋ノ國ト不和ニテ軍ヲ起セシ

事アリ夫葬式ヲ畧シテ置キシ故今又改テ本葬

ヲナセシナリ隱公喪主ニナラヌハ桓公ト云太子

カ有ニハ其場へ出ザルナリ太子ト定メシハ惠公存

李笠翁曰葬重事也以攝位故遂不哭臨為喪主何厚於生第薄於死也哉隱於父子兄弟間

恃矣

惠公ノ時宋ヲ  
伐チ黃ニ敗ル  
薨スルニ方ツ  
宋人黃ノ敗  
ヲ報スルノ軍  
アリ、

生中ニテ隱公ハ政ト位ヲ攝シテ居ルノミ、按スルニ  
桓公此時僅ニ三歳、隱公政ヲ攝シ、兼テ位ヲ攝ス、周公  
カ成王ヲ輔ル意ト少シク異ナリ、惠公ノ大葬ニ當リ  
テ、隱公長子トシテ、其場ニ臨マサル事アルベキヤ、周  
公武王ノ葬ニ臨マザルコトヲ聞カス、特ニ惠公ノ葬ニ  
ハ、衛侯モワヤク来ラレタリ、諸侯ノ葬ニ諸侯會スル  
ハ、禮ニ非ス、皆大使ヲ遣ハスナリ、然ルニ隱公ト相見  
ス、是必ス隱公疾病事故有テ葬式ノ場ニ臨ムト能ハ  
ハザルナリ、夫故、衛侯ニモ也、ザルナリ、隱攝政ノ初  
メ自ラ邾ト交リテ厚クス、況ニヤ、衛侯千里ヲ遠シト  
ヒズシテ、**惠公之薨也有宋師、太子少葬、故有闕、是以改**  
**葬、**衛侯來會葬不見、公亦不書、諸侯會葬、非禮也、不得接、公  
成禮、故不書於策、他皆倣此、衛國在汲郡朝歌縣、太子ハ桓  
公ヲ言ナ

衛ノ國ハ侯爵  
ナリ、姬姓、文王  
ノ子、康叔封セ  
ラル、ノ後ナ  
リ

公子豫往シテ  
ヲ請テモ許サ  
レザルユ、自  
ラ公ニ告メシ  
テ往クハ公ヲ  
輕侮スルノ情

リ、葬闕ルコト有テ、出軍ノ事ニ付テ諸侯ニ計テ、本葬ヲ  
行ハザルナリ、葬ニ同盟ノ諸侯ハ、皆重役ノ使者ヲ遣  
シテ弔ガ禮ナリ、衛ノ國ノ先祖ハ、周ノ武王ノ同母少  
弟、康叔ノ封セラレシ後ナレハ、魯ノ國トハ別段深キ  
因アレ、**鄭共叔之亂、公孫滑出奔、衛公孫滑、共叔段之子**  
**衛人爲之伐鄭、取廩、延鄭人、以王師、虢師伐衛南部、**虢西虢  
國也、弘農陝縣東南有虢城、請師於邾、邾子使私於公子豫、  
公子豫魯大夫、私請師、豫請往、公弗許、遂行及邾人、鄭人盟  
於翼、翼邾地、**不書、非公命也、**共叔段ノ亂ニ叔段ノ子、公孫  
滑ナル者、衛ノ國ハ奔リテ、衛  
公ニ依リレカハ、衛尻柳ヲシテ軍ヲ出シテ、鄭ノ廩延  
ヲ取レ、鄭國ノ軍人東周ト號トニ加勢ヲ請テ、衛ノ

ヲ詳カニアラハセリ

公命ニ非ラ大書スルハ臣下ノ横專ヲ知ラセシガ為ナリ

祭伯來ルモ亦王命ニ非ス春

春秋左傳

卷一

國ノ南鄙ヲ伐ツリ、又如執ヲ邾ノ國ニ請フ、邾ハ小國ニシテ人數モ少ナケレハ、魯ノ大夫公子豫ニ内々ス、メテ軍ヲ出サシメントシタリ、公子豫手勢ヲ引テ往ントテ、隱公ニ請ヒ、隱公許サレバ、遂ニ自ラ志ヲ決シテ往キ、邾ノ軍人鄭ノ軍人ト翼ト云ル所ニ於テ盟ヲナシタリ、是又隱公ノ命ニ非レバ、策ニ書サザル

新作南門不書亦非公命也非公命不書三見者皆興作大事各舉以備文魯ノ郭門ヲ建テタルナリ、隱公ノ命ニ非ズレテ之ヲ建ツ、故ニ策ニ書セ

ザルナリ、隱公位ヲ攝ス、假リニモ公ト云、尊バスンバアルベカラス、魯ノ臣、隱公ヲ輕蔑シテ、私レニ事ヲ行フ、公命ニ非ル者ミタビ書ス、君臣ノ間、推テ知ルベシ、後ニ禍ノ起ルハ、臣下ノ強梁ナルニ據ルコトヲ知ラシメンガタメナリ

十二月祭伯來非王命也衆父卒衆父公子益

秋ノ世君命ヲ蔑ニスルヲ知ラシム

日ヲ書セ又バオリテ公益師ニ薄キヲ示ス意

師字。公不與小斂故不書日。禮卿佐之喪。小斂大斂。君皆親臨之。宗恩厚也。始死情之所篤。禮之所崇。故以小斂為文。至於但臨大斂及不臨其喪亦同不書日。禮ニ曰ク、君ハ大夫

ガ為ニ賜フハハ小斂スト、卿ハ大夫ノ尊キ者ナリ、自ラ往テ斂ニ與セル可キ事、アタリマヘナリ、小斂ヲ以テ文ヲ為ルハ、始テ死スルノ時ハ、情ヲ篤クスベキ道理ナリ、小斂ニ平ヲハ子バ、大斂ニ平フトモ平ラハマ

共、日ヲ書セザルナリ、禮ニ云ス、賜フハ小斂ストハ葬儀ニ就テ賜ハリ物アルハ、小斂ニ先ツ平フベキナリ、益師ハ大夫中デモ、重キ人ユヘニ、小斂ノ儀、賜リモノアリテ、平ラハ子バナラヌナリ、安井衡ノ説ニハ

君大斂ニ與カルハ禮ノ常ナレハ、日ヲ書セ、若賜フ日有ハ、日ヲ書レテ、君ノ恩寵ノ隆盛ナルヲ示スナ

春秋左傳

卷一

二十三



リ、其寵ト不寵ニヨリテ、君ノ賢ト不肖モ自ラ  
從テ知ルヘキ道理、杜注未ク悉サザルナリ

**經** 二年春公會戎于潛。戎狄夷蠻皆氏羌之別種也。戎而書

會者順其俗以為禮皆謂居中國若戎子駒支者陳留濟陽

縣東南有戎城。潛魯地。魯ノ地ハ東ノ果テナレドモ、西ノ

會盟フセシノリ、氏羌ハ西戎ノ惣名ニテ其別種ナリ、

子ト云ハ五等ノ官ニテハナク、魯ヨリ稱シテ云ノミ

ナリ、是時戎ガ主人トナリテ隱  
公ヲ招キ親シミヲ結ベルナリ **夏五月莒人入向**向小

國也。譙國龍亢縣東南有向城。莒國今城陽莒縣也。將界師

少稱人弗地曰入例在襄十三年。周禮一萬二千五百人ヲ

師ト為シ、五百人ヲ旅ト為ス、人數ノ多キモノノ師ト

云、軍ト云、皆書法アリ、コノ二人トノシ云、人數ノ少キ

軍トモ師トモイヘヌ程ニテ、將モ名ノ無キ輕キモノ

ナリ、入ルト云ハ、敵地ヘ入リシノミ、地モ取ラズ城モ奪

ズ **無駭帥師入極**無駭魯卿極附庸小國無駭不書

氏未賜族例在八年。無駭ハ魯ノ卿大夫ナレ共未ク天子

セルナリ、姓ヲ賜レハ、公子某ト書ナリ、師ハ二千五

百人前後ノ人ヲ率テ入レケリ、族ノ例ハ後ニアリ **秋**

**八月庚辰公及戎盟于唐**高平方與縣北有武唐亭八月無

庚辰庚辰七月九日也日月必有誤。公又前ノ戎ト唐ト云所

會スト有ルハ未ク盟約ヲタシカニセヌナリ、**九月紀**

杜元凱自長曆ヲ作、春秋ノ日月ヲタシカニシラベ、日月ノ誤、甲子正セシ也、甲子ノ誤、ソハ魯ノ史官ヨリ書誤

前史ニヨリテ  
書マシテ人古  
人春秋甲子ノ  
誤ノハトラス

裂繻來逆女。裂繻、紀大夫。傳曰：卿為君逆也。別，卿自逆也。逆

女，或稱使，或不稱使，昏禮不稱主人。史各隨其實，而書非例

也。他皆放此。紀ノ國ノ大夫カ、其君ノ為ニ魯ノ女ヲ迎ル

書スルナリ、故ニ卿ノ自ラ迎ルトヲ別ツトアリ、釋例

ニ大子娶ルハ、王后ヲ逆ト書シ、君ノ為ニ逆ルハ、

女ヲ逆ルト書シ、自ラ逆ルハ、逆ル

所ノ字ヲ書ス、是尊卑ヲ分ツ次第ナリ。冬十月，伯姬歸于

紀。無傳。伯姬，魯女，裂繻所逆者。伯姬ハ魯ノ女、長女ナレハ

夫ノ家ニ嫁入スルヲ歸ト云、カ

紀子帛莒子盟于密。子帛ハ魯ノ大夫、莒子ハ魯ノ大夫、盟于密

之。子帛為魯結好，息民，故傳曰：魯故也。比之內大夫而在莒

子，上稱字以嘉之也。字例在閔元年，密莒邑，城陽，溥于縣東

北有密鄉。子帛ハ裂繻ノ字ナリ、紀ト婚姻ヲ為セ、ニヨ

紀ノ國ヨリ和解ヲダシテ、怨ヲ共ニ釋カシメ、盟ヲ為

マシ也、魯ニテハ大ニ裂繻ノ功ヲ賞シ、字ヲ書シテ嘉

シ、我家ノ大夫ノ如クニ取扱ステ、莒子ノ上ニ字ヲ書

シテ、誌セシナリ、凡ソ魯ノ大夫、他國ヘ往テ會スル時

ハ先ニ魯ノ大夫ヲ書シ、下ニ某ノ人ト書スルガ法ナリ

十有二月乙卯，夫人子氏薨。無傳。桓未為君，仲子不應稱夫

前ニ天王ヨリ  
誤テ帽ヲ贈リ  
シ、後一年ヲ經  
テ薨セシトナリ

春秋左傳卷之九

卷九

子氏公羊傳隱  
ノ母ト為ス穀  
梁傳隱公如妻  
トナス

天王妾ニ帽ヲ  
贈ルノ例ナシ

也。不反哭故不書葬例在三年。子氏ハ仲子ナリ、疏ニ曰ク

ト為ラス、仲子夫人ト稱スベカラズ、今夫人薨ストハ、  
隱公之ヲ成スル、桓ニ讓テ大子トナシ、其母ヲ崇シテ

夫人ト稱シ、且諸侯ハ夫起シナリ、妾并衛ヲ説ニ、仲子  
手ニ文有ルヲ以テ、既ニ夫人ト稱シテ以テ魯ニ歸ゲリ、

其生々所少シト雖モ、夫子ト為ル云々、案スルニ周ノ  
平王仲子ノ死ヲ誤聞シテ、惠公ノ帽ト共ニ贈レリ、然

ラハ、仲子ノ夫人タル事ハ、隱公ヨリ諸侯ニ告ケズト  
モ、周ノ天王既ニ之ヲ知レリ、桓ニ讓テ大子ト為ル

大子ノ母トレハ、夫人ヲ以テ諸侯ニ告ルトハ、杜氏此  
經ヲ誤解セシナルベシ、反哭セザルハ、又隱公其場ニ

臨マザル也、葬ニ臨マズ、鄭人伐衛、凡師有鐘鼓曰伐例、  
故ニ葬ヲ書セザルナリ、鄭人伐衛、凡師有鐘鼓曰伐例、

在莊二十九年。

二年春公會戎于潛、脩惠公之好也。戎請盟、公辭許其脩

好而不許其盟。禦夷狄者不壹而足。戎ハ貧シテ、盟ヲ信ス

モ、曩昔ノ事アルコトハ、血ヲ斷テ盟ヲ為ス事ハ、辭セラ

ルニナリ、先代惠公ノ會セシ事アルコトハ、其好ミヲ

以テ又會ニ臨ムレシガ、戎狄ハ詐偽多キモノトシテ、  
壹シヒセニシテ、盟會ニシテモ、服従ル者ニテハ、漸

ク以テ教ヘテ、真ニ歸服。莒子娶于向、向姜不安、莒而

歸。夏宮人入、向以姜氏還。傳言失昏姻之義、凡得失小故、經

無異文、而傳備其事、案文則是非、足以為戒、他皆放此。前ニ

春秋左傳

卷九

二十五

世本ニ莒ハ巳  
姓向ハ姜姓ナ

歟ヲ押出シテ亂入ルテ地ヲ取ラス城ヲ取ラス只姜女ヲ奪ヒ取テ歸リシナリ孔子ノ經文ニハ此様ナ細カナ事ハ書セザレト左氏此等ノ事ヲ備サニ書スルハ後世ノ戒シメトナル事モアレハナリ外皆之ニ做

也フ司空無駭入極費也魯司徒司馬司空皆卿也

齊父費伯也前年城郎今因得以勝極故傳於前年發之

司徒司馬司空ハ魯ノ三卿ニテ重官也費伯先年隱公ノ命ハナケレ共郎ニ城ヲ備ヲ為シ今極ニ勝タルハ

無駭ナレ共費伯ノ城ヲ築キシニヨル先ニ左氏戎請カ書セレハ此事ヲ發センガ為也齊父ハ費伯

盟秋盟于唐復脩戎好也戎又盟ヲ請フ先九月紀裂繻來

逆女卿為君逆也冬紀子帛莒子盟于密魯故也魯國ト和睦サセン

變雅隆曰隱公首與戎會孔子特筆書之雖不加股亦其失自

見而左氏以為猶惠公之好惡非其真則惠公有舊好其庸脩之耶

齊藤拙堂鐵研餘滴之字ハ助字ナル事ヲハセタリ曰ク春秋日食之論語當著於歸必表而出之孟孟手舞之足踏之皆為助語

ガ為ナリ鄭人伐衛討公孫滑之亂也治元年取廩延之亂大

段ノ子衛ハ逃レテ鄭ノ廩延ヲ取タルヲ討カハシテ事ヲ平ゲシナリ

經三年春王二月己巳日有食之無傳日行遲一歲一周天

月行疾一月一周天一歲凡十二交會然日月動物雖行度

有大量不能不小有盈縮故有雖交會而不食者或有頻交

而食者唯正陽之月君子忌之故有伐鼓用幣之事今釋例

以長歷推經傳明此食是二月朔也不晝朔史失之書朔日

例在桓十七年日食ノ事近時西洋ノ天文類ヲ行ハ審ヲカニ説ク古説ヲ解スルニ及ハス古ハ

天子ノ死ヲ崩ト云ハ大山ノ崩ル、カ如クナルニ譬フ

日食ノ理明カナラス、物有テ外ヨリ来リ、食フ如クニ覺ヘ、食フ一有リノ字ヲ用ユ、是皆孔子以前魯ノ史官ノ書法ニシテ、孔子モ改メザル也、正陽ノ月ハ四月也、古ハハ四月朔日食スレハ大ニ忌ミ、社ニテ鼓ヲ打テ幣ヲ用テ國王ノ不徳ヲ攻ム、又十月ノ朔モ忌ム事トシヘタリ、日月運轉ノ理ニ明ラカナラズ、兩蝕ノ定期アル事ヲ知ラザルキハ、不思議ニ思ス君臣ノ不徳ナド、言テ鼓ヲ鳴ラシテ、天ノ怒リヲ畏レシ等、曆法ニ暗キ時ハ左モアルベキ事ナリ、朔ヲ書セザルハ史官ガ失念セシナリ、孔子モ亦其マ、書レヲケルナリ、故梁傳ニ日ヲ言テ朔ヲ言ハザル食ハ、三月庚戌天王崩、晦日也トアレド、確説ニハ非ルベシ、三月庚戌天王崩、周平王也、實以壬戌崩、欲諸侯之速至、故速日以赴、春秋不書實崩日、而書速日者、即傳其偽、以懲臣子之過也、襄二十

九年傳曰、鄭上卿有事、使印段如周、會葬、今不書葬、魯不會、日ヲ遠クシテ、諸侯ニ速カク至ラシメシトセシナリ、實ノ崩日ヲ書セザルハ、臣子ノ偽リヲ言ヘル事ヲ懲サンガ為ナリ、鄭ノ上卿差ツカヘ有テ印段ト云ル者ヲ遣レテ、周ノ葬式ニ會セシメタリ、夫サハ無禮ナル事故ニ、左氏之ヲ大書セリ、今魯王周ニ如テ葬式ニ會セズ、故ニ日ヲ書セスレテ魯ノ不敬ヲ顯ハセルナリ

夏四月辛卯君氏卒、隱不敢從、正君之禮、故亦不敢備禮於其母、君氏ハ隱公ノ女、聲子ナリ、君氏ト謂ハ君ノ母氏ナレバ也、隱公正君ノ禮ニ從ヘハ、夫人歿ストスベキナレ共、桓公ヲ以テ君トスルノ心ニテ、禮ヲ省キテ、卒スヒシルコシナリ、秋武氏子來求、武氏子、天子大夫之嗣也、平王喪在殯、新王未得行其爵命

母舅ヲ呼テ母氏、魯氏トイフニ同シ、類ハナリモガリ也

冢宰ハ支配ス  
ル役人合テ冢  
令ノ長キル者

聽於冢宰故傳曰王未葬釋其所以稱父族又不稱使也魯  
不共奉王喪致令有求經直文以示不敬故傳不復具釋也

和ハ宋公ノ名  
ナリ同盟ノ時  
ニ互ニ告ル故

武氏ハ周ノ大夫ノ姓其人未タ大夫ト成ラス新王ニ  
ナリテ未タ武氏ノ爵命ヲ行フコトヲ得ス故ニ字ヲ言  
ハス名ヲ言ハス父ノ族ヲ以テ稱ス新王未タ喪中ニ  
居テ政事ヲ聽クコトヲ得ス萬事冢宰ニ聽テ行ス人  
ヲ使ヒニ出スモ王自ラ命スルコトヲ得ス故ニ此人王  
ノ使ト稱スルコトヲ得ザルナリ時ハ財ヲ以テ喪ヲ助  
クルヲ以テ魯ヨリ速ニ周ニ往テ供物ヲ奉スベキヲ怠  
リテ奉セズ夫エハ周ヨリ使者來レルハ魯ノ不敬ヲ  
明ラカニ示スワケ也經文ニ正シク  
書マシ故ニ傳ニハ貶ニ釋サルナリ  
八月庚辰宋公和  
卒稱卒者略外以別内也元年大夫盟於宿故赴以名例在

ニ名ヲ以テ記  
ス

七年 宋ノ君ノ死セシハ、薨スト書マキナレト、卒ト書ハ  
魯國ノ私記ニヘニ、我君ヲ貴クシテ、外ノ國ノ君ヲ

齊侯ハ齊僖公  
也鄭伯ハ鄭ノ  
莊公也

畧シテ書ス也、元年ニ宿テ盟フタル日ニ、天地山川ノ  
神ニ告ルニ名ヲ以テシ、同盟ノ國ヘハ、互ニ名ヲ以テ  
ス、故ニ名ヲ記  
シテ有トリ  
冬十有二月齊侯鄭伯盟于石門來告故

書石門齊地或曰濟北廬縣故城西南濟水之門 魯ノ國ヘ  
告ケ來リ

穆公ヲ葬ルト  
ハ宋ニ行テ穆  
公ノ葬ニ會ス  
ルナリ

癸未葬宋穆公無傳魯使大夫會葬故書始  
死書卒史在國承赴為君故惡其薨名改赴書也書葬則舉

謚稱公者會葬者在外據彼國之辭也書葬例在昭六年  
遣テ葬ルトキハ其使ノ名ヲ書ス大夫ヲ遣ルハ其  
名ヲ書セス大夫ハ位卑クケレハ也始メ死スル時ハ

謚ヲ云片ハ公ト稱スルカ例文ニテ其國ノミニ限ラス他國ニテモ公ト稱スルナリ

後ル、十二日ナリ

安井衡曰隱公攝立聲子生存之日、不取稱夫人、故不言葬

卒スト書スルハ魯國ノ君ノ死ルハ薨スト書スルユ  
ハ同等ニハ書ケヌワケ也、薨ハ諸侯ノ死スルニ書ス  
ル例ナレド、我君ノ為ニ薨ト書スルヲ惡ム所以ナリ、  
葬リテ書スルニハ謚ヲ舉テ公ト稱スルハ、葬式ニ往  
タル者向ノ國ニ在テリキノ國ノ事ヲ貴マテハナラ  
ヌワケユヘ、向ノ國ニ在テ書レ送リタルマ、魯國ノ  
史官モ書留メ置シナリ

**傳**三年春王三月壬戌平王崩赴以庚戌故書之夏君氏卒

聲子也不赴于諸侯不反哭于寢不祔于姑故不曰薨不稱

夫人故不言葬夫人喪禮有三薨則赴於同盟之國一也既

葬日中自墓反虞於正寢所謂反哭于寢二也卒哭而祔於

不書姓也

祖姑三也若此則書曰夫人某氏薨葬我小君某氏此備禮

之文也其或不赴不祔則為不成喪故死不稱夫人薨葬不

言葬我小君某氏反哭則書葬不反哭則不書葬今聲子三

禮皆闕釋例論之詳夫人ノ三禮トハ、死スレハ、同盟ノ諸侯ニ赴クル一ナリ、既ニ葬リテ、正寢

ニ入リテ哭スル、之ヲ葬奠ト云ス、反哭トハ、カヘリテ

哭スル也、コレニナリ、姑ノ神主ノ廟ハ、位牌ヲ入テ祭

ル、若、姑存生ナレハ、祖母ノ神廟ハ、入テ祭ル、之ヲ祔ト

云フ、コレ三也、如是三禮備レハ、夫人薨ス、又我小君ヲ

葬ルト書ス、諸侯ニ赴ケス、寢ニ反哭セズ、姑ニ祔セハ、

聲子ノ死スル此三禮皆行ハズ、故ニ薨ト云ハス、卒ト

哭スルニモ時聞人定人アリ  
テ哭ス定人外ハ哭セズ、廟ヲニ禮ヲ以テ哭スルハ、真ニ哭スル者ハ少ナク、哭スルマ子テスル様ナル

不書姓為公故曰君氏不

書姓辟正夫人也。隱見為君。故特書於經。稱曰君氏。以別凡

妾。姓ヲ書セザルハ、隱公政事ヲ攝スルノニ、故ニ、姓ヲ

政ヲ攝シテ、位ヲ攝シテモ、魯ノ君ニハ相違ナケトハ、君

氏ト稱シテ、臣下之ヲ貴ビ、妾ヤ、滕ト格式ヲ別テ、所ナ

リ、公羊傳穀梁傳尹子卒トアリテ、君氏ト為サス、天子

ノ大夫ト傳ヒ、歐陽公ノ春秋論ニ、此事ヲ論セリ

鄭武公莊公為平王卿士。卿士、王卿之執政者。言父子秉周

之政。鄭ノ武公莊公親子諸侯ニテ、周ノ卿トナリテ、政ヲ執レルナリ。王貳于虢。虢西虢公。

亦仕王朝。王欲分政於虢。不復專任鄭伯。周王、虢公ヲ愛シ

執ラシメントシ、鄭伯親子ニ擅マ、ニ、為サラシメン

トス、書ノ大禹謨ニ、任賢勿貳トアル。貳ト同シ事ニ、

鄭伯怨王。王曰無之。故周鄭交質。王子狐為

質於鄭。鄭公子忽為質於周。王子狐、平王子。是ニ於テ鄭伯

王崩。周人將畀虢公政。周人遂成平王本意。平王崩御ノア

虢公ハ人望ノアル人ニテ、平王モ存生中鄭伯ヲ退ケ

也。四月。鄭祭足帥師取温之麥。秋。又取成周之禾。四月。今

呂祖謙曰周天子鄭諸侯也左氏並稱周鄭無尊卑之辨矣



二月也。秋今之夏也。麥禾皆未熟。言取者。善踐之。温今河

内温縣。成周洛陽縣也。是ヨリ鄭伯國ニ歸テ祭足ト云

又成周ノ稻ヲ踐荒シ、亂暴ヲ為シタリ、四月ハ建子ノ

未夕熟セズ、稻モ未夕實ラス、時ニ周ノ領地ハ亂入シ

テ害ヲ為シタルナリ、此說種々アリ、馬宗璉ハ夏正ヲ

用ルト云、然ラハ皆熟シタル後ナリ、傳既ニ周鄭交惡

兩相疾惡、是ヨリ周鄭互ニ君子曰、信不由中、質無益也、明

恕而行、要之以禮、雖無有質、誰能間之、苟有明信、澗、谿、沼、沚、

之毛、谿亦澗也、沼池也、沚小渚也、毛草也、君子ハ前ニ有

林注、明ハ彼此相知ハ、恕ハ彼此相諒ナリ

間ハヘダツルナリ

ヲリニテ云信ノマコトガ中ヨリ出キ、質ヲ取カハストモ、益無ク也、互ニ期カニ恕ノマコト心アリ、行ヒ、之ニ禮ク用ヒテ交ハ人質等ハ無クトモ、誰カ間スル事アラズ、苟クモ明ト信ト有ハ、谷々池沼ノ小草ナリ、皆食ス、藟、藻、溇、藻之菜、藟大萍也、藻、藟、藻、藻、藻也、藟ハ

草也、正義曰、釋草云、草藟其大者、藟紫ハ白蒿也、カハラヨモ、藻、溇ハ水草也、藻、溇ノ小ナルモノ、ハハリ水

草ナリ、皆食ス、筐、筥、錡、金之器、方曰筐、圓曰筥、無足曰金、

有足曰錡、筐、筥ハ、竹ニテ製シタル、食ヲ盛ル器ナリ、錡ハ、飯ヤ羹モノヲ煮ルナメカマ類ナリ、潢、汗、

行、潦、之、水、潢、汗、傳、水、行、潦、流、潦、潢ハ小水ノ流レナリ、汗ハ水タマリナリ、行、潦、ハ路

タノ水、可、薦、於、鬼神、可、羞、於、王、公、羞、進、也、カク職ラハ、信

正義曰、行ハ道ナリ、雨水之ヲ潦ト云フ

有テ明白ナラハ、神靈ハモ進ムベク、王侯貴人ハモ羞ムベキナリ、羞ハ調和シテ進ムル也、進ムハ供フル也、

而況君子結二國之信、行之以禮、又焉用質、通言盟約彼此

之情、故言二國、君子タル人、禮ヲ以テ交リテ結ヒ、信義ヲ行テ、志シテ竭スニ、何ソ質ヲ取カハス

事ノアツルマキ理ナシ、且風有采繁采蘋、采蘋采蘋詩、國

風義取於不嫌薄物、詩經ノ國風召南ノ詩ノ言、クスキ物ヲ嫌ハス意雅有行葦、洞

酌、詩大雅也、行葦篇義取忠厚也、洞酌篇義取雖行潦可以

共祭祀也、行葦ノ篇ハ、兄弟親戚相集リテ、心ヨク遊ヲ開クヲ作レリ、葦ヲタトヘルハ、路バタノ葦ヲ

モ、フムトナカレ、ケガスナカレト云ル義、一微物ヲモ、取收メテ用ヲナスコトヲ譬ヘシナリ、洞酌ノ篇ハ、行

安井衡曰行ハ道也、葦ハ葭也、道上段ヲ生マ、又牛羊必ス踐

履ハ今愛養シテ之ヲ成ス義、亦微物ヲ棄テサルニ取ル故ニ序ニ云行葦ハ忠厚也

潦ノ水ト雖モ、祭祀ニ共スベキヲ云ヘル也、昭忠信也、明有忠信之行、雖薄物、

皆可為用、此詩ハ皆忠信ノ義ヲ明ニシテ、物ノ厚薄ニカ、ハラザレテ示セルナリ武子子來

求賻王未葬也、葬式ノ入用ヲ、諸方ノ諸侯ハ求ルニハナリ宋穆公疾、召大司馬

孔父而屬殤公焉、曰先君舍與夷而立寡人、先君穆公、兄宣

公也、與夷宣公子、即所屬殤公、宋ノ穆公病テ死ニ臨マシトスルオニ、大司馬ノ孔父

是ハ孔子六世ノ祖ナリ、名テ言フ、先君宣公、與夷ト云ヘル實子ヲ置テ、弟ノ穆公ヲ立テ、主トセリ、與夷ハ

穆公ノ甥ニ寡人弗敢忘、若以大夫之靈、得保首領以沒

先君若問與夷、其將何辭以對、請奉之以主社稷、寡人雖死

老子曰孤寡不穀、王侯之謙稱

亦無悔焉對曰群臣願奉馮也馮穆公子莊公也寡人ハ諸侯自ラ稱

スルノ辭臣下民人主ハ所寡シトイフ義或ハ孤ト云不穀ト云皆卑下シテ云辭ナリ穆公弟ニシテ立ラレ

先君ノ恩義誠ニ忘レ難ク若シ大夫諸臣下ノ績功ニヨリ國土安穩ニシテ首ト領ト満足ニ保チテ牀ノ上

ニテ死スルコトヲ得テ冥土ニ至リ兄ノ先君ニ見ヘシ時與夷ハ如何セシト問玉ハ答ル辭ナリ未タ大子

ニセ立ス國モ讓ラズトハ言難ク何卒與夷ヲ奉シテ宋ノ國ノ主トナサハ我死シタル跡ニテモ悔ルコト更

ニナシト大司馬孔父ニ頼ミシ也司馬對テ云フ群臣皆穆公ノ子ノ馮ヲ立テ主トセンコトヲ願ハリ公

曰不可先君以寡人為賢使主社稷若弃德不讓是廢先君

之舉也豈曰能賢言不讓則不足稱賢也公ノ云ソレハ不可也先君穆公ヲ以テ

禮祭義建國之神位右社稷而左宗廟

賢ナリトシテ一國ヲ主ラシム社稷ハ祖先及五穀ノ神ヲ祭ルノ總名一國ノ主ノ祭ルマキモノユハ社稷ヲ以テ國主タル事ヲ指スノコト若シ先君ノ明ヲ破リ我徳ヲ損シテ愛ニ溺レテ我子ニ讓リ與夷ニ讓ラザルニ於テハ先君ノ思名ヲ無ニスルコト然ラハ賢ト叫バレレ事モ無ニナルコトユハ令名ヲ損ハルコトニテハア  
**光昭先君之令德可不務乎吾子其無廢先君之功**

先君以舉賢為功我若不賢是廢之君ハ賢ヲ舉ル以テ功ト為ス

立未エハニ子ニ讓ラズコトヲ讓レリ今又子ニ讓ル中ハ愛ニ溺ルコトヲ先君ノ令徳ヲ廢スルニ當リ

八成タテ先君ノ令徳ヲ光昭セシムコトヲ思テ務ム吾使子ハ大司馬ヲ指ス先君ノ功德ヲ廢スルコト勿レト

公子馮出居於鄭辟殤公也兔角公子馮カ居テ人望ノ歸スル所セアリ穆公ハツ

林注是光明宣公讓國之美徳

按此傳云使公子馮出居鄭社

注。公子馮出奔于鄭。蓋穆公

有命未遣馮怒其不立出奔託

鄭耳。論法短折不成曰殤。

公羊傳。宋之禍宣公為之子。子

舍。弟。子。立。馮。子。心。有。云。ナリ。

ムル所モアハ、遠國へ辟ケテ、身ヲ退カシメ、國ニ關係ナカラシムルニレカズト、因テ鄭ノ國へ出シヤリヌ、

八月庚辰宋穆公卒。殤公即位。君子曰。宋宣公可謂知人矣。

立穆公。其子饗之命。以義夫命出於義也。夫語助。時ノ智者達ノ云ニ

ハ、宋ノ宣公ハ人ヲ知ル。又明カアル者ナリ、穆公ヲ立テ、却テ自身ノ子ニ跡ヲ續ガシメタリ、皆義ヲ重ン

タル事ナリ。出。商頌曰。殷受命。咸宜百祿。是荷其是之謂子。

詩頌言。殷湯武丁受命。皆以義。故任荷天之百祿也。帥義而行。則殤公宜受此命。宜荷此祿。公子馮不帥父義。忽而出奔。

因鄭以求入終。傷咸宜之福。故知人之稱。唯在宣公也。殷禮

有兄弟相及。不必傳。子孫宋其後也。故指稱商頌。項玄馬ノ

ノ篇。殷ノ湯王武丁天ノ命ヲ受テ、其宜レキヲ得テ以テ立リ、天祿皆歸ス、公子馮ハ父ノ命ヲ承ク、忽テ鄭

ニ出奔ス、鄭公ニ依リテ、宋へ入り、國ヲ奪ハシメ、宣

公ニ在ルノミ、殷ノ代ノ禮ニハ、兄弟相及ボムノ有リ

而シテ、宋ハ殷ノ後トシ、後世ノ子孫、如是ノ事アリ。但

シ穆公ニ至リテ、大司馬ニ遺言ハシテ、速ニ公

子馮ヲ追出シ、宋ノ地ヲ退ケ、自ラ出奔シ

テ鄭ニ依頼シ、事ヲ舉シトシ、リ、殷ノ先代ニ無キ

ニテ、後世ノ子孫徳ヲ亡セ、トクヲ歎シ、引ニ殷ノ詩ヲ

以テ、冬。齊鄭盟于石門。尋盧之盟也。盧盟在春秋前。盧齊

地。今濟北盧縣故城。

二國。盧。盟。ハ春秋以前ノ事ナリ。又石門。於。其盟約。口。也。

守ハ字書ニ理ムル也、重スル也、遂グ  
ル也、ト、リ、テ、前約ヲ繼グ事ナリ

庚戌鄭伯之車債

于濟既盟而遇大風傳記異也。十二月無庚戌日。誤。鄭伯ノ  
車大風

遇、天、濟、ト、云、州、ノ、中、休、テ、落、チ、ル、事、ナリ、珍、ニ、キ、事、ナリ、  
記、テ、カ、ル、也、經、ニ、年、二、月、十、有、二、ヨリ、長、曆、ヲ、以、テ、推

二、算、ル、也、此、月、一、  
庚戌、ト、ハ、誤、リ、也、衛、莊、公、娶、于、齊、東、宮、得、臣、之、妹、曰、莊、姜、

得臣齊大子也。不敢居上位。故常處東宮。得臣東宮ニ居ル  
東宮ハ大子ノ居

ル、也、ヲ、云、テ、東、ハ、四、時、ノ、始、メ、萬、物、生、長、ス、ル、東、ヨリ、始  
メ、故、ニ、大、子、父、ニ、嗣、テ、位、ヲ、踐、ル、人、コ、ハ、一、居、ル、也、得、臣

大子ト云テ、早ク死ス、故ニ、僖公立ツ、僖公ヲ言ハ  
メ、得、臣、ヲ、云、テ、ハ、適、女、ナ、ル、ヲ、レ、メ、ム、ナ、リ、  
美

而無子。衛人所為賦碩人也。碩人詩。義取莊姜美於色。賢于

德而不見答。終以無子。國人憂之。班固曰。不歌而誦。亦曰賦。  
鄭玄曰。賦。造篇。或誦。古莊

公、外、妾、バ、カ、リ、多、ク、置、テ、色、ニ、荒、メ、ル、故、ニ、終、ニ、子、ナ、カ  
リ、也、國、人、之、ヲ、憂、テ、此、詩、ヲ、作、ル、也、碩、人、ハ、詩、ノ、衛、風、ニ

出、  
又、娶、于、陳、曰、厲、嬀、生、孝、伯、早、死、陳、今、陳、國、陳、縣、又、陳、ヨ  
ウ、厲、嬀

ト、云、娘、ヲ、娶、レ、リ、  
其、娣、戴、嬀、生、桓、公、莊、姜、以、為、己、子、嬀、陳、  
妾、同、様、ナ、ル、モ、

姓也。厲戴皆謚。雖為莊姜子。然太子之位未定。過父ト云者  
陳ハ舜ノ後

ノ、時、ニ、姓、ヲ、嬀、ト、賜、フ、厲、嬀、嫁、付、時、ニ、三、女、ヲ、聘、ス、ル、例  
ニ、テ、嬀、ノ、戴、嬀、モ、共、ニ、來、リ、終、ニ、戴、嬀、ノ、腹、ヨリ、桓、公、ヲ

生、ミ、シ、ナ、リ、莊、姜、ハ、夫、人、ナ、レ、共、子、無、キ、ニ、ヨ、リ、取、テ、公  
巳、レ、カ、子、ト、ナ、シ、タ、ナ、未、ダ、大、子、ノ、位、定、マ、ラ、ザ、ル、也、公

子州吁。嬀人之子也。嬀親幸也。嬀ハソバメ女ノ事、コシモ  
トナリ、真ノ妾ニハ非ス、嬀

崇スルニ答セ  
ラレザルニハ  
非ス、荒淫ニシ  
テ多ク外妾ヲ  
畜フ、故愛ヲ專  
ラニセザルナ  
リ、子無ハ其人  
ノ性ニヨレ共  
時人答セラレ  
スト目セシナ  
リ  
語法暴慢無親  
曰厲典禮無愆  
曰戴

石碯モ亦衛公族也

有寵而好兵公弗禁共姜惡之石碯諫曰臣聞

愛子教之以義方石碯衛大夫

夫ノ石碯ナル者莊公ヲ諫メテ天子ヲ愛スルニハ先

ツ之ニ教ルニ義ノ正ニキ方ニ向ハセテ邪路ニ入レ

ザラントテ教ユルナリ義ハ諷ト同シヨロシキト云ヘル字

弗納邪驕奢淫泆所自

邪也四者之來寵祿過也將立州吁乃定之矣若猶未階之

為禍言將立為天子則宜早定若不早定州吁必緣寵而為

禍邪道ニ入ルベカラズ驕ハ高ブリテ人ヲ陵ク也奢ハ

ニ過グルナリ淫ハ放逸ニシテ教ハ無キナリ此四ツ

ノ者ハ寵愛ノ過キアテガヒノ多キヨリ起ル若州吁

ヲ愛シテ天子ト為ントセハ早ク定ムベシ若イマダ

トナラハ棄置テハ之ヲ階トナレテ大ナル禍ヲヒキ

出ス事ア夫寵而不驕驕而能降降而不憾憾而能矜者

鮮矣如此者少也降其身則必恨恨則思亂不能自安自重

夫寵愛アリテ驕ヲザル者ハ少ク驕テ其心ヲ降ス者

ハ少ク其心ヲ降スト雖モ恨ミザルモノハ少ク恨ミ

テ自ラ其身ヲ重ンズル者ハ少シ恨メハ必ス亂ヲ思

フ自ラ身ヲ重ンズル時ハ亂ヲ思フヲナシ矜ハ重ク

スル也爾雅ニ重也注ニ厚重也トアリ説文ニ矜ハ限

且夫賤妨貴少陵長遠聞規新聞舊小加大小國而加兵於

大國如息侯伐鄭之比淫破義所謂六逆也

賤ヲシテ貴人ヲ妨メテ少年

太田晴軒曰矜疑珍字之誤半賈誼賦麗九淵之神龍兮沕深潛自珍珍珍重入ル義是又二說ナリ

ニシテ長者ヲ陵キ遠クニ在テ親シキ近キ者ヲハダテ新タニ事ヘテ舊キヨリ在ル人ヲハタテ小國ニシテ大國へ兵ヲ加ヘ息侯ガ鄭國ヲ伐ガ如キ淫亂ニシテ義者ノ言ヲ破ル等ハ皆逆道ニテ正理ニ背スル者

**君義臣行父慈子孝兄愛弟敬所謂六順也**臣行君之義君

ヲ正シクシ臣モ君ノ義ヲ行ヒ父ハイツクシミ子ハ孝行ヲ竭シ兄ハ弟ヲ愛シ弟ハ兄ヲ敬フ是六順トテ

天理ニ順  
去順效逆所以速禍也君人者將禍是務去而

**速之無乃不可乎弗聽其子厚與州吁游禁之不可桓公立**

**乃老老致仕也**四年經書州吁弑其君故傳先經以始事道

ヲ去テ逆道ノ方ヘ近ヨリ效ス禍ヲ速クワケ也人ニ君タル者ハ務テ禍ノ根ヲ去ラ子バナラヌ却テ之ヲ

獲七十而致仕言還其所掌之事於君也石碯未ダ七十ナラズ而シテ仕ヲ辭ルハ亂兆

ヲ知レハナリ

招クハヨロシカルマイ公此語ヲ聽カレズ其子厚ト云者カ州吁ト平生交リ遊スル石碯之ヲ警レ共之モキカズ桓公ガ立テ後仕ヘテ辭シテ隱居セシハ後キ亂ノ起シテヲ推量スルハナリ四年ノ經ニ大亂果シテ起レルヲ先ヘコヘニ書シ始ルハ經ニ先ゾソテ事ヲ始ムト云ヘルワケナリ

**四年春王二月莒人伐杞取牟婁無傳書取言易也例在**

襄十三年杞國本都陳留雍丘縣推尋事跡桓六年淳于公

亡國杞似并之遷都淳于僖十四年又遷緣陵襄二十九年

晉人城杞之淳于杞又遷都淳于牟婁杞邑城陽諸縣東北

有牟婁莒人杞ノ國ヲ伐テ牟婁ト云ル地ヲ取タリ速カニ勝テユヘ取モ又易カリ故一取ト云杞ハ奴

杞國都ヲ遷ス事屢ナリ孔疏詳カニ述テ而シテ未タ判然タラサル地アリ文冗長ナレハ略ス

姓ニシテ、禹ノ苗裔ナリ、武王殷ヲ伐テ、禹ノ後ヲ封ゼシ國ナリ、**戊申、衛州吁弑其君完**

稱臣弑君、臣罪也。例在宣四年。戊申、三月十七日。有日無月。

衛ノ州吁、其君桓公完ヲ弑シタリ、凡君ヲ弑シテ、君ト稱スルハ、君無道ナレバナリ、臣ト稱スルハ、臣ノ罪ナリ、若シ國ヲ稱シテ、弑スル者ハ、其君無道ニテ衆ト共ニ絶シテ、君ノ惡ヲ示ス所以ナリ、是州吁ノ名ヲ稱シテ、君ヲ弑ス、ト書ス、臣ノ大罪ナリ、經ニ、月ノ無ハ、史官ガ落シタルナリ、戊申ヲ推テ算シ、十七日ト為シタル

ナリ、**夏公及宋公遇于清**、遇者、草次之期、二國各簡其禮、若道路相逢、遇清、衛邑濟北東阿縣有清亭、諸侯未及期ニ及云、期ヲ克シ相見ヲ會ト云、草次ハ倉卒ノ際、カリソメニ相見ルナリ、故ニ其禮ヲ簡略ニシテ、途中テ行逢タ

ト異ナリ、周禮、諸侯冬見天子曰遇、此遇ト異ナリ、

如クニシテ、**宋公陳侯蔡人衛人伐鄭**、秋、彙帥師會宋相見、ハシナリ、

公陳侯蔡人衛人伐鄭、公子彙、魯大夫、不稱公子、疾其固請強君以不義也、諸外大夫、皆稱人、至内大夫、則皆去族稱名、於記事之體、他國可言某人而已、魯卿佐、不得言魯人、此所以為異也、

彙、去族、傳曰、疾之叔孫豹、則曰、言違命、此其例也、宋公陳侯ハ皆一國君也、蔡人衛人ハ君ノ代リ、軍ヲ出スルニ、其罪ヲ攻テ名ノミ稱セシナリ、故ニ傳ニ之ヲ疾シテ也、中、蔡、魯ノ大夫、皆レ共強テ

孫豹ハ襄公ニ、**九月、衛人殺州吁于濮**、州吁弑君而立、未

十七年ヲ見、

三十一

春秋左傳

卷一

三十一

春秋左傳

卷一

三十一



列於會。故不稱君。例在成十六年。濮陳地。水名。濮。石碣。濮者

フレテ、陳ニ行テ州吁ヲ濮ノ水邊ニテ殺レタリ。春秋

ノ時ハ、君ヲ殺レテ、其國ヲ奪ヒ取リシ者モ、諸侯ト盟

約ノ會ニ臨ミシ者ハ、諸侯ト盟會ニ列セズ。桓公ヲ弑レテ、

君トナリタレド、君ト稱セズ。名ヲ以テ稱ス。冬十有二

月。衛人立晉。衛人逆公子晉立之。善其得衆。故不書入於衛。

變文以示義例。在成十八年。晉ハ邢ト云。処ヘ退テ居タル

レタリ。善ク衆心ヲ得タル國君ノ器量ノ有ルニハ、衛

ノ入ルト書マキテ立ルト書キレハ、未禮ヲ變レテ、其

義ヲ示スワケ成ノ

十八年ニ例アリ。公則新築人衛人

四年春。衛州吁弑桓公而立。公與宋公爲會。將尋宿之盟。

未及期。衛人來告亂。夏。公及宋公遇于清。宿盟在元年。宋殤

公之卽位也。公子馮出奔鄭。鄭人欲納之。及衛州吁立。將脩

先君之怨於鄭。謂二年鄭人伐衛之怨。而求寵於諸侯。以和

其民。諸篡立者。諸侯既與之會。則不復討。故欲求此寵。

脩ハオサムル  
義好ミヲ脩ス  
又怒ヲ脩ス同  
意

フ弑レテ自立ス。公宋公ト元年ノ盟約ヲ尋シトスル

ニ及シテ、衛ヨリ州吁カ桓公ヲ弑セシ亂ヲ告ケ來レ

テ、夏ニ至リテ宋公ト清ト云地ニテ禮ヲ略シテ遇ハ

リ、サテ又宋ノ殤公ヲ位ニ即ケ。及シテ、公子馮出奔

シ。鄭ニ依リ鄭公ト志シテ合セシ、宋ノ國ヘ入レン

トシタリ、夫故ニ鄭ト宋ト自ラ怨ミヲ結シテ、雖敵ノ思

蔡ハ姫姓文王ノ子叔度ノ後ナリ

ヒヲ為セリ、衛ノ州吁カ自立スルニ及ンテ、先君穆公ガ鄭ニ怨ミ有リシヲ州吁ニ及ンテ鄭ヲ伐テ其怨ヲハラシ、四方ノ諸侯ノ為ニ思ハレ、寵セラレテ、其民ヲ和ラゲ從ヘント欲スルナリ、篡立スル者デモ、諸侯ト交リヲ結ビ、盟會ニ臨メ、諸侯モ之ヲ伐カザル也、故ニ諸侯ニ寵セラレシ事ヲ思テノ事ナリ、是時周ノ政コト衰ヘ、諸侯各々、自立ノ時ナルユヘ、天子トハ、名バカリニテ、唯諸侯ヲ取入リ、スレハ國ハ立テ行也、  
使告於宋曰、君若伐鄭、以除君害、請宋公子馮、君為主、敝

邑以賦與陳、蔡從則衛國之願也。言舉國之賦調、衛ノ州吁ガ宋公ハ

申來リシハ、君若シ鄭ヲ伐テ、君ノ害ト思召、公子馮ヲ除クントナラバ、君先ツ軍ノ主ト為レ、サスレハ、敝邑

自ラ卑下シテ言年貢ノ高デ、人員ヲ割付テ、軍人ヲ調發シ、陳ノ國、蔡ノ國ト共ニ、從テ好テ添ヘ、衛國ハ亂

蔡ハ大夫ヲ出

シ、衛ハ州吁自

ラ臨メリ、然レ

共人ト書スル

ハ、未タ諸侯ノ

地位ニ至ラザ

ルナリ

入シテ伐ント欲ス是衛國、宋人許之、於是陳蔡方睦於

衛、蔡令汝南上蔡縣、故宋公陳侯蔡人衛人伐鄭圍其東門、

五日而還、公問於衆仲曰、衛州吁其成乎、衆仲魯大夫、

夫、衆仲ニ語テ云州吁ハ其衛ノ君ト成テ、闔國歸服スルヤクニ成フカト、成字平ラクト讀處多クアリ、是ハ

事ノ成ルト、對曰、臣聞以德和民、不聞以亂亂、謂阻兵而

安忍、亂ヲタノシテ殘忍ヲ安ニスル人ガ事ヲ成就スル

ハ、未タ聞及ハ、以亂治絲而禁之、絲見、勢緼、蓋所以

亂ヲ以テ國ヲ服セントスルハ、糸ヲマキ治メントシテ、却テミダスマヤウナ者ナリ、益々亂レカラマリテ、手

春秋左傳

卷一

四十二

夫州吁阻兵而安忍阻兵無眾安忍無親

衆叛親離難以濟矣恃兵則民殘民殘則衆叛安忍則刑過

刑過則親離州吁ハ兵ヲケルニテ軍ヲ事トス軍事多ク

叛ク殘忍ヲ以テ獨リ安ニスレハ刑戮多クシテ惡仁

夫兵猶火也弗戢將自焚也兵ヲ用ル事ハ火ノ如クナル

夫州吁弑其君而虐用其民於是

乎不務令德而欲以亂成必不免矣其君ヲ弑シテ其民ヲ

不務令德而欲以亂成必不免矣其君ヲ弑シテ其民ヲ

夫州吁弑其君而虐用其民於是乎不務令德而欲以亂成必不免矣

卿公辭之從衆仲之言諸侯又鄭ヲ伐フ前ニ云、四諸侯ノ

書曰翬帥師疾之也公子翬ガ軍ヲ出シテ諸侯ト共ニ鄭

諸侯之師敗鄭徒兵取其禾而還

諸侯之師敗鄭徒兵取其禾而還

諸侯之師敗鄭徒兵取其禾而還

諸侯之師敗鄭徒兵取其禾而還

諸侯之師敗鄭徒兵取其禾而還

諸侯之師敗鄭徒兵取其禾而還

安井衡曰鄭亦用車師但諸侯

之師特敗其徒  
兵若鄭不用車  
戰言敗鄭師足  
矣不必言徒兵  
也

時鄭不車戰

諸侯ノ師、鄭ノカチ立ノ兵ヲ敗リ、且其猶ヲ刈リ取テ還レリ、時ニ鄭車戰ヲ為サス、多ク

徒兵ノミヲ出シテ戰ヘリ

州吁未能和其民、厚問定君於石子。石子

石碯也。以州吁不安、諮其父。石子曰：王觀為可。

州吁未ダ其下民ヲ治ル

能ハザルニヨリ、石厚ガ其父ノ石碯ニ問フニ、州吁未ダ君ト定マラザル形也、如何シテ衛ノ君ト定ル法ヤアルト問レニ、周王ヘ參觀レテ、位階

デモ、モラヘハ、國人皆歸服ス、ベレト云曰：何以得觀

其手ツ、キハ如何シタルモノニヤ曰：陳桓公方有寵於王，陳衛方睦，若

朝陳使請必可得也。厚從。州吁如陳。

陳ノ桓公當時周王ニ寵セラレ、陳ト衛ト睦

レキ中ナレハ、陳ヘ行テ禮ヲツクシ、桓公ニ頼メハ事ナラント、因テ石厚州吁ニ勤メテ同道レテ、陳ヘ出カ

公羊傳註六十七  
稱耄七十稱老  
說文年九十曰  
耄曲禮七十曰  
老八十九十曰  
耄子、子耄下  
云八尺トシヨ  
リテ、オヒボレ  
ニナリタリト  
云マデナリ

石碯使告于陳曰衛國褊小老夫耄矣無能為也此

二人者實然寡君敢即圖之八十曰耄稱國小已老自謙以

委陳使因其往就圖之石碯モト州吁ノ無道ヲ恐ミテ退  
隱スル也是ニ於テ竊カニ使ヲ陳

也也老夫ハ自ラ指テ云耄ハト云ヨリテヤクニ立ム

モ人能為スナリ此二人ノ君ヲ弒セルモノカクハ

陳人執之而請蒞于衛請衛人

自臨蒞之陳ノ役人ノ名執ヘテ衛ノ國ノ請老九月衛

人使右宰醜蒞殺州吁于濮石碯使其宰犛肩蒞殺石厚

天陳君子曰石碯純臣也惡州吁而厚與焉大義滅親其是

之謂乎子從弑君之賊國之大逆不可不除故曰大義滅親

明小義則兼子愛之衛ノ役人右宰醜ナル者來リテ州吁殺シ又石厚ヲモ陳ニ於テ殺サシ

△時ノ君子曰石碯ハ純臣林註ニ純直ノ臣ナリ君臣ノ大義ニ臨シテハ父子ノ親レモヲ滅シ我子ノ惡人

ニ黨セルヲ以テ之ヲ殺セリ大義親ヲ滅スト云語ハ是事ヲ云ナリト衛人逆公子晉子

邢父十二月宣公即位公子晉也書曰衛人立晉衆也衆人ノ正

議ニヨリテ立タルヲ云ナリ

經五年春公矢魚于棠書陳魚以示非禮也書棠譏遠地也

此ハ專ヲナリ君ニ忠ヲ專ラニ盡ス臣ト云事ハ十八日

文平共十日

今高平方與縣北有武唐亭魯公觀魚臺

魚ヲ陳ラストハ、魚ヲ捕ヲ見テ樂

ミトナシ、取得テ之ヲ陳列スル也、國君ハ爵位重キモノ、蒐狩ノ大事ニ非レハ、親シク行可カラザルモノ也、故

ニ魚ヲ陳ヌト書シテ、禮ヲ失ヘルヲ譏ルナリ、且棠ノ地ハ、余ホド遠方ニテ、狩ヲシ獵ヲスル地ニテハナシ、

其速キヲモ厭ハズ行ク是王侯ニ有ベキ事ナラナバ、其地ヲ書シテ之ヲ譏ルナリ、矢字諸説アリ、太田晴軒

曰ク、矢ヲ以テ魚ヲ射ルハ、周禮ニ矢、其魚鼈、又秦始皇本紀見、巨魚射殺、一魚等ア、其魚ヲ射ル古例多シ、夏

四月、華衛桓公秋、衛師入、成將、與師多、但稱師、此史之常也

州吁カ殺シタル君、葬禮ガ、スミシナリ、其秋、衛ヨリ軍ヲ起シテ、邠ヘ押ヨセタリ、大將ハ、輕キ者ナレド、人數

ガ、多キトキハ、師ト書スルガ、例法ナリ、九月、考仲子之宮、初獻、大羽、成、仲子

正義曰、三年之内、木主特祀於

寢宮廟初成木  
主遷人其中設  
祭以安神也

宮安其主而祭之惠公以仲子手文娶之欲以為夫人諸侯

無二嫡蓋隱公成父之志為別立宮也公問羽數故書羽婦

人無謚因姓以名宮仲子相公之母ナリ諸侯ハ二度娶

兆アリシユハ惠公之ヲ娶リ夫人ニ登セシナリ死レ

テ三年ノ内ハ木主ヲ家ノ中ニ祭レ共既ニ三年目ニ

新テタニ廟ガ出来セユハソレヘ遷セシナリ考トハ

成也同シ宮廟成テ木主ヲ遷スルニ舞ヲ為シテ神靈

ヲ慰サム時ニ六佾ノ舞ヲ為セシナリ六佾トハ六行

ノ又羽ヲトリテ舞コニテ之ヲ六佾ト書セザルハ公

ノ問ニ羽ノ數ヲ以テ役人ニ問五ヲユヘニ六羽ト書

セシナリ婦人ハ謚ナケトハ姓ヲ以テ官ニ名ツクル

ハ子ト云ヘル宋ノ姓ニ

邾人鄭人伐宋邾主兵故序鄭

ヨリテ官ヲ名付シナリ



正義曰釋蟲云  
食苗心蝻食葉  
蟻食節賊食根  
蟲此四種ノ蟲  
ハ皆蝗ナリ

正義曰倍伯字  
子藏其孫得以

上ノ鄭ハ小國ナレ共鄭ノ上ニ序スルハ此軍ヲ主トルユ  
ニヘナリ鄭ハ鄭ニ加勢シテ伐シユヘ鄭ヲ下ニ書セリ

春秋ノ時専ラ征伐ヲ行フニ王命ヲ禀ケズシテ軍ヲ  
出ス故ニ位ノ上下國ノ大小ニ係ハラス兵主タル者

ヲ首トナ  
スナリ **螟**無傳。蟲食苗心者為災故書田ニ稻蟲カ付  
テ苗ノ心ヲ食

タルユヘ此歲ハ **冬十有二月辛巳公子彊卒**大夫書卒  
不作ニテ有レ也

不書葬葬者臣子之事非公家所及張ハ魯ノ大夫卒ト書  
シテ葬ヲ書セザルハ

國家ノ大事ニ關セザル事ユヘ省ケル也臣下  
ノ事ニテ主候ノ及ボセル所ニ非サレハ也 **宋人伐**

**鄭圍長葛**潁川長社縣北有長葛城

**五年春公將如棠觀魚者**臧倍伯諫曰凡物不足以講大

王父字為氏今

加減于僖伯之

上以其為臧氏

之祖傳家追言

之也

魚源二同シ

正義釋詁文矢

陳也

事臧僖伯公子驅也僖謚也大事祀與戎

大夫ノ臧僖伯カ諫メテ云大事ハ祖先ノ祭リト戎事

ニテ出軍ノ事ナリ此ニツク講習スルニ足ラザル者

其材不足以備器用則君不舉焉材謂皮革齒牙骨角

毛羽也器用軍國之器

用ニ魚ハ用ル所少シ人君ハ獸ヲ獵スルヲ觀ル魚

ヲ擧テヌカ人君ヲ君將納民於軌物者也故講事以

度軌量謂之軌取材以章物采謂之物不軌不物謂之

亂政亂政亟行所以敗也言器用衆物不入法度則為不

軌不物亂敗之所起

君タル者ノ民ヲ治ルニハ國ノ法度

物トハ軌ハ法度ノ事物ハ一切ノ事物ナリ事ヲ講シ

テ法度ヲ守リ軌量トハ法度ヲ確乎ト行フワケ量ハ

升目ニテ多カラス少ナカラズハカリ數ヲ正シクス

ルヲ云フ是ガ則チ軌ノ法度正シキ所ナリ材ハ皮革

齒牙ノ類用ヒテ以テ武器鎗戟ヲ飾ルモノ章ハ文章

ノ章ト同シアキラカニ修飾スル義法度ニ入ラヌ修

飾ニモ成ヌモノハ無益ノ者如是者ヲ用ルハ亂故春

穀梁傳曰四時

田皆為宗廟之

事也春曰田夏

曰苗秋曰蒐冬

曰狩周禮ト少

ニク異ナリ

春秋左傳

卷一

四十五

凡狩ハ私ノ為  
テラス、皆宗廟  
ヲ祀ル事ニ就  
テ為スナリ

ハ、五穀ノ苗ヲ害スルモノヲ取ル、秋ヲ彌ト云ハ、秋ノ氣ハ金氣ニテ殺伐ノ氣多キニハ、其候ニ順テ名ツケレ也、冬ハ狩ト云ハ、五穀モ實リ、畢ク取入レシ後ナレハ、圍ミテ狩ヲ為ス、擇ブ所ナク之ヲ取ルヲ云ナリ、**皆於農隙以講事也**、各隨時事之間、農業ノ間行テ耕耕ノ妨ケ無ラシ事ヲ要ス、狩獵及武事ヲ講ス、皆農民ヲ用ユレハナリ、**三年而治兵**

**而振旅**、雖四時講武猶復三年而大習、出曰治兵、始治其事、

入曰振旅、治兵禮畢、整衆而還、振整也、旅衆也、四季狩獵ノ節武事ヲ習

ハレテ置トモ、三年目ニ大演習ヲ為レテ農兵ヲ試ム、則太試験ナリ、兵ヲ出スヲ治兵ト云ハ、其事ヲ治ル也、入ルヲ振旅ト云ハ、兵卒隊伍ヲ整ハテ還ル、旅ハ大衆ヲ云ナリ、**歸而飲至以數軍實**

**飲於廟**、以數車徒器械及所獲也、歸テ祖廟ノ前ニテ飲食シ、車馬弓槍及ヒ獲ル所

ノ獸ノ數ヲナシ、廟ニ告ルナリ、是ハ**戰昭文章**、車服旌旗、昭文章、車服旌

旗、家々旌旗ヲ分テ、將卒ノ**明貴賤辨等列**、等列、行伍、貴賤

ノ差別ヲ明カニシ、**順少長**、出則少者在、前、還則在、後、所上下ノ等級ヲ分ツ、謂順也、出ルルハ少キ者、前へ出テ還ルルハ少キ者、後ニ在ルハ、長者ヲ貴トフ禮ナリ

**習威儀也**、謂順也、出ルルハ少キ者、前へ出テ還ルルハ少キ者、後ニ在ルハ、長者ヲ貴トフ禮ナリ

出軍ノ威儀ヲ習フタ、**鳥獸之肉不登於俎**、俎、祭宗廟、メノ狩獵ナレバナリ

**皮革齒牙骨角毛羽不登於器**、謂以飾法度之器、則公

**不射古之制也**、飛鳥野獸ノ肉、先祖ノ祭リニ用ユル俎ハ登セラレヌ物也、又ハ皮革齒牙ノ

軍事田事各車  
馬器械旌旗ノ  
定メアリテ其  
禮ニ欠ケヌヤ  
ウニスルヲ昭  
ニストイフ

殺スルニ公不  
射トアルハ即  
十獸ヲ射ルノ  
謂也、經ノ矢ヲ

矢ヲ以テ射ル  
ト解スル此ニ  
至リテ當レル  
ニ似タレ共此  
文ソレト異ナ  
リ

軍器ニ修飾シテ祭リノ器中へ登セラレヌ者ヲ王侯  
タル者ハ、妾リニ射テ取ルベカラザルハ古ノ制度ナ  
リ、隱公魚ヲ獵シテ樂シムハ、先祖ノ廟へ供ル為ニモ  
非ス、祭ノ具ニモ用ズレテ、無益ノ事ヲ為スニ由テ諫メ  
シナリ、法度ヲ飾ルハ、**若夫山林川澤之實器用之資**  
武器ノ修飾ニ用ル義

**阜隸之事官司之守非君所及也**士臣阜阜臣與與臣隸

言取此雜殺之物以資器備是小臣有司之職非諸侯之所

親シノ下ハ足輕其下ハ與蓋コヒヲカツグ者其下隸昔

折助ナリ雜殺ノ物ハ魚蟹小鳥等都テ賤臣ノ為  
所ノ事又ソレクニ役義アリテ王侯タ  
ル者自ラ手ヲ下スニ及ハザルナリ **公曰吾將略地**

**焉孫辭以略地略總攝巡行之名傳曰東略之不知西則否**

孫辭ハノガル  
ハコトバ言ワ

ケヲスルナリ  
孫遜ト同シ

矣。公ノ云獵ヲスルニハ非スソレヲカコツケテ地界ヲ  
巡行セントスル也略亦取ルニ同シキ所アレ共是ハ  
只領地ヲ巡覽スルマデノ事也傳ニ曰ク云々ハ僖公  
九年ノ文ニアル語又十六年ニモ有巡行ノ謂ナリ

**遂往陳魚而觀之**陳設張也公大設捕魚之備而觀之又

漁ト同シトノ説アリ漁者ヲ **僖伯稱疾不從書曰公**

**矢魚于棠非禮也且言遠地也**矢亦陳也棠實他竟故曰

速地。僖伯諫レ共聽カス故ニ疾ト稱シテ從ガハザルナ  
行ヲ譏ルナリ棠ノ地實 **曲沃莊伯以鄭人邢人伐翼**

ハ魯ノ領分デハナシ **曲沃莊伯以鄭人邢人伐翼**

曲沃晉別封成師之邑河東聞喜縣莊伯成師子也翼晉舊

按スルニ魚漁  
字通ス故魚字  
ヲ用ユト然共  
陳漁者而觀之  
文足ラサルニ  
似タリ如字解  
セハ魚市ハ往  
テ觀ルガ如ク  
當ラザルニ似  
タリ經文ノマ

都。在平陽絳邑縣。東邢國。在廣平襄國縣。晉ノ國ハ姬姓武

後也。曲沃ハ晉ノ枝城。城主莊伯。鄭邢王使尹氏武氏

助之翼侯奔隨。尹氏武氏。周世族大夫也。晉内相攻伐。不

告亂。故不書。傳具其事。為後。晉事張本。曲沃及翼。本末見。桓

二年。隨晉地。周ノ天子其臣族ノ大夫尹氏武氏ヲシテ莊

奔。此。事ヲ傳ニ書ヲクハ。後ニ桓公ノ二年ニ此本

末ヲ出ス。前ヲキナリ。張本トハ。モトヲ張リテ置ク義

夏葬衛桓公。衛亂是以緩。有州吁之亂。十四月乃葬。傳明

其非慢也。衛ノ國州吁ノ亂ニヨリテ桓公ノ葬式ガ延テ

慢ニ非サルヲ明カス。四月鄭人侵衛。牧衛邑。經

書夏四月葬衛桓公。今傳直言夏而更以四月。附鄭人侵衛

牧者。於下事宜得月以明事之先後。故不復備舉。經文三年

君氏卒。義亦同。他皆放此。鄭人衛ノ牧場ノ牛羊ヲ養フ處

月ト云下ニ。二事ヲツラ子テ書セリ。此所夏ト四月ト

分テ書スルハ。衛ノ一段ニハ月附ニスルガ入用ニテ

事ノ前後ヲ明ニス。以報東門之役。東門役在四年。年

ルニ便ナレバナリ。衛人以燕師伐鄭。南

燕國今東郡燕縣。衛人燕ノ國ノ軍勢ヲ引ツ

マ解スレハ矢  
ヲ以テ魚ヲ射  
ル當レリトス  
杜注魚ヲ捕ル  
ノ備テ設ケテ  
觀ル愈當ラサ  
ルニ似タリ  
史記觀漁于棠  
穩ナリ而經文  
ニ合ス  
賈逵注棠魯地

顧炎武曰子元公子突字厲公也

繁洩駕以三軍軍其前使曼伯與子元潛軍軍其後

人畏鄭三軍而不虞制人北制鄭邑今河南成皋縣也

名虎牢鄭祭足原繁洩駕云三人之將各三軍ヲ以テ前ヨリ進テ軍シヒソカニ公子子元ト曼伯ト其後

畏レヲナシ後ノ制ト云所ニ伏テアルニ公子ノ軍ニ

氣ガ付六月鄭二公子以制人敗燕師于北制二公

子曼伯子元也鄭ノ二公子制ノ人ト共ニ後ヨリ燕ノ師ヲ伐タリ燕ノ師北制ト云所ニテ敗ラル

君子曰不備不虞不可以師時ノ君子云スハカラザル

曲沃叛王秋王命虢公伐曲沃而立哀

侯于翼春翼侯奔隨故立其子光晉ノ曲沃王命ニ叛ク虢公救レテ伐レメ其

子ヲ衛之亂也邾人侵衛故衛師入邾邾國也東平剛

父縣西南有邾鄉衛ノ亂ニ乘シテ邾人衛國ヲ侵セリ故邾ノ師其反報ニ邾ノ國ヘ攻メリ也

九月考仲子之宮將萬焉萬舞也萬ハ武ノ舞也婦人ノ祭ニ武ノ舞ヲ用ヒス

公問羽數於衆仲問執羽人數對

曰天子用八八八六十四人諸侯用六六六三十六人大夫

四四四十六人士二二二四人士有功賜用樂羽ヲ執ノ數

ヲ用ルハ即八佾ナリ論語ニ季氏ガ天子ノ禮ヲ僭シテ八佾ヲ舞セシマリ夫舞所以節八

服虔カ説ニハ諸族ハ六六八四十八人ヲ用ユ大夫ハ四四八三十二人ヲ用ユ士ハ二二八

八十六人ヲ用  
ルトノ説アリ  
東方ハ谷風東  
南清明風南方  
ハ凱風西南涼  
風西方ハ闐闐  
風西北ハ不周  
風北方ハ廣莫  
風東北ハ融風

音而行八風八音金石絲竹匏土革木也。八風八方之風也。

以八音之器播八方之風手之舞之足之蹈之節其制而序

其情八音ノ樂器ヲ鳴ラシテ陰陽ヲ調ヘ節氣ヲ和シテ

云フ樂器各ク主ル所アリ乾ノ音ハ石坎ノ音ハ革艮

ノ音ハ匏震ノ音ハ竹巽ノ音ハ木離ノ音ハ絲坤ノ音

ハ土兌ノ音ハ金此八音ヲ鳴セハ八方ノ風自テ故自

八以下唯天子得盡物數故以八為列諸侯則不敢用八

子ノミ物ノ數ヲツクス故ニ八佾ヲ公從之於是初

獻六羽始用六佾也魯唯文王周公廟得用八而他公遂

因仍借而用之隱公特立此婦人之廟詳問衆仲衆仲因明

大典故傳亦因言始用六佾其後季氏舞八佾於庭知唯在

仲子廟用六是ニ於テ初テ六羽ノ六佾ヲ仲子ノ廟ニ獻

周公ノ廟前ニ於テ八佾ヲ舞フノミ隱公ノ時ニ仲子

ノ廟ニテ六佾ヲ舞マテハ臣下ニ大禮ヲ借用スル者

ハナカリシ孔子ノ時ニ季氏力陪臣ニテ天子ノ禮ヲ

用ヒ八佾ヲ舞ハシキタリ故ニ孔子モ是ヲモ忍フベ

クシハ孰レヲカ忍ブベカ宋人取邾田邾人告於鄭

請君釋憾於宋敝邑為道釋四年再見代之恨

田ヲ取タリ邾ハ小國ニハ一手ニテ軍ヲ出大事ハ及

ハ又故ニ鄭ノ國ヘ申レタリ四年ニ有ル如久四女國

道ハ導クト同

陸粲曰責窮者  
蓋謂責以必窮  
之辭耳此文晦  
澁或有脫誤

兵ヲ合テ鄭ヲ伐大ニ度マテ大軍ヲ受タル其反報  
ヲ宋ニ為シテハ如何元ヨリ怨ミノ重ル宋國ナレバ  
鄭モシ宋ヲ伐バ敵國道ヲ開キ鄭ノ軍  
ヲ案内シテ宋ヲ伐シメント云送レリ鄭人以王師會  
之。王師不書不以告也。伐宋入其郛以報東門之役。郛郭  
也。東門役在四年。鄭ノ軍勢周王ノ軍勢ヲ合テ宋ヘ打入  
是ハ四年ニアル東門ノ  
役ノ反報ヲナセシナリ。宋人使來告命。告命策書。宋  
ヨリクハシク軍ノ次第ヲ  
書シタル書ヲ遣シタル也。公聞其入郛也將救之。問  
於使者曰師何及對曰未及國。公知而故問責窮辭。公

狀ノ審ナルヲ見テ其郛ニ入レ事ヲ知リ同盟ノ國ナ  
レハ往テ救ハントス又使者ニ問テ云敵何ノ處マテ  
及ベルト使者モハヤ公ノ審カニ知ルヲ以テ又再上  
諸老役人ノ前テ問ルヲ忿リ實ヲ以テ答ヘス未夕  
國郡ノ堺ニ及バスト答入杜註ニ公ノ責ノ窮ムルノ  
辭ナルヲ忿ルト顧炎武曰ク杜ノ解ハ人情ニ非ル也  
使者未夕公ノ審ナル事ヲ知テ諱所アリテ答フルニ  
實ヲ以テセズト案スルニ一國危急ノ際鄰國ヘ援兵  
ヲ請フ使者公ノ責窮ヲ忿ル事アルベキヤ百回問ハ  
ルハ愈々審カニ答ズンハ有ベカラス是必ス諱忌  
スル事アリテ實ヲ答ヘザルナリ但シ敵軍城下ヘ押  
入ルハ國ノ恥ナリ況ンヤ郛中ヘ亂入スルヲヤ故ヲ  
以テ國辱ヲ掩ヒシモノ策  
書ト異ナルヲ忿ルナリ

公怒乃止辭使者曰君命  
寡人同恤社稷之難今問使者曰師未及國非寡人之  
所敢知也為七年公伐郛傳。公怒ルハ使者ト手策ノ違  
ハルヲ以テナリ宋國社稷

寡人同恤社稷之難今問使者曰師未及國非寡人之  
所敢知也為七年公伐郛傳。公怒ルハ使者ト手策ノ違  
ハルヲ以テナリ宋國社稷



國人亦年長ヲ指テ伯父叔母ト呼フ古ヘヨリ傳ヘレ事ト覺ユ

大難ヲ以テ、公ノ救ヒヲ乞、公亦同レク、ウレヒヲ共ニシテ救ハントス、使者ノ言ト、違ヘルヲ以テ、辭スルナリ、師サ國界マデモ入ラテハ、軍ヲ出レ救助スルノ場合ニ至ラザレハナリ、七年ニ公、邾ヲ伐ノ事アリ、其前方ニ云、**冬十二月辛巳臧僖伯卒。公曰叔父有憾**

**於寡人**諸侯稱同姓大夫長曰伯父少曰叔父有恨恨諫觀

**魚不聽**同姓ノ大夫中テ、年齡ノ長シタル者ヲ伯父ト呼、年ノ少ナキヲ叔父ト呼、臧僖伯前ニ魚ヲ觀ル事ヲ諫ム、公用ヒス、故ニ憾アリト云、僖伯疾ト稱シテ出サレバナリ

**寡人弗敢忘葬之**加一等加命服之等、諫メレ時ノ事ヲ思ヒ、葬ニ至テ、一

**宋人伐鄭圍長葛以報入郟之役也**此年又宋ヨリ鄭

メリ、サキニ邾ニ入リ、怨ミヲ以テナリ

**六年春鄭人來渝平**和而不盟曰平、鄭ヨリ役人ガ來テ和睦ヲ行ス、但

**夏五月辛酉公會齊侯盟于艾**シ盟約マデハセズ、故ニ平ノ一字ヲ以テス

**泰山牟縣東南有艾山**秋七月雖無事而書首月具四時

**以成歲**他皆放之、何事モ無ケレドモ、四時ヲ書ハ史ノ法ナルニヘニ秋七月トバカリ書ヲクナ

リ、七月ハ秋ノ初メナレバナリ、**冬宋人取長葛**秋取冬乃告也、上有

**伐鄭圍長葛**長葛鄭邑可知、故不言鄭也、前年冬圍不克而還、今冬乘長葛、無備而取之、言易也、鄭ト書セザルハ、上ニ伐鄭圍長葛トアレバ

ナリ前年之ヲ圍ム勝ズレテ還レリ今冬長葛ノ  
備ナキヲ時トシテ攻取タリ取易スカリシナリ

穀梁傳曰輸  
也平之為言以  
道成也來輸平  
者不果成也

六年鄭人來渝平更成也。渝變也。公之為公子。戰於狐

壤為鄭所執。逃歸。怒鄭伐宋。公欲救宋。宋使者失辭。公怒

而止。忿宋則欲厚鄭。因此而來。故經書渝平。傳曰更成。隱公

太子子夕。子夕。鄭之狐壤。ト云所ニテ戰ヒ鄭ノ兵

士ニ捕ヘラレ逃レ歸リテ後鄭ヲ怒ミ居レリ鄭宋ノ

戰ヒニ宋ニ加勢ヲセザリシユヘ宋ニ怒マレテハ二

國共ニ敵ニ成ユヘニ鄭ヘモ程ヨク交リヲ致シ置シ

ト遺シ舊怨ヲ捨テ和睦ヲナセシナリ翼九宗五正

頃父之子嘉父逆晉侯于隨翼晉舊都也唐叔始封受

懷ハ姓也

昭二十年五行

之官謂之五官

水正曰句芒火

正曰祝融水正

曰玄冥土正曰

后土金正曰蓐

收

懷姓九宗職官五正遂世為晉強家五正五官長九宗一姓

為九族也頃父之子嘉父晉大夫一姓ニシテ九族ニ分レ

テ五官ノ長タル者ユヘ五正ト云是ハ頃父ノ舊職ナ

レトモ嘉父大夫ト為リテ名姓著レザルニヘニ父ノ

職ニ繫テ言出納諸鄂晉人謂之鄂侯鄂晉別邑諸地

名疑者皆言有以示不審闕者不復記其闕他皆放此前年

桓王立此侯子於翼故不得復入翼別居鄂翼ノ嘉父カ晉

リ鄂ノ地ヘ遷シ納レシナリ晉侯ノ子ハ周ノ桓王立

テ翼ヘ納ル故鄂ヘ遷セルナリ凡闕タル者ハ闕タ

ト云テ一一其事夏盟于艾始平于齊也春秋前魯與

齊不平今乃棄惡結好故言始平于齊此年始齊國

五月庚申鄭伯侵陳大獲往歲鄭伯請成于陳成猶平

也陳侯不許鄭伯侵陳大獲往歲鄭伯請成于陳成猶平

他ノ大國ト親シミ交リ深キニハ斷リテ許サザリキ五父諫曰親仁善鄰國之

寶也君其許鄭五父陳公子佗

ハ其國ノ寶也先方ヨリ請来リシハ殊陳侯曰宋衛

實難可畏難也鄭何能為遂不許君子曰善不可失惡

不可長其陳桓公之謂乎長惡不悛從自及也悛止也

安井衡曰先是宋衛數伐鄭陳侯恃之故云宋衛實為患難於鄭鄭人不暇禦之何能有為

從隨也陳侯曰宋衛ハ大國ニテ實畏レ難シ不可キ國ナリ今宋衛ヨリ鄭ノ國ヲ目ガケテ居レハ鄭ト交

レハ又宋衛ヲ敵ニ受ル事ヲアルベシ鄭ハ小國何ソ

善ハ失フ可カラズ折角鄭ヨリ交誼ヲ申シ来リシヲ

捨テ許サレハ惡ヲ長ズルヲケニテ其志ニテ改メ

ズンハ遂ニ禍ノ身ニ及ボス事アラント也雖欲救之其將能乎商書曰惡

之易也如火之燎于原不可鄉邇商書盤庚言惡易長

如火燎原野不可鄉邇其惡ノ長スルニ及シテハ救ハシ

ヲ引テ火ノ原ヲ焚ガ如ク盛シ其猶可撲滅言不可

撲滅猶成難シト云周任有言周任周大夫曰為國家

陸粲曰陳侯傲隣而懷諫以取敗信有罪雖然不有疆大諸侯過且什伯於此者乎是區々者君子奚獨譏之深也  
案スルニ君子ノ譏ル尚過キタリ周任ノ言ヲ載スカガ枝葉ニ用ス言亦少シク當ラザルニ似タリ

者見惡如農夫之務去草焉去草夷蕪崇之絕其本根勿去

使能殖則善者信矣也夷殺也蕪積也崇聚也周任

二國家ヲ為ル者ハ惡ヲ見テ農夫ハ草ヲ去ルカ如ク刈殺シテ積聚ム其根ヲ絶テ再ヒ生ゼヌヤウニ

スレバ稻デモ麥デモ能生長シテ豐熟ヲ得ルナリ善ハ稻麥惡ハ草ノ生ズルニ警言シナリ

取長葛經ニ冬ト有ハ冬告來リ也實ハ秋之ヲ取冬京師來告饑公為

之請糴於宋衛齊鄭禮也告饑不以王命故傳言京師而不書於經也雖非王命而公共以稱命己國不足旁請鄰國

故曰禮也傳見隱之賢此冬周ノ京ガ饑饉ニテ食糴ト乏

請ハレシナリ糴ハイリヨサト云字ニテ周ノ國ヘ米ヲ輸送スル義ナリ周ヨリ糴シテ魯ヘ糴スルヲ

ナリ魯一國デハ足ラヌ故夫王命ニハ非サレ共王命ト稱ヘテ鄰國ヘ糴ヲ遣シタルナリ夫ユヘ鄰國ノ齊鄭宋衛デモ皆米ヲ出セシユハニ周モ糴ヲ免レタリ

經ニハ無レトモ隱公ノ任カカガ宜シキ故ニ賢ヲ見ハサシガ為ニ

鄭伯如周始朝桓王也桓王即位周鄭

交惡至是乃朝故曰始桓王即位ノ後周鄭互ニ不和ナリ

王不禮焉周王尚前年ノ事ヲ懷リ

言於王曰我周之東遷晉鄭焉依周桓公周公黑肩也周

采地扶風雍縣東北有周城幽王為犬戎所殺平王東徙晉

幽王褒姒ヲ愛  
レ宜白ヲ退ケ  
伯服ヲ立テ諸  
侯遂ニ亂レテ  
犬戎ノ為ニ驅  
山ノ下ニ殺サ  
レシ事諸書ニ  
アレハ略シテ  
書セス、

文侯鄭武侯左右王室故曰晉鄭為依周桓公ハ周公且ノ

臣ナリ周王ハ申ニハ平王東遷ノ時晉文侯鄭武侯王

室ヲタスケ羽翼ト成テ忠勤ヲ盡シタリ幽王大戎ニ

殺サレシヨリ平王漸ク二國ニ善鄭以勸來者猶懼

不訛蕪至也況不禮焉鄭不來矣為桓五年諸侯從王

伐鄭傳周鄭相惡シキハ皆諸侯ノ知ル所ナリ今鄭侯來

諸侯ヲ來ス事ヲ勸ルワケニモナル然レ共猶至ラザ

ルヲ恐ル也況シヤ來レル者ヲ禮セザルニ於テ

又愈怒モヲ重ル也後鄭恐ラクハ再ヒ來ラザル也下

桓ノ五年ニ鄭ヲ伐ノ傳ノ是ニコトハ先ニ書シ置ナリ

**經** 七年春王三月叔姬歸于紀無傳叔姬伯姬之娣也至

是歸者待年於父母國不與嫡俱行故書婦人他ニ嫁スル

行嫡ハ本妻ナリ二年ノ經伯姬紀ハ歸久叔姬ハ幼

年ユヘニ父母ノ國ニノコリテ共ニ行カズ今年紀ニ

往シナリ 滕侯卒傳例曰不書名不同盟也滕國在沛國公

縣東南滕ハ姬姓文王ノ子錯叔繡之後武王之ヲ封シテ

東北城クハ城廓ヲ 齊侯使其弟年來聘諸聘皆使卿執

玉帛以相存問例在襄元年聘ハトブロウト云義玉帛ハ

格式アリテ大小多寡大率定メ有ナリ 秋公伐邾宋ト交リヲ厚セン

玉人職曰環圭  
瑋璧琮八寸以  
觀聘禮云八寸  
者蓋上公之臣

夫人ノ娣ノ尊  
キ一御ト同シ  
故ニ特書ス

天王使凡伯來聘。凡伯，周卿士。凡國，伯爵也。汲郡共縣東南

有凡城。周ノ卿士魯國へ聘戎伐凡伯于楚丘以歸。戎鳴

鐘鼓以伐天子之使。見夷狄強虺，不書。凡伯敗者，單使無衆。

非戰陳也。但言以歸，非執也。楚丘，衛地。在濟陰成武縣西南。

伐トハ、軍ニ鐘鼓ヲ用ルノ事、夷狄ニシテ天子ノ使者

ヲ伐ツ、其強虺ナルヲシメヌナリ、以テ歸ルトハ、

レテ歸リシナリ、使者ナレハ軍ノ用意モナク、人數モ

少シ、戎鐘鼓ヲ鳴シテ、國マバ手ヲ束テテ從フノミ、執

ヘラル、ハ、

モ同シ、

**傳**七年春，滕侯卒，不書名，未同盟也。凡諸侯同盟於是

稱名，故薨則赴以名，盟以名，皆神故也。薨亦以名，告同盟。

諸侯稱名，故薨則赴以名，盟以名，皆神故也。薨亦以名，告同盟。

以繼好，息民。告亡者之終，稱嗣位之主，嗣位之主當奉而不

忘。故曰繼好好同，則和親。故曰息民，謂之禮經。此言凡例。

乃周公所制禮經也。十一年不告之例。又曰不書於策，明禮

經皆當書於策。仲尼脩春秋，皆承策為經。丘明之傳，博采衆

記，故始開凡例，特顯此二句。他皆放之。死セラルハ、同盟相

子ヲソレクヘ又告ルハ、是アトハ好シキヲ繼テ義

左スレハ、下民モ安心シテ、降國ト爭戰ハ、愁無キ故ニ

正義曰：諸侯公侯伯子男三等之總稱，雖爵命少異，而俱是國君，故總稱諸侯也。

趙鵬飛曰今日為宋伐邾明日為鄭伐邾特以略故而邾橫罹其毒故終隱之生邾不復通於

民ヲ息ヘルナリ凡ソ周公ヨリ以來史ノ策ニ書スル者皆舊法アリテ周公ノ制スル所故ニ禮經ト云禮經トテ別ニ一書ハナキナリ夫子ソ春秋ヲ書スルハ皆策ヨリウケテ之ヲ添刪シ丘明ノ傳ハ博ク諸書ヲ參考シテ書ス故ニ凡例ヲ開キ審夏城中丘書不時也カニ述フ此句ノ如キ是ナリ

諸侯ヲ城ヲ築クハ民ノ耕作ノ間テ入夫ヲ集メテ役ニ使ス但シ不時ノ備ヲナスニハ其時ニ非ズニテ城ヲクテ齊侯使夷仲年來聘結艾之盟也艾盟在六年

前ノ六年ニ盟フタル約人違變セザルヤウニ固ムル也 秋宋及鄭平七月庚申

盟于宿八伐邾為宋討也公宋而更與鄭平欲以鄭為

援今鄭復與宋盟故懼而伐邾以宋故曰為宋討

魯

寺司也庭有法度今官所止皆曰寺釋名曰寺嗣也治事者相嗣續於其內

和睦ヲナシテ宿ニ於テ盟フタリ公ノ邾ヲ伐ツハ前年邾ガ紫内シテ鄭ヲ導キ城下マテモ押寄タルト甚々困メリ其時公へ援兵ノ請レシガ使者ノ失言ニヨリテ出サレズ夫ハ宋ノ不和ニ成タリ今鄭ト宋ト和睦シテ同盟セリ公亦宋ノ怨ミヲ懼レテ邾ヲ伐テ宋ト和セントノ思フナリ或ハ云鄭ヨリ魯ニ略ヲ納ルハト恐初戎朝于周發幣于公卿凡伯弗賓朝而クハ然ラン

發幣於公卿如今計獻詣公府卿寺幣ヲ公卿ニ發スルハ

凡ソ其產物ヲ獻納スル時重役人ノ処ヘソレク一物ヲ持テ至ルナリ公卿ハ三公九卿ヲ指テ云其時凡伯戎ヲ饗スルニ賓客ノアキラヒナヒリキ公府卿寺ハ三公九卿ノ居宅ナリ三公ノ居ル所ヲ府ト云九卿ノ居處ヲ寺ト云寺又冬王使凡伯來聘還戎伐之手役所ノ名前ニモ用ユ

趙ノ平原君ノ  
客毛遂カ楚ニ  
至テ盟フトキ  
ニ鶏狗馬ノ血  
ヲ取来レト云  
ガ如ク盟約ノ  
片ニハ、生物ノ  
血ヲ軟ルカ彼  
ノ國ノ重禮ナ  
リ

楚丘以歸傳言凡伯所以見伐。戎先年ノ怨ヲ釋カシガク  
ヘタリ陳及鄭平。六年鄭侵陳大獲今乃平。十二月陳

伯ヲ軟陳及鄭平。六年鄭侵陳大獲今乃平。十二月陳

五父如鄭蒞盟蒞臨也。壬申及鄭伯盟軟如忘志不在

軟血。陳鄭ト平クニ臨シテ、陳ノ五父鄭ノ國ヘ往テ鄭伯  
ト盟ヒテ為シタリ、凡盟ヲ為ス、牲ヲ殺シテ、表地鬼

神ヲ祭リ、血ヲス、リテ、變ゼサルヲ固ク、五父盟ニ臨  
シテ、志シ他ニ移リテ、志ル、ガ如ク、威儀ヲ謹マズ、恭

敬ヲ為サス、大事ノ場ニ臨シテ、更ニセザル也。洩伯曰五父必崇

免不賴盟洩伯鄭洩駕。鄭ノ大夫洩伯傍ニ在テ、五父ノア  
リシマ、見テ云ス、五父ハ終ニハ

禍ヲ免レザル者盟約ヲ賴、又致シ方、鄭良佐如陳  
ナリ、大事ノ義ヲトントモ心ハ子バ也、鄭良佐如陳

蒞盟。良佐鄭大夫。鄭ノ方ヨリセ、大夫良佐、  
ナル者ガ盟ニ往タリ、辛巳及陳侯盟

亦知陳之將亂也。入其國觀。以治。故總言之也。皆為相

五年六年陳亂。蔡人殺陳佗傳。鄭ノ大夫良佐、陳ニ往テ其  
政リ事等ヲ見ルニ、行留カ

又事ハカリ多ク、必ス後一亂ルヘ、ヲ知テ歸リ、是  
ハ桓ノ五年六年ニ蔡人陳佗ヲ殺ス。亂ヲ前書ニ傳

ニアラハ、鄭公子忽在王所。故陳侯請妻之。以忽有王

寵故。鄭ノ公子忽周王ノ傍ニ宮仕ヘヨレテ、王ノ氣ニ入  
リニテ、評判モ宜シキ人ユヘ、陳侯カ娘ヲ妻セ、ト

望メ、鄭伯モ喜コンテ、婚姻ヲナシタリ、是  
亦後ニ書スルコト有テ、コトハ出シタル也、鄭伯許之

乃成昏為鄭忽失齊昏。接以至出奔傳。後ニ忽カ出奔人  
ル事ヲ載ル發端

昏婚同シ字通



經八年春宋公衛侯遇于垂。垂，衛地。濟陰句陽縣東北有

垂亭。二君垂テ參會セシ事ヲ告三月鄭伯使宛來歸

祊。宛，鄭大夫不書氏，未賜族。祊，鄭祀泰山之邑。在琅邪費縣

東南。宛、大夫ナレ共、未タ族姓ヲ賜ハラズ、故ニ氏ヲ書

セズ、或ハ云フ氏ヲ書セザルハ、取スルナリ、祊ノ地

ハ、鄭、泰山ヲ祀ルノ處、鄭ノ都合ニヨリテ魯ヘ贈リ、地

ヲ易ヘタルナリ、只管利ヲ謀ルニアリ、故ニ大夫ヲ取

スト云庚寅我入祊。桓元年、ク卒易祊田、知此人祊、未

肯受而有之。祊、既ニ魯國ノ地ナリ、地ヲ檢査ニ往タリ、

然レ共、未タ受テ、レヲ我物トハセヌナリ、

夏六月己亥蔡侯考父卒。無傳。襄六年傳曰：杞桓公卒，始

赴以名同盟，故也。諸侯同盟稱者，非唯見在位二君也。與

其父同盟，則亦以名赴其子，亦所以繼好也。蔡未與隱盟，蓋

春秋前與惠公盟，故赴以名。考父ト名ヲ書スルハ、同盟ノ

惠公カ盟ヒレ事ト見ユ、夫故名ヲ書セシナリ、凡ソ同

盟ノ諸侯ハ、其盟ヒタル人ノミナラス、其子タリ共、名

ヲ告ケ、レラスルハ、後ノ好ミヲ繼シタメナリ、傳ニ無

辛亥宿男卒。無傳。元年宋魯大夫盟于宿，與盟也。晉

荀偃禱河，稱齊晉君名，然後自稱名，知雖大夫出盟亦當先

政可哀耳、

鄭釋泰山之祀  
已與食詩田之  
汲汲然魯安可  
不祀周公乎哀

中井履軒曰諸  
侯雖未同盟赴  
以名則書名是  
義也後屢見焉  
杜於是條獨臆  
斷春秋前事以  
立說何也

稱己君之名以啓神明故薨皆從身盟之例常告以名也傳

例曰赴以名則亦書之不然則否雖不敏也今宿赴不以名

故亦不書名諸例或發於始事或發於後者因宜有所異同

亦或丘明所得記注本末不能皆備故宿男卒下書也

宿元下盟約國二名書スベキノ處宿男卒下書也

告來ルニ名ヲ以テセザル故ニ史官名ヲ書セズナリ

春秋ノ例又丘明カ書スル片ハ始メニ云テ有ル

モアリ後ニ云フモアリソレニ異同スル所モアリ

丘明カ見タル記録中本末ソロハヌ事モアル

其マ書セテ故ニ一様無キ事モアル也秋七

月庚午宋公齊侯衛侯盟于瓦屋齊侯尊宋使主會故

宋公序齊上瓦屋周地宋齊衛ノ君ガ瓦屋ニテ盟ヒシ事

上ニ居ベキノ處此會ヲ主ハ宋公ナレバ宋ヲ上ニ

居ケリ宋ハ公ニテ五等ノ官ノ上席ニ居ル國ナレド

國ハ齊ニ比スレハ小サシ春秋ノ例ニ國ハ大小ヲ以

テ序ヲ為トアリサレバ官ノ尊卑ニカハラズ大小

ヲ以テ順序ヲ定ル例ナリ八月葬祭宣公無傳三月而葬速

月ニシテ本葬ヲナスナレド三月ニシテ葬九月辛卯

公及莒人盟于浮來莒人微者不嫌敵公侯故直稱公例

在僖二十九年浮來紀邑東莞縣北有邳鄉邳鄉西有公來

山號曰邳來邳莒ハ卿ナリ禮ニ卿ハ公侯ニ會セス伯子

男ニ會スルハ可ナリ此ハ莒人微者ナレ

杜註此參盟之始也有參盟然後有主盟

僖二十九年公會王子虎及諸侯之卿盟于

共公ヨリ會セントスルキハ、公侯ニ對スルヲ嫌  
ハザルナリ、莒人ト云ハ、敗スル辭ニハ非ナリ  
傳為災、尺蠖アリト書スルト  
冬十有二月、無駭卒、公不

與小斂、故不書日、卒而後賜族、故不書氏、  
二年ニ軍ヲ率テ、  
極ニ入リシ人ナ

リ、此時未タ族ヲ賜ハラズ、  
故ニ氏ヲ書セザルナリ、

傳八年春、齊侯將平宋衛、於鄭、  
齊侯ノ周旋ニテ、  
宋衛ノ不和ヲ睦

シウセン  
ト謀ルニ有會期、宋公以幣請於衛、請先相見、宋敬

齊命、衛侯許之、故遇于犬丘、犬丘、垂也、地有兩名、  
齊侯ヨ  
リ會ス

ル期日ヲ定メラレタリ、宋公齊ノ命ヲ重シシ、先ツ使  
者ヲ立テ、進物ヲ贈テ衛公ニ見ヘシ、コヲ請ヘリ、因テ

安井衛曰、鄭釋  
泰山之祀而祀  
周公、則魯亦廢

周公在許之祀  
矣、鄭蔑玉魯輕  
祖、其罪維均、而

經傳皆以鄭為  
文者、禮讓國惡  
立言之體、不得

不然、

衛公ト犬丘ト云  
所ニテ遇シナリ、鄭伯請釋泰山之祀而祀周公、以泰

山之祊、易許田、二月、鄭伯使宛來歸祊、不祀泰山也、成

王營王城、有遷都之志、故賜周公許田、以為魯國朝宿之邑、

後世因而立周公別廟焉、鄭桓公、周宣王之母弟、封鄭、有助

祭泰山、湯沐之邑、在祊、鄭以天子不能復巡狩、故欲以祊、易

許田、各從本國所近之宜、恐魯以周公別廟為疑、故云已廢

泰山之祀、而欲為魯祀、周公孫辭、以有求也、許田、近許之田、

鄭伯兼テ許ノ田ノ近クニアリテ、祊ノ地ノ遠クニ在  
ルヲ易ヘシトスルノ意アル許ノ田ハ成王ヨリ周公

王制曰朝宿之邑亦名湯沐但向京師主朝王從巡守主助祭祭必沐浴隨事立名互言之耳後世湯沐之邑ヲ隱居料ト同ニヤウニ解スルハ誤リ也

へ賜リテ參觀ノ時入用ニ成シタルナリ夫エヘ周公ノ廟モ祀リテアリ鄭公タゞ易シト云ヘハ疑レシトヲ思ヒ先ツ泰山ノ祀リヲステ、周公ヲ祀リ許ト祊ト易ヘントヲ望メリ泰山ハ鄭ノ祭ル可キ為メニ祊ト云地ヲ付屬レテ湯沐ノ邑祭祀雜費ニ充ツヘキノ地トナシ置ケリ各本國ニ近キ野ナレハ萬事都合ノヨキ事ユヘ祖先ヨリ傳ハリタル大切ナ祭リヲ捨テ便ヲ謀ラントスルナリ孫ハ遜ト同レ事ニテヘリクダルト云意鄭公ヨリ辭ヲ昇ノレテ魯ヘ請ヘル也祖レ古ヘノ如ク天子ノ巡狩等アレハ勝手ニ易ル事ナトハ出來難ケレ共當時周ノ天子勢ヒ微弱ニレテトテモ巡狩ナドハ思モヨラヌ事トヘ互ニ都合ノヨキ事ヲ謀リシナリ

**夏虢公忌父始作卿士于周**周人於此遂界之政遂ニ政事ヲ司ト四月甲辰鄭公子忽如陳逆婦

媯辛亥以媯氏歸甲寅入于鄭陳鍼子送女先配而後

祖鍼子曰是不爲夫婦誣其祖矣非禮也何以能育鍼

子陳大夫禮逆婦必先告祖廟而後行故楚公子圍稱告莊

共之廟鄭忽先逆婦而後告廟故曰先配而後祖鄭ノ公子當時勢イ

ノヨキ人ユヘ陳ヨリ媯ヲ結ンテ媯ニレタリ公子陳ヘ行テ媯氏ヲ連レ來レリ陳ノ鍼子大夫ナレハ媯ヲツレテ鄭ヘ至リ婚姻モ濟シガ公子ノ禮ニカナハヌ事ヲ譏リテ云永ク夫婦トナリテ養育スル事ハアルマシ凡ソ媯ヲ為スニハ先祖ノ廟ヘツケテ後ニ迎ヒニ行ベキヲ媯ヲ連レ歸リテ後ニ祖廟ヘ告タリ是其先祖ヲ誣ルワケナリ誣ハ無理ヲレツケト云義ニテ輕侮スル意ナリ楚ノ公子ハ莊王共王ノ廟ニ告ル君

杜注娶妻本為繼宗守祀計今誣其祖則不為祖宗所佑何以能生育乎

子孫ヲ生育スル義ナリ

命ヲ禀ル事ヲ言ハス、婦ヲ迎ルモノハ、父命ヲ受ルト雖モ、先ツ廟ヘ告ベキ事ヲ、楚ノ公子ヲ引テ證スル之

齊人卒平宋衛于鄭秋會于溫盟于瓦屋以釋東門之

役禮也會溫不書不以告也定國息民故曰禮也平宋衛二

國忿鄭之謀鄭不與盟故不書前ノ東門ノ軍ノ怨ニテ釋

定メ民ヲ息ハシムル禮ナリト云鄭ハ盟約ニ與カラザレハ、書セザルニ八月丙戌鄭伯

以齊人朝王禮也言鄭伯不以虢公得政而背王故禮之

齊稱人略從國辭上有七月庚午下有九月辛卯則八月不

得有丙戌鄭伯ハ虢公ガ王家ノ政事ヲ執ラレシヲ以テ、快ヨカラザレト、齊人ト共ニ王ヘ朝セシハ禮

杜氏長曆ヲ以テ推スニ丙戌ハ七月二十日ニ當ルユヘニ八月ニ丙戌ナリ八月ハ丙午

カ丙辰ナルハ

ニカナヒタル事ナリ、齊人ハ齊侯ナレトコ、ニテ人ト云ハ、魯國テ言ヒレ辭バニ從ツテ書セシナリ、案ス

ルニ齊侯、宋衛ヲ鄭ニ平ラク、鄭伯是ヲ以テ齊侯ト共ニ王ニ朝ス、諸侯、王ヲ敬フノ禮ナリ、虢公ノ政ヲ執ル

執ラヌニ關スル事ナシ、故ニ之ヲ禮スルトハ、鄭伯怨ミズ、怒ラズシテ朝スルヌ王喜ンテ禮ヲ篤フスル意

ニアタレリ、杜注穩ヤカナラズ、誤日ノ解ノ明ナルニ似ズ、公及昔人盟于浮來以

成紀好也二年紀莒盟于密為魯故今公尋之故曰以成紀

好二年、魯ノ為ニ盟ヒレ故ニ、異心ナキヲ共ニツグナリ冬齊侯使來告成二國齊

侯冬來告稱秋和三國冬齊侯ヨリ、三國平ヲキレ事ヲ告來タリ、杜注ニ齊侯自ラ來リレヤ

ウニ書ケリ、傳ニ告ケ使ルトアリ、杜注精レカラズ、秋三國ヲ平ケシテ冬ニ至リテ告ケ來レルナリ、公

春秋左氏傳

卷一

林注齊使人來告告秋已為宋衛鄭結歲公使來仲對注對答齊使此注明ラカナリ杜注分

明ナラス對語  
君釋三國之圖

君字ニ惑テ  
齊侯冬來ト書  
セレナリ

使衆仲對曰君釋三國之圖以鳩其民君之惠也公大夫ノ衆仲ニ對

聞命矣敢不承受君之明德鳩集也。公大夫ノ衆仲ニ對

使ヲ遣ハセシニヨリ魯ニテモ公自ラ達ハス大夫ヲ

使フテ對ヘシムルナリ圖ハ三國共ニ相圖ルノ患ヲ

釋テ離散シタル民ヲ皆モトヘ集ルハ齊君ノ惠ナリ

寡君ハ魯ノ臣我君ヲ指ス辭敢テハイカデカ君ノ明

德ヲ仰キ受ケザル事ノアルベキヤト云意ナリ明德

ハ大學ノ明德ト同シ事ニテ禮義修明ヲ云ヒ民ヲ愛

以長ヲ敬スルヲ云ヒ周季侯所謂仁義禮智之總名也

朱子大學明德ノ解少シク異ナリ太田錦城大學原解

及ヒ九經談等無駭卒羽父請諡與族公問族於衆仲

衆仲對曰天子建德立有德以為諸侯以為諸侯羽父同役ノ事ユ

請レタリ公衆仲ト談ズ衆仲公ニ對ヘテ曰因生以

賜姓因其所由生以賜姓謂若舜由媯汭故陳為媯姓其生

所ニヨリテ天子ヨリ姓ヲ賜ルナリ舜ハ庶人タリシ

時媯汭ニ居ル其後姓ヲ媯ト為ス武王殷ニ克テ媯滿

ヲ陳ニ封シ舜ノ後裔ナルヲ以テ媯姓トナシタリ

胙之土而命之氏報之以

土而命氏且陳胙ハヒモロキト云テ祭リノ内也コトニ

名ヲ以テ氏諸侯ヲ土地ニ封スルヲ云封シテ土地ノ

氏其王父字ノ事周時代ニ在リシ事ニテ後世諸家ノ說

阮元云文選陸

士衡詩注引胙

作胙土上有以

宗業胙者祚之

晉語稱黃帝之子二十五人其得姓者十二人天子之子尚不得姓况餘人哉

安并衡曰公子之孫以王父字

為氏禮有明文無駭既不賜氏蓋生時稱公孫後世有公孫氏者蓋其類也仲尼脩春秋以其非禮削而不書耳

ヲ賜フハ則チ源平藤橘ノ如キモノ秀吉公姓ヲ賜ヒテ豐臣ト云其後復姓ヲ賜ノ事ヲ聞カス土地ノ名ヲ以テ氏トスルハ北條足利新田徳川等其地ニヨリテ名付シナリ

為謚因以為族或

便即先人之謚稱以為族。先祖或ハ父ノ謚ニヨリテ族ヲ為ス此注亦是ナラス族ハ屬ナ

ル其子孫共ニ相連屬スルモノ其旁支別屬ハ又各々自ラ氏ヲ立ルナリ氏族ハ一ナリ分テ云片ハ氏ト云合テ云片ハ族ト云内藤近藤齊藤工藤ハ氏ナリ而レテ皆藤原姓ノ族ナリ一條九條ト云ヘルモ土地ノ名ヲ以テ氏ヲ分テ唱フルニ謚リ名ヲ作リ又其功ニヨリテ族ヲ賜ルナリ

官有世功則有

官族邑亦如之謂取其舊官舊邑之稱以為族皆稟之時

君。舊邑ノ稱ハ前ニ説ク舊官ヲ以テ族ト為スハ總ヘハ公孫氏叔孫氏季孫氏ノ如ク又世功アル者ハ官ヲ以

テ氏ト為ス我國ニテモ太宰大貳縣等ノ如キヲ云然レ共周時ノ制大ニ廢シ隱公モ其事ヲ知ラザルユハニ衆仲ニ問ハレシナリ無駭ハ公子ニシテ死シテ後初メテ氏ヲ得ルノ理ナシ今ニテハ上下皆氏ヲ稱スレトモ徳川氏ノ時ハ農工商ノ三民ハ氏ヲ稱スルヲ許サレズ有功者ハ苗字ヲ許サレシノミ三民ノ苗字ヲ名ノルモノハ土地ニテモホユリタルナリ族ヲ賜フハ將軍家カ大名ノ他姓ノ臣ヘモ松平ノ氏ヲ賜ヒシ如キモノ

公命以字為展氏諸侯之子稱公子公子之子

稱公孫公孫之子以王父字為氏無駭公子展之孫故為展

氏。公子展宗家ニ勤功アリシ人夫ユヘ祖父ノ字ヲ以テ展氏ト名ケラレタリ前ニ族ヲ請トアリコハ展氏ト為トアリ然レハ族モ氏モ同一ナリ察スルニ漢土ニテハ養子ト云フ無ユヘニ男子多キ片ハ各々分家

レテ門戸ヲ構フ夫エハ一姓ニシテ氏ヲ面々ニ付ル也。是モ私シニ名付ル事ナラヌエハ公命ヲ稟テ名ノルナリ。無駭ノ一家ヲ展氏ノ族ト唱ヘ、勳功有ル者アリテ、兄弟多クシテ他ヘ分家スル時ハ又族姓ヲ請テ別ニ名ノルトミヘタリ。但シ是等ノ事孔子ノ時ニ亂レテ、タシカナラス、夫エハ只名ノミ書シテ置レタリ。漢以來愈々知ル者久諸儒臣々ノ説ヲ為スニ至レリ。

**經**九年春。天子使南季來聘。無傳。南季。天子大夫也。南

氏。季字也。天王ハ東周ノ桓王ナリ。魯三月。癸酉。大雨。震

電。庚辰。大雨。雪。三月。今正月。周ノ三月ハ夏曆ノ正月ニ

夏曆ヲ用ユ。故ニ今ト云フ。震ハ大雷ナリ。電ハイナクマ、僖公十五年ニ震。夷伯之廟ト云。大雷カ墮テ廟ヲ毀

正義曰。說文。震。發聲。震物者。電。陰陽激耀也。何休曰。震雷也。雷之甚者為震。此段天變ヲレセルナリ。

チシナリ。大ニ雪ヲフラスト云ハ、連日降續ケ共、隨テ解レニヘ積モラザル也。大雪ト書スル時ハ、尺ニ滿ギレハ云ハズ。傳。挾卒。無傳。挾。魯大夫。未賜族。大夫ナレ共ニ解アリ。子バ、單ヘニ名ノ夏城。郎秋。七月。冬。公會齊侯于防。防。魯地。在瑯邪華縣東南。齊公ト會スルハ、宋ヲ伐タンガ為メナリ。傳ニ詳ナレハコ、ニ略ス。

**傳**九年春。王三月。癸酉。大雨。霖。以震。書始也。書。癸酉。始

雨。日。癸酉ノ日ヨリ降ハシ。庚辰。大雨。雪。亦如之。書。時失

也。夏之正月。微陽始出。未可震。電既。震。電又不當。大雨。雪。故

皆為時失。夏ノ正月ニ當リテ、微陽始テ出ス。春氣少シク發動スル時、未夕雷ヲ發スルノ時ニ非ス。又既

爾雅云。久雨謂之淫。淫雨謂之霖。東條一堂曰。大雨霖。句以震書始也。初ノ震。テ後霖雨トナルニ是説是ニ



雷ヲ發スレバ後ニ雪ヲ降ラスベカラズ、今雷鳴甚シク大雨ノ後ニ寒氣サヘカヘリテ、雪ヲ降ラス、是陰陽時ヲ失フナリ、**凡雨自三日以往爲霖**此解經書霖也而經

**無霖字經誤**

霖ト云ス、傳ニ霖以テ震ストアルハ、經文モ亦如是ナルベキヲ、傳寫ノ誤謬ニテ、以震ノ二字ヲ去テ、妄リニ電字ヲ加ヘシナリト云、左氏ノ霖字ヲ解スル、蓋シ經文ニ由テ書スルモノ、此論諸說アリ、案スルニ霖レテ以テ震ストハ、霖雨中日々震スルガ如シ、大雨震電ストハ、一時ニ限レルガ如シ、震豈霖雨ト共ニ日々激耀スルヲアラキ然ラハ、則左氏經文ヲ改書シテ霖字ヲ加ルモノ、杜注霖字ニヨリテ經ノ誤寫ヲ摘發スルモノナリ、**平地尺爲大雪**是ハ大雪ト云ハ尺ヨリ以上ナラデハ書スト云例ヲ出セリ

呂大圭曰、春秋因其所書日月前後而知其是非、如癸酉大雨震電、庚辰大雨、實則有以具八日之間而再見天變也、若此類蓋予書目見之

**夏城郎書不時也**

人夫ヲ集メテ城ヲ築クハ、農業ノ閑ガキキ時、人夫ヲ使役スレバ、**宋公不王**不共王職、勤ヲ致サヌ、

**鄭伯爲王左卿士以王命討之伐宋宋以入郟之役怨**

**公不告命入郟在五年公以七年伐郟欲以說宋而宋猶不**

和也、時ニ鄭伯、王ノ左卿士ト爲リテ、王命ヲ以テ宋ヲ討シタリ、宋ハ前年郟ニ入ルノ時、使者ノ口上ノ違

ヒニヨリテ、魯ヨリ援兵ヲ出サリシエ、宋公魯ヲ怨シテ、此度ノ事ヲ告命セザリシナリ、後ニ鄭ヨリ告ケ

**公怒絕宋使**

公モ怒テ、以來宋ヨリ秋鄭人以王命

**來告伐宋遣使致王命也伐宋未得志故復更告之**

鄭人周王

王念孫曰、諸侯見於天子曰王、王之言往也、往見於天子也、宋公不王猶言宋公不朝

命ヲ以テ魯ヘ來リ更メテ宋ヲ伐ント告ク如勢  
ノ兵ヲ出サシメンコトヲ請フ是ハ初伐ニ未タ志シテ  
得ス十分ニ勝利ヲ

得ザリシユヘナリ冬公會齊侯于防謀伐宋也  
齊公  
ヲ伐ントラ

北戎侵鄭鄭伯禦之患我師曰彼徒我  
談スルナリ

車懼其侵軼我也徒步兵也軼突也  
北方ノ戎ガ鄭ノ國  
ヲ侵セリ鄭伯患テ

曰ク戎ハ徳タチノ戰ニ馴テ自在ニ働ク故  
ニ車軍ヲ突擊シテ討シコトヲ懼ルト云フ公子突曰

使勇而無剛者嘗寇而速去之公子突鄭厲公也嘗試也  
勇則能往無剛不取退

公子突ノ曰久勇ニシテ剛無者ヲ  
擇ンテ云々ト勇ハ血氣ニハヤル  
若士ナリ剛ハ大勇ニテ一步モ退カヌト云氣象ノ者  
コ、ノ計ハ退テ伐ツノ意ユヘ大勇ノ者テハ少シ為

君爲三覆以待  
シニクキ事ユヘ勇ニシテ無剛ノ者  
ヲ擇ミシ也ムツカレキ擇ミナリ

之覆伏兵也君ニハ三伏ノ兵ヲ  
潛メテ待テトナリ我輕而不整貪而無親

勝不相讓敗不相救先者見獲必務進進而遇覆必速  
勝テ

奔後者不救則無繼矣乃可以逞逞解也  
我ハ輕卒ニ  
シテ隊伍整

ハス得ルコトヲ貪テ相互ニ親ミナシ勝テモ相讓ルコ  
タク敗レテモ互ニ救フ事ナク先ニ進ミシ者獲ル所

アレハ後ナル者皆進ンテ來ル伏兵ニ遇ヘハ必ス奔  
ラン後ナル者救ハザレハ軍ヲ繼クコトナシ速ニ解散

セシムマキナリ林注乃可以快志於我逞ハ快也安井  
衡曰得心所欲謂之逞焦循逞訓解本方言也ト當ラサ

ルニ似タリ他所ニ逞ト云所皆快ニ  
當ル只此處解トナスハ通セザルニ從之鄭公其言  
從之ニ從フ

穆文熙曰子突  
深知虜情今日  
禦北虜之法當  
依之行之即兵  
法所謂奇兵也  
以少擊衆之法  
無踰于此

人之前遇覆者奔祝聃逐之。祝聃鄭大夫。衷我師前後

擊之盡殫。為三部伏兵。祝聃帥勇而無剛者。先犯我而速

奔。以過二伏兵。至後伏兵起。我還走。祝聃反逐之。我前後及

中。三處受敵。故曰衷我師殫死也。敵ヲ欺テ遠方ヘ誘イ出

ル者ノスル所ナリ。若勇ニシテ剛ナレハ。敵ニ臨テ退

カス。死シテ後ニ休ス。如是ナル時ハ却テ功少シ。第二

伏兵ヲ過スマテ奔リ。忽チ三面ヨリ取圍ンテ討ツ。漏ス所ナレ

我師大奔。後駐軍不復

繼也。奔リテ後繼十一月甲寅。鄭人大敗我師。此皆春秋

時事。雖經無正文。所謂必廣記而備言之。將令學者原始要

終。尋其枝葉。究其所窮。他皆放此。此シハ上傳ニ擊トコロ、

史官其戰狀ヲ得テ裁約シテ為ルノ文辭ナリ。此類經文ニ書セザルユヘ

ニ、經文ニ準シテ、文ヲ作りテ之ヲ總アルナリ。

十年春。王二月。公會齊侯鄭伯于中丘。傳言正月會

癸丑。盟釋例推經傳。日月癸丑。是正月二十六日。知經二月

誤。二月公中丘ニ會セシハ、宋ヲ伐ノ談シナリ。夏翬帥師會齊人鄭人伐宋。公

子翬不待公命而貪會二國之君。疾其專進。故去氏。齊鄭以

公不至。故亦更使微者從之。伐宋不言。及明翬專行。非鄧之

春秋左傳卷一

月日ノ誤リハ魯ノ史官ヨリ誤リ傳ヘレ事ユヘ夫子モ其マ、書置シナリ、杜氏曆法ニ詳カナレハ一是ヲク、セ

ルナリ左氏モソレマテハ千

謀也。及例在宣七年。公子翬公命ヲ禀スシテ、妄リニ齊鄭二國ノ衆ト、宋ヲ伐チレナリ、翬ハ侯

七十

カ属カサリシ  
ナリ

伯ト肩ヲ並フベキモノニ非ルニ、其會ニ連リテ、軍ヲ  
セシメテ望ム、戰ヲ好ム、人ナレハナリ、故ニ專進ヲ  
ニクンテ、族ヲ去テ書セリ、齊鄭モ亦隱公自ラ進マヌ  
故ニ、微臣ヲ出シテ宋ヲ伐シメタリ、是ハ鄧ニテ會セ  
シ三公ノ謀ニ非ルヲ明シ  
テ及ノ字ヲ用ヒザルナリ

六月壬戌公敗宋師于菅

齊鄭後期故公獨敗宋師書敗宋未陳也敗例在莊十一年

菅宋地。齊鄭ト約シタル日ニ出合サル故ニ、公獨リ手勢  
ヲ引テ、宋へ押出シ、宋軍ノ未タ備ヘラザル先

ニ擊敗リ、辛未取郟辛巳取防鄭後至得郟防二邑歸  
シナリ

功于魯故書取明不用師徒也濟陰成武縣東南有郟城高

平昌邑縣西南有西防城鄭ノ軍後レテ來リ郟防ノ二邑  
ヲ取リタレド、功ヲ魯へ歸シタ

リ魯ハ手モヌラサス、取シユヘ、取ト  
書シテ、師徒ヲ勞セヌヲ明セシナリ、秋宋人衛人入

鄭宋人蔡人衛人伐載鄭伯伐取之三國伐載鄭伯因

其不和伐而取之書伐用師徒也書取克之易也載國今陳

留外黃縣東南有載城三國ノ兵載ヲ伐シ時鄭伯三國  
ト和セザルユヘニ進ニテ三師ヲ

伐キ、載ヲ速カニ取タリ、冬十月壬午齊人鄭人入郟

取トハ速ニ易キヲ云フ、郟ハ小國ナリ、二國ノ師入テ討  
シハ、王命ニ違ヘルヲ以テナリ、

十年春王正月公會齊侯鄭伯于中丘癸丑盟于鄧

爲師期尋九年會于防謀伐宋也公既會而盟盟不書非

安井案曰為師  
期未必要盟先